

# 1. 報告書

1. 業務件名 平成26年度原子力施設等防災対策等委託費(環境放射線モニタリングシステム等の運用・保守管理)事業
2. 業務場所 鹿児島地方放射線モニタリング対策官事務所
3. 業務期間 対策官事務所における作業 : 平成27年3月2日～平成27年3月26日  
弊社事務所における事務作業 : 平成27年3月27日～平成27年3月31日
4. 業務実施者 責任者 株式会社アトックス川内事業所 片岡 裕幸  
現地作業員 株式会社アトックス玄海事業所 田崎 浩一
5. 業務概要 業務仕様に基づき、次に示す業務を実施した。
- a) 閲覧端末の運用・保守点検・維持管理に係る業務
    - ・ 閲覧端末の設置
    - ・ 閲覧端末の日常点検の実施
    - ・ 閲覧端末の専門業者による詳細点検への対応及び障害対応
    - ・ 種々点検及び障害対応を効率的に実施するための改善提案
  - b) 環境放射線モニタリングに用いる機器の運用・保守点検・維持管理に係る業務
    - ・ 放射線測定業務
    - ・ 放射線測定機器の日常点検の実施
    - ・ 放射線測定機器の専門業者による詳細点検への対応及び障害対応
  - c) システム及び機器に必要な簡易マニュアルの作成
    - ・ 閲覧端末の保守点検・維持管理に係るマニュアル素案作成
    - ・ 放射線測定機器の保守点検・維持管理に係るマニュアル素案作成
    - ・ モニタリングカーの保守点検・維持管理に係るマニュアル素案作成
  - d) その他必要事項
    - ・ 原子力発電所の事故等の緊急事態が発生した場合、閲覧端末の起動・操作・障害発生等の対応について、対策官へ助言する。
6. 業務工程実績 工程実績表のとおり
7. 業務概要に基づく実績 業務実績一覧のとおり
8. 成果物
- ・ 次ページの文書体系で要領書等の文書及び様式を作成した
  - ・ 作成した文書及び様式のデータファイルをCD-ROMに記録した
  - ・ 作成した文書及び様式は添付のとおり

1. 契約書上の提出項目について

a) 閲覧端末の運用・保守点検・維持管理に係る業務

閲覧端末の設置	実績に記載の通り
閲覧端末の日常点検の実施	
閲覧端末の専門業者による詳細点検への対応及び障害対応	
種々点検及び障害対応を効率的に実施するための改善提案	

b) 環境放射線モニタリングに用いる機器の運用・保守点検・維持管理に係る業務

放射線測定業務	実績に記載の通り
放射線測定機器の日常点検の実施	
放射線測定機器の専門業者による詳細点検への対応及び障害対応	

c) システム及び機器に必要な簡易マニュアルの作成

閲覧端末の保守点検・維持管理に係るマニュアル素案作成	成果物「G」に該当
放射線測定機器の保守点検・維持管理に係るマニュアル素案作成	成果物「B～E」に該当
モニタリングカーの保守点検・維持管理に係るマニュアル素案作成	成果物「F、H」に該当
全体を統括したマニュアルが「A」に該当	

d) その他必要事項

原子力発電所の事故等の緊急事態が発生した場合、 閲覧端末の起動・操作・障害発生等の対応について、対策官へ助言する。	実績に記載の通りで、 成果物「I」に該当
--	-------------------------

# 工程実績表

平成26年度原子力施設等防災対策等委託費(環境放射線モニタリングシステム等の運用・保守管理)事業

業務内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
1 閲覧端末の運用・保守点検・維持管理に係る業務																
2 環境放射線モニタリングに用いる機器の運用・保守点検・維持管理に係る業務																
3 システム及び機器に必要な簡易マニュアルの作成																
4 その他必要事項																
5 報告書の作成																
業務内容	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
1 閲覧端末の運用・保守点検・維持管理に係る業務	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
2 環境放射線モニタリングに用いる機器の運用・保守点検・維持管理に係る業務																
3 システム及び機器に必要な簡易マニュアルの作成																
4 その他必要事項																
5 報告書の作成																

現地対策官事務所への勤務時間帯 : 平日8:30 ~ 17:30 (休憩:12:00 ~ 13:00)

3月2のみ9:30 ~ 18:30 (休憩:12:00 ~ 13:00)で勤務した

# 業務実績一覧

業務仕様にに基づき、次に示す業務を実施した。

なお、主要業務は現地対策官と打ち合わせにより、手順書の作成を主体に実施した。

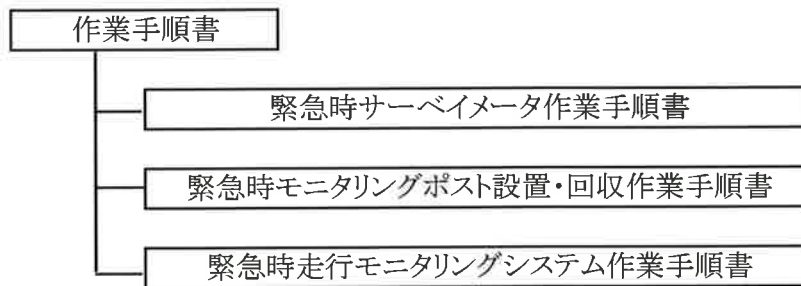
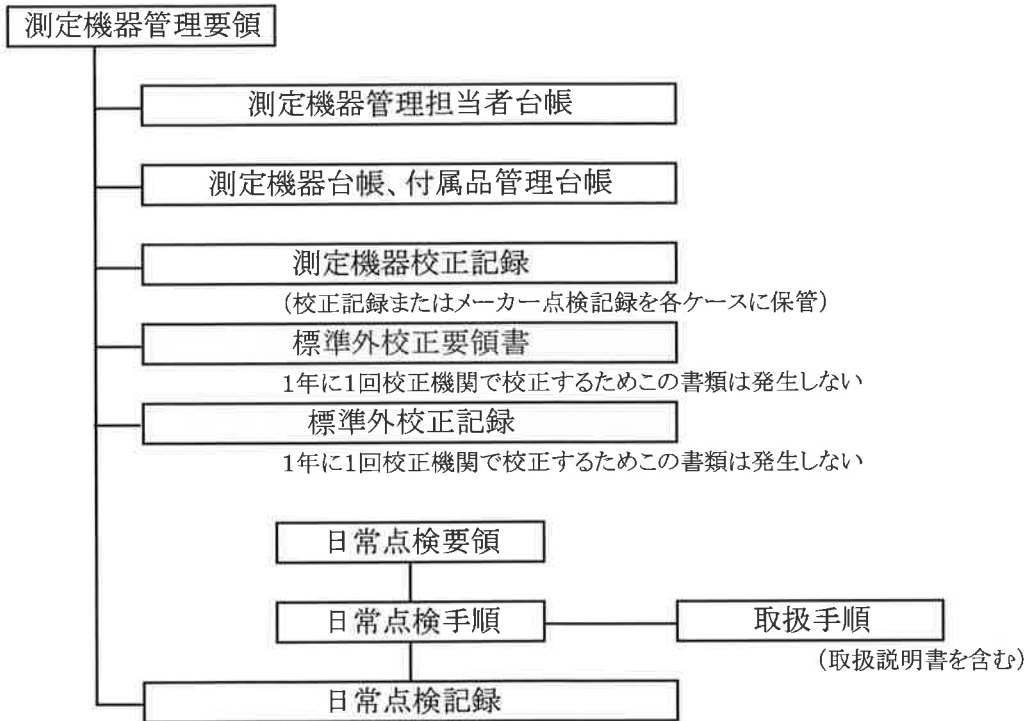
<b>a) 閲覧端末の運用・保守点検・維持管理に係る業務</b>
<b>【閲覧端末の設置】</b> 3月2日の委託業務開始日において、全て設置されている状況にあり、これについて作業する事はなかった。
<b>【閲覧端末の日常点検の実施】</b> 委託業務期間中の点検は、閲覧端末からの接続確認と表示確認について実施した。
<b>【閲覧端末の専門業者による詳細点検への対応及び障害対応】</b> (障害1) ラミセス端末パソコン2台について、「衛星通信網利用」のアイコンがなく、インストールがされていない模様。屋上にて衛星接続試験を実施したが、接続することができなかった。 (モバイル接続は正常) (障害2) 付属のGPSレシーバについて、データ管理ソフトがインストールされてなく、また取扱説明書にも明記されていないため、運用法が不明である。  いずれの障害についても現地対策官と協議の結果、現時点における専門業者への対応は控え、状況を本庁等とすり合わせの上対応するとのことにより、報告に留める。
<b>【種々点検及び障害対応を効率的に実施するための改善提案】</b> 情報入力因子として位置情報があるが、緊急時測定の現場状況を考慮すると、ハンディーGPS装置(その場で情報を目視できるもの)の配備が望ましい。
<b>b) 環境放射線モニタリングに用いる機器の運用・保守点検・維持管理に係る業務</b>
<b>【放射線測定業務】</b> 測定頻度については、対策官と打ち合わせの上実施した。 3/2 走行モニタリングシステムの保守運転 3/5 簡易モニタリングポストの保守運転 3/12 走行MS車の遮蔽係数算出データ取得のため、周辺地域4か所計24測定点について測定。なお、測定結果は対策官が別途にまとめられた。 3/20 ラミセス衛星回線接続試験
<b>【放射線測定機器の日常点検の実施】</b> 3/10 NaI,GM,電離箱サーベイメータ6器 日常点検におけるBG測定 3/23 電離箱式サーベイメータ位置情報確認測定
<b>【放射線測定機器の専門業者による詳細点検への対応及び障害対応】</b> 測定機器に関して故障等の障害はない。 2台のGMサーベイメータの指示値に1.5倍程度の差があるが、絶対値評価の機種ではないので、経過観察とした。

c) システム及び機器に必要な簡易マニュアルの作成
<b>【閲覧端末の保守点検・維持管理に係るマニュアル素案作成】</b> 点検要領、点検手順、点検記録について作成
<b>【放射線測定機器の保守点検・維持管理に係るマニュアル素案作成】</b> 測定器管理要領、放射線機器管理担当者台帳を作成 測定機器管理台帳、測定器付属品管理台帳を作成 点検要領、点検手順、点検記録、取扱い手順について、サーベイメータ3種について各々作成
<b>【モニタリングカーの保守点検・維持管理に係るマニュアル素案作成】</b> 点検要領、点検手順、点検記録、取扱い手順について作成
d) その他必要事項
<b>【緊急時作業手順書の作成】</b> 緊急時サーベイメータ作業手順書を作成 緊急時モニタリングポスト設置・回収作業手順書を作成 緊急時走行モニタリングシステム作業手順書を作成 緊急自動車点検手順 他9種類の自動車管理関係様式を作成(一部既存様式)

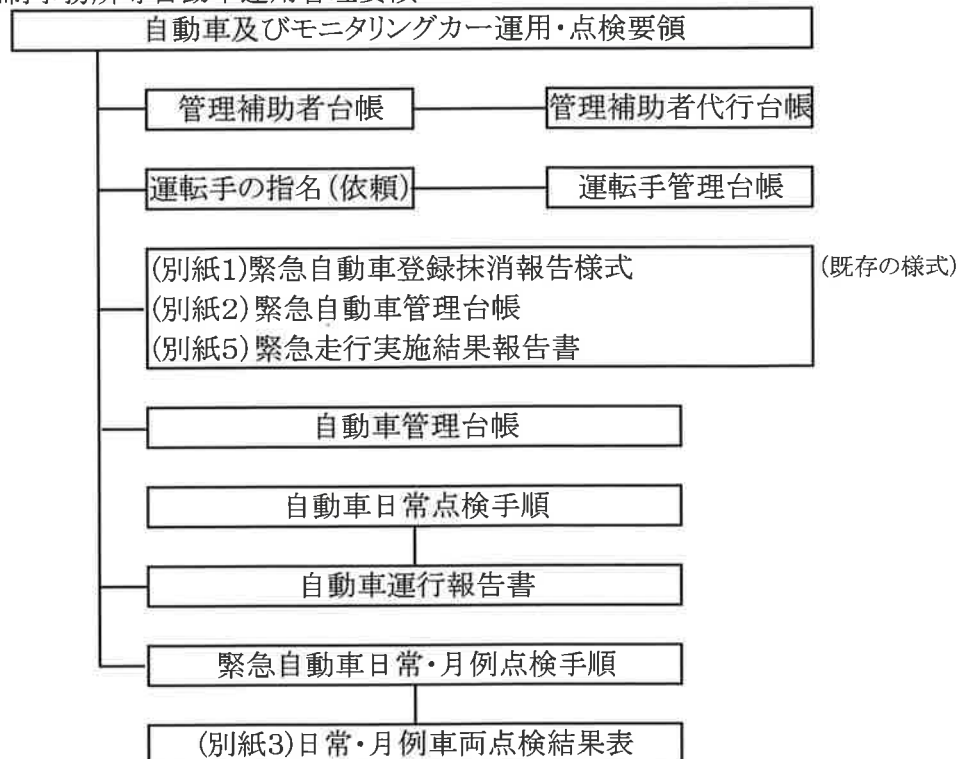
以上の全業務実績について、現場対策官の承認を得た。

## 2. 成果物

# 文書体系



## 原子力規制事務所等自動車運用管理要領





# 添付文書目次

見出し番号	文書・様式名称	枚数
A	測定機器管理要領	4
	測定機器管理担当者台帳	1
	測定機器管理台帳	5
	測定機器付属品管理台帳	8
	機器管理台帳	2
B	NaIサーベイメータ日常点検要領	2
	NaIサーベイメータ日常点検手順	7
	NaIサーベイメータ日常点検記録	3
	NaIサーベイメータ取扱手順	6
C	GMサーベイメータ日常点検要領	2
	GMサーベイメータ日常点検手順	7
	GMサーベイメータ日常点検記録	3
	GMサーベイメータ取扱手順	6
D	電離箱式サーベイメータ日常点検要領	2
	電離箱式サーベイメータ日常点検手順	7
	電離箱式サーベイメータ日常点検記録	3
	電離箱式サーベイメータ取扱手順	5
E	簡易モニタリングポスト日常点検要領	3
	簡易モニタリングポスト日常点検手順	6
	簡易モニタリングポスト日常点検記録	6
	簡易モニタリングポスト取扱手順	22
F	走行モニタリングシステム日常点検要領	2
	走行モニタリングシステム日常点検手順1	14
	走行モニタリングシステム日常点検手順2	3
	走行モニタリングシステム日常点検記録1	3
	走行モニタリングシステム日常点検記録2	1
	走行モニタリングシステム取扱手順	12
G	モニタリング情報共有システム日常点検要領	2
	モニタリング情報共有システム日常点検手順1	5
	モニタリング情報共有システム日常点検手順2	3
	モニタリング情報共有システム日常点検記録1	3
	モニタリング情報共有システム日常点検記録2	1
H	自動車及びモニタリングカー運用・点検要領	3
	管理補助者台帳、管理補助者代行台帳	2
	運転手の指名(依頼)様式	1
	運転手管理台帳	1
	自動車管理台帳	1
	(別紙1)緊急自動車指定抹消報告様式	1
	(別紙2)緊急自動車管理台帳	1
	(別紙5)緊急走行実施結果報告書	1
	自動車日常点検手順	3
	自動車運行報告書	1
	緊急自動車日常・月例点検手順	5
	(別紙3)日常・月例車両点検結果表	1
I	緊急時サーベイメータ作業手順	6
	緊急時モニタリングポスト設置・回収作業手順書	6
	緊急時走行モニタリングシステム作業手順書	5

## CD-ROMに記録した文書及び様式のファイル名称

No.	名称	No.	名称
1.0	測定機器管理要領	8.0	モニタリング情報共有システム日常点検要領
1.1	測定機器管理担当者台帳	8.1.1	モニタリング情報共有システム日常点検手順1
2.0	測定機器管理台帳	8.1.2	モニタリング情報共有システム日常点検手順2
2.1	測定器付属品管理台帳	8.2.1	モニタリング情報共有システム日常点検記録1
2.2	機器管理台帳	8.2.2	モニタリング情報共有システム日常点検記録2
3.0	NaIサーベイメータ日常点検要領	9.0	自動車及びモニタリングカー運用・点検要領
3.1	NaIサーベイメータ日常点検手順	9.1	管理補助者台帳
3.2	NaIサーベイメータ日常点検記録	9.2	運転手の指名(依頼)様式
3.3	NaIサーベイメータ取扱手順	9.3	運転手管理台帳
4.0	GMサーベイメータ日常点検要領	9.4	自動車管理台帳
4.1	GMサーベイメータ日常点検手順	9.5	(別紙1)緊急自動車登録抹消報告様式
4.2	GMサーベイメータ日常点検記録	9.6	(別紙2)緊急自動車管理台帳
4.3	GMサーベイメータ取扱手順	9.7	(別紙5)緊急走行実施結果報告書
5.0	電離箱式サーベイメータ日常点検要領	9.8	自動車日常点検手順
5.1	電離箱式サーベイメータ日常点検手順	9.9	自動車運行報告書
5.2	電離箱式サーベイメータ日常点検記録	9.10	緊急自動車日常・月例点検手順
5.3	電離箱式サーベイメータ取扱手順	9.11	(別紙3)日常・月例車両点検結果表
6.0	簡易モニタリングポスト日常点検要領	10.1	緊急時サーベイメータ作業手順
6.1	簡易モニタリングポスト日常点検手順	10.2	緊急時モニタリングポスト設置・回収作業手順書
6.2	簡易モニタリングポスト日常点検記録	10.3	緊急時走行モニタリングシステム作業手順書
6.3	簡易モニタリングポスト取扱手順		
7.0	走行モニタリングシステム日常点検要領		
7.1.1	走行モニタリングシステム日常点検手順1		
7.1.2	走行モニタリングシステム日常点検手順2		
7.2.1	走行モニタリングシステム日常点検記録1		
7.2.2	走行モニタリングシステム日常点検記録2		
7.3	走行モニタリングシステム取扱手順		

# 測定機器管理要領

## 改訂記録

制定日	2015年04月1日	担当部署	監視情報課

## 1. 目的

本要領は、地方放射線モニタリング対策官事務所(以下、事務所)に配備された監視機器及び測定機器(コンピューターソフトウェアを含む)(以下、測定機器という)を管理・校正・維持することを目的とし、測定機器維持・管理マニュアルに基づき制定する。

## 2. 適用範囲

本要領は、モニタリングに必要な監視、測定項目に該当する測定機器に適用する。  
例として、サーベイメータ、モニタリングポスト、モニタリングカー等がある。

## 3. 測定機器の管理

- a) 事務所長は、使用目的に応じて測定機器をAランク又はBランクに区分して管理する。
  - ① 測定値の正当性が保証されなければならない場合に使用する測定機器をAランクとする。Aランクの測定機器は定められた間隔および使用開始前の校正・検証が必要であり、本要領に基づいて管理する。
  - ② 上記以外の測定機器をBランクとする。Bランクの測定機器は、【測定機器管理台帳】での登録管理を行うとともに、本要領6.3項に従い管理する。
- b) 事務所長は、測定機器を登録し、管理を行うため測定機器管理担当者を選任する。また、測定機器管理担当者の選任に関して、【測定機器管理担当者台帳】での登録管理を行う。

## 4. 測定機器の登録

- a) 測定機器管理担当者は、管理の対象とする測定機器を【測定機器管理台帳】に登録し、管理する。
- b) 登録した測定機器には登録済みである旨が分かるようにラベル等で識別表示(名称、管理番号等)する。
- c) 【測定機器管理台帳】による主な管理項目は次のとおりとする。
  - (ア) 管理番号
  - (イ) 測定機器の名称、型式、測定機器番号(製造番号等)
  - (ウ) 配置場所又は保管場所
  - (エ) 管理区分(Aランク又はBランク)
  - (オ) 校正(校正頻度、校正方法、次回校正予定日又は有効年月日)
  - (カ) 点検(点検頻度、点検方法、)
  - (キ) 測定機器管理担当者

## 5. 測定機器の選定

- a) 測定機器の使用者は、必要な監視、測定項目の測定精度を明確にし、必要な正確さと精密さを持つ測定機器を選定する。

- b) 一般的には、その測定項目に与えられた公差の有効桁数よりさらに一桁高い精度の測定機器を選定する。この条件が満たされない場合は、注意事項等を【作業手順書】等(検査・試験手順書含む、以下同)に記載する。
- c) 測定機器が機能的に適切なものであることを検証するためのデータ(測定内容、測定記録等)を【作業手順書】等に記載し、常に提供できるようにする。

## 6. 測定値の正当性が保証されなければならない場合の管理

### 6.1 測定機器の校正・検証・調整

- a) 測定機器管理担当者は、校正を外部機関に委託する場合、国際標準又は国家標準との間に根拠のある関係をもつ認定された装置を用いて校正されたことを示す証明書等【測定機器校正記録】の発行を受ける。事務所内、担当エリア内で校正する場合も同様とする。
- b) 一般的な標準が存在しない測定機器については、【標準外校正要領書】を作成し、管理方法を明らかにすると共に、校正結果を【標準外校正記録】に記録する。  
(質量分析装置等製造メーカーが特定される測定機器については、【標準外校正要領書】の代わりにメーカーの「取扱い説明書」、「標準要領書」等を使用してもよい。)
- c) 記録には、校正項目、校正内容、判定基準等を明示し、判定を容易にできるようにする。
- d) 国際標準又は国家標準にトレース可能な標準試料がある場合は、校正でなく検証でもよい。

(検証とは、標準試料と比較することなどにより測定機器の性能を確認することをいう。)

- e) 測定機器の使用者は、使用前に調整する。また、使用中にも必要に応じて再調整する。

### 6.2 校正状態の識別・維持

- a) 測定機器管理担当者は、【測定機器管理台帳】に次回校正日又は有効年月日を記入する。
- b) 測定機器管理担当者は、校正した測定機器には校正済みである旨が分かるようにラベル等で識別表示(管理番号、名称、次回校正日又は有効年月日等)する。
- c) 測定機器管理担当者は、校正時に設定した条件を変更できないように、必要に応じて表示、カバーリング等の処置をとる。

### 6.3 測定機器の取扱い・保守・保管

- a) 測定機器の使用者は、取扱い説明書をよく理解して測定機器を取扱うものとする。取扱いや操作によって損傷を生じる恐れのある場合は、防護用器材(ボール箱、コンテナ等)を使用する。
- b) 測定機器管理担当者は、測定機器の性能を維持するため定期的に点検・保守を行い、その結果を【測定機器点検記録】に記録する。記録には、点検項目、点検内

容、点検基準、次回点検日等を明示し、判定を容易にできるようにする。

- c) 測定機器管理担当者は、測定機器の損傷及び劣化を防ぐため、適切な保管区域又は保管用のキャビネット等を定めて管理する。

#### 7. 測定機器が、要求事項に適合していないことが判明した場合の処置

- a) 校正時、点検時、使用時に測定機器の異常(測定精度等)を発見した者は、直ちに測定機器管理担当者に報告する。
- b) 測定機器管理担当者は、事務所に報告するとともに、当該測定機器の精度が維持できないと判断した場合はただちに使用不可の識別を行い【測定機器管理台帳】に記録する。また、必要に応じ修理・廃棄等の処置を行う。
- c) 事務所長もしくは緊急時における情報収集管理グループ班長(以下、緊急時班長)は、その測定機器を用いて測定した結果の妥当性を確認するため、測定機器の使用者に指示して、測定記録からその妥当性を調査・報告させる。
- d) 測定機器の使用者は、他の測定機器で測定する等、結果の信頼性を検証し、事務所長もしくは緊急時班長に報告する。
- e) 事務所長もしくは緊急時班長は、報告を元に測定データの妥当性を決定する。

#### 8. コンピュータソフトウェアを使用する場合

測定機器管理担当者は、コンピュータソフトウェアが組み込まれた測定機器について、最初に使用する前に計画どおりの測定ができることをチェックし、【測定機器点検記録】に記録する。また、使用開始後は定期的にチェック、記録する。

#### 9. 記録の保管

測定機器管理担当者は、【測定機器校正記録】、【測定機器点検記録】、【標準外校正記録】を【記録管理標準書】に基づき管理する。



# 測定機器管理台帳

平成27年度

測定機器管理担当者:

・エネルギー補償型シンチレーション式サーベイメータ

No.	機器管理番号	測定機器の型式	Serial No	区分	保管場所	校正				点検		
						校正頻度	校正方法	校正会社	校正年月日	次回校正予定日	点検頻度	点検方法
1	シンチレーション式 サーベイメータ No.1	富士電機社製 NHC711B2-BYY2Y-S	4A3631T	A	事務所	1回/年	点検校正 業者依頼	富士電機 株式会社	2014/3/16	2015年3月	1回/月	様式-NaI点検 による
2	シンチレーション式 サーベイメータ No.2	富士電機社製 NHC711B2-BYY2Y-S	4A3632T	A	事務所	1回/年	点検校正 業者依頼	富士電機 株式会社	2014/3/16	2015年3月	1回/月	様式-NaI点検 による

備考 各々、単3を6本使用

付属品：アルミケース、ACアダプター



# 測定機器管理台帳

平成27年度

測定機器管理担当者:

・GM計数管式サーベイメータ

No.	機器管理番号	測定機器の型式	Serial No	区分	保管場所	校正				点検		
						校正頻度	校正方法	校正会社	校正年月日	次回校正予定日	点検頻度	点検方法
1	GM計数管式 サーベイメータ No.1	富士電機社製 NHJ12001-2020Y-S	4C3570T	A	事務所	1回/年	点検校正 業者依頼	富士電機 株式会社	2014/3/16	2015年3月	1回/月	様式-GM点検 による
2	GM計数管式 サーベイメータ No.2	富士電機社製 NHJ12001-2020Y-S	4C3571T	A	事務所	1回/年	点検校正 業者依頼	富士電機 株式会社	2014/3/16	2015年3月	1回/月	様式-GM点検 による

備考 各々、単3を6本使用  
付属品：アルミケース、ACアダプター

# 測定機器管理台帳

平成27年度

測定機器管理担当者:

・電離箱式サーベイメータ

No.	機器管理番号	測定機器の型式	Serial No	区分	保管場所	校正			点検			
						校正頻度	校正方法	校正会社	校正年月日	次回校正予定日	点検頻度	点検方法
1	電離箱式 サーベイメータ No.1	富士電機社製 NHA10123-11YYY-S	4C3638T	A	事務所	1回/年	点検校正 業者依頼	富士電機 株式会社	2014/3/17	2015年3月	1回/月	様式-電離箱点検 による
2	電離箱式 サーベイメータ No.2	富士電機社製 NHA10123-11YYY-S	4C3639T	A	事務所	1回/年	点検校正 業者依頼	富士電機 株式会社	2014/3/17	2015年3月	1回/月	様式-電離箱点検 による
備考 各々、単3を5本使用 付属品：アルミケース、シヨルダケーブル												

# 測定機器管理台帳

平成27年度

測定機器管理担当者:

・走行モニタリングシステム(車両を除く車両内設置機器)

No.	機器管理番号 (名称)	測定機器の型式	Serial No	区分	保管場所	校正				点検		
						校正頻度	校正方法	校正会社	校正年月日	次回校正予定日	点検頻度	点検方法
1	走行MS検出部	富士電機社製 NAH81101-YYYYY-S		A	放射線測定車 鹿児島800す5963	1回/年	点検校正 業者依頼	富士電機 株式会社	2014/12/17 納品	2015年12月	1回/月	様式-走行MP点検 による
2	車載パソコン	Panasonic TOUGHBOOK CF-19		B	放射線測定車 鹿児島800す5963						1回/月	様式-走行MP点検 による
3	DC/ACインバータ	New-Era CSAS-300		B	放射線測定車 鹿児島800す5963						1回/月	様式-走行MP点検 による
4	ルータ	FUJITSU SF-R G100		B	放射線測定車 鹿児島800す5963						1回/月	様式-走行MP点検 による
5	衛星車載端末	NTT docomo		B	放射線測定車 鹿児島800す5963						1回/月	様式-走行MP点検 による
6	衛星FAXアダプタ	-		B	放射線測定車 鹿児島800す5963						1回/月	様式-走行MP点検 による
7	Webカメラ	-		B	放射線測定車 鹿児島800す5963						1回/月	様式-走行MP点検 による
8	GPSレシーバ	-		B	放射線測定車 鹿児島800す5963						1回/月	様式-走行MP点検 による



# 測定機器付属品管理台帳

測定機器管理担当者:

・モニタリングポスト(NAH71101-YYYYY-S)ノバッテリー

平成27年度

No.	機器管理番号 (名称)	親機器の型式	区分	保管場所	使用状況			点検	
					使用開始日	使用停止日	調達元	点検頻度	点検方法
1	鹿児島簡易MP 2014Dec A1	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー1内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
2	鹿児島簡易MP 2014Dec A2	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー1内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
3	鹿児島簡易MP 2014Dec A3	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー2内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
4	鹿児島簡易MP 2014Dec A4	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー2内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
5	鹿児島簡易MP 2014Dec A5	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー3内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
6	鹿児島簡易MP 2014Dec A6	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー3内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
7	鹿児島簡易MP 2014Dec A7	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー4内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
8	鹿児島簡易MP 2014Dec A8	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー4内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による

# 測定機器付属品管理台帳

測定機器管理担当者:

・モニタリングポスト(NAH71101-YYYYY-S)ノバッテリー

平成27年度

No.	機器管理番号 (名称)	親機器の型式	区分	保管場所	使用状況			点検	
					使用開始日	使用停止日	調達元	点検頻度	点検方法
9	鹿児島簡易MP 2014Dec A9	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー5内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
10	鹿児島簡易MP 2014Dec A10	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー5内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
11	鹿児島簡易MP 2014Dec A11	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー6内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
12	鹿児島簡易MP 2014Dec A12	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー6内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
13	鹿児島簡易MP 2014Dec A13	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー7内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
14	鹿児島簡易MP 2014Dec A14	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー7内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
15	鹿児島簡易MP 2014Dec A15	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー8内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
16	鹿児島簡易MP 2014Dec A16	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー8内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による

# 測定機器付属品管理台帳

測定機器管理担当者:

•モニタリングポスト(NAH71101-YYYYY-S)バッテリー

平成27年度

No.	機器管理番号 (名称)	親機器の型式	区分	保管場所	使用状況			点検	
					使用開始日	使用停止日	調達元	点検頻度	点検方法
17	鹿児島簡易MP 2014Dec A17	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ9内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
18	鹿児島簡易MP 2014Dec A18	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ9内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
19	鹿児島簡易MP 2014Dec A19	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ10内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
20	鹿児島簡易MP 2014Dec A20	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ10内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
21	鹿児島簡易MP 2014Dec A21	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ11内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
22	鹿児島簡易MP 2014Dec A22	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ11内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
23	鹿児島簡易MP 2014Dec A23	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ12内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
24	鹿児島簡易MP 2014Dec A24	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ12内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による

# 測定機器付属品管理台帳

測定機器管理担当者:

・モニタリングポスト(NAH71101-YYYYY-S)ノバッテリー

平成27年度

No.	機器管理番号 (名称)	親機器の型式	区分	保管場所	使用状況			点検	
					使用開始日	使用停止日	調達元	点検頻度	点検方法
25	鹿児島簡易MP 2014Dec A17	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー13内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
26	鹿児島簡易MP 2014Dec A18	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー13内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
27	鹿児島簡易MP 2014Dec A19	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー14内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
28	鹿児島簡易MP 2014Dec A20	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー14内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
29	鹿児島簡易MP 2014Dec A21	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー15内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
30	鹿児島簡易MP 2014Dec A22	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー15内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
31	鹿児島簡易MP 2014Dec A23	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー16内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
32	鹿児島簡易MP 2014Dec A24	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー16内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による



# 測定機器付属品管理台帳

測定機器管理担当者:

・モニタリングポスト(NAH71101-YYYYY-S)/バッテリー

平成27年度

No.	機器管理番号 (名称)	親機器の型式	区分	保管場所	使用状況			点検	
					使用開始日	使用停止日	調達元	点検頻度	点検方法
33	鹿児島簡易MP 2014Dec A17	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ17内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
34	鹿児島簡易MP 2014Dec A18	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ17内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
35	鹿児島簡易MP 2014Dec A19	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ18内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
36	鹿児島簡易MP 2014Dec A20	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ18内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
37	鹿児島簡易MP 2014Dec A21	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ19内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
38	鹿児島簡易MP 2014Dec A22	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ19内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
39	鹿児島簡易MP 2014Dec A23	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ20内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
40	鹿児島簡易MP 2014Dec A24	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレイ20内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による

# 測定機器付属品管理台帳

測定機器管理担当者：

・モニタリングポスト(NAH71101-YYYYY-S)ノバッテリー

平成27年度

No.	機器管理番号 (名称)	親機器の型式	区分	保管場所	使用状況			点検	
					使用開始日	使用停止日	調達元	点検頻度	点検方法
41	鹿児島簡易MP 2014Dec A17	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー21内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
42	鹿児島簡易MP 2014Dec A18	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー21内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
43	鹿児島簡易MP 2014Dec A19	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー22内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
44	鹿児島簡易MP 2014Dec A20	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー22内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
45	鹿児島簡易MP 2014Dec A21	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー23内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
46	鹿児島簡易MP 2014Dec A22	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー23内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
47	鹿児島簡易MP 2014Dec A23	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー24内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による
48	鹿児島簡易MP 2014Dec A24	富士電機社製 NAH71101-YYYYY-S	B	バッテリートレー24内	2014/12/17		富士電機株式会社	充電の都度	様式-MP点検 による





# 機器管理台帳

測定機器管理担当者:

•モニタリング情報共有システム端末 NSRCL01

平成27年度

No.	機器管理番号 (名称)	測定機器の型式	Serial No	区分	保管場所	点 検	
						点検頻度	点検方法
1	OAミッド	-		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
2	端末本体	Panasonic TOUGHBOOK CF-31		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
3	Simカード	NTT docomo		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
4	衛星携帯電話一式	NTT docomo		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
5	カーインナビータ	サンワサプライ株式会社 CAR-DAV200W		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
6	GPSレシーバー式	-		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
7							
8							

# 機器管理台帳

測定機器管理担当者:

・モニタリング情報共有システム端末 NSRCL02

平成27年度

No.	機器管理番号 (名称)	測定機器の型式	Serial No	区分	保管場所	点 検	
						点検頻度	点検方法
1	OAバッグ	-		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
2	端末本体	Panasonic TOUGHBOOK CF-31		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
3	Simカード	NTT docomo		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
4	衛星携帯電話一式	NTT docomo		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
5	カーインバータ	サンワサプライ株式会社 CAR-DAV200W		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
6	GPSレシーバー式	-		B	事務所	1回/月	様式-RMSS点検 による
7							
8							

# NaIサーバイメータ日常点検要領

測定機器管理台帳に記載の点検方法としてその要領を明記した

改訂記録

制訂日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課

## 日常点検要領

測定機器管理担当者：

・エネルギー補償型シンチレーション式サーベイメータ

平成27年度

点検目的	1. 常時適正な使用が可能な状態を確認するため。 2. 電池の交換時期に対処するため。			
点検方法	様式-NaI点検手順 による	点検記録	様式-NaI点検記録 による	様式-NaI取扱 による
実施頻度	1ヶ月に1回			
実施場所	建物内部で線量率の高い場所の隅 参考：鉄筋コンクリートの建物では、柱が太く外壁が厚い場所の線量率が大きい傾向がある。 また、花崗岩の化粧板を使っている場所も良い。			
確認測定概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時定数を30secにし、サーベイメータを建物の隅に押し当てる。</li> <li>・2分後に最初の線量率を読む。その後30秒ごとに4回読む。</li> <li>・5個の測定値の平均値と標準偏差を求めらる。</li> <li>・過去の測定値や他のサーベイメータと比較して、お互いに標準偏差の3倍以上に平均値が収まっているか確認する。なお、他のサーベイメータと比較する場合は、検査成績書から求めた補正係数をかけること。</li> </ul>			
備考	測定終了後、時定数を10secに戻すこと。			




# NaIサーベイメータ日常点検手順

NaIサーベイメータ日常点検要領に記載の点検方法としてその手順を明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------



日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
1	<p>《保管状況》</p> <p>※ 鹿児島事務所の収納例</p>  <p>事務所内左下キャビネット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 電離箱式サベイメータ No.1</li> <li>② 電離箱式サベイメータ No.2</li> <li>③ GMサベイメータ No.1</li> <li>④ GMサベイメータ No.2</li> <li>⑤ NaIサベイメータ No.1</li> <li>⑥ NaIサベイメータ No.2</li> </ul>	<p>実施方法および注意事項</p> <p>(1) 保管場所にNaIサベイメータ No.1及びNaIサベイメータ No.2が各々ケースに収納されている。</p> <p>(2) ケースを取り出し、収納物を目視確認する。</p> <p>(3) 次の物が収納されているか目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NaIサベイメータ本体</li> <li>・ 取扱い説明書</li> <li>・ 最新の検査成績証</li> <li>・ 単三型アルカリ乾電池 6本</li> <li>・ ACアダプター</li> </ul> <p>(4) 収納場所、収納物が正しければ良好とする。</p> <p>(5) 点検結果を該当機器の「様式-NaI点検記録」に記録する。</p>	<p>台帳に記載された保管場所を変更した場合は、測定器管理台帳を更新する。</p> <p>本体電池6本のこと</p>	
2	<p>《管理状況》</p> <p>各測定器に明示してある表示の例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>富士電機社製 NHC711B2-BYY2Y-S Serial No. 4A3631T 使用有効期限: 平成##年##月##日 点検結果: 良好</p> </div>	<p>実施方法および注意事項</p> <p>(1) 次回校正予定日または有効期限の表示の有無を目視確認する。</p> <p>(2) 次回校正予定日または有効期限の2ヶ月前には校正機関への予約手配を行う。</p> <p>(3) 表示があり、有効期限内であれば良好とする。</p> <p>(4) 点検結果を該当機器の「様式-NaI点検記録」に記録する。</p>	<p>校正作業で機器が手元にならない期間は3～4週間程度の見込。</p>	

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
3～6	《外觀状況》	<p>コネクタ及びケーブル</p> <p>プローブ部分</p> <p>液晶表示部</p> <p>本体部分</p>	<p>(1) 本体に傷・破損はないか目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本体の周囲にひび割れ、凹み、欠損他不良と思われる点がないかを確認する。</li> </ul> <p>(2) プローブに傷・破損はないか目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プローブの周囲にひび割れ、凹み、欠損他不良と思われる点がないかを確認する。</li> </ul> <p>(3) 液晶表示部に傷・破損はないか目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>液晶表示部窓にひび割れ、その他不良と思われる点がないかを確認する。</li> </ul> <p>(4) コネクタ接続状態に異常はないか目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コネクタに緩みがないかを確認する。</li> <li>ケーブル外皮に傷がないかを確認する。</li> </ul> <p>(5) 上記4項目で傷等がなければ良好とする。</p> <p>(6) 点検結果を該当機器の「様式-NaI点検記録」に記録する。</p>	
7	《動作状況》 電源投入	<p>スイッチ操作部</p>	<p>(1) 電源投入操作は正常にできるか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「PWR」ボタンを5秒以上押す。 “POWER ON”表示 “Stand By Please Wait”表示後30秒程で基本表示画面(線量率測定表示)になる。</li> </ul> <p>(2) 画面が点灯しない場合、次の原因が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電池切れ(次工程で確認する)</li> <li>電源ボタンの故障または内部の故障。</li> </ul> <p>(3) 基本表示画面(線量率測定表示)が表示されれば良好とする。</p> <p>(4) 点検結果を該当機器の「様式-NaI点検記録」に記録する。</p> <p>故障の場合は、メーカーによる修理を検討する。</p>	

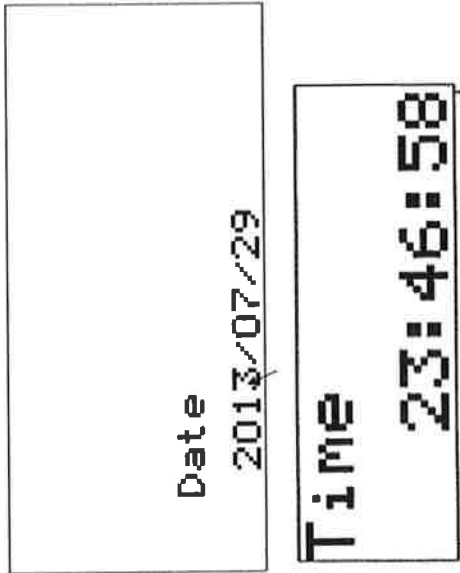
日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考																		
8	《電池消耗》	 <p>電池残量表示</p>	<p>(1) 電池残量表示が2個以上(左写真は2個点灯)点灯しているか確認する。</p> <p>(2) 電池残量表示が1個点灯している場合は、直ちに予備電池(単三型アルカリ乾電池)6本をケースに入れ、すぐに交換できるよう準備しておく。</p> <p>(3) 電池残量表示が1個点滅している場合は、直ちに予備電池(単三型アルカリ乾電池)6本を交換する。</p> <p>(4) 上記(1)である場合、または予備電池が準備できていることで良好とする。</p> <p>(5) 点検結果を該当機器の「様式-NaI点検記録」に記録する。</p>																			
9	《機器異常》	 <table border="1" data-bbox="1117 1545 1404 1836"> <tr> <th colspan="2">エラーの種類</th> </tr> <tr> <td>E:</td> <td>異常</td> </tr> <tr> <td>W:</td> <td>故障</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="1117 1160 1420 1496"> <tr> <th colspan="2">エラーの番号</th> </tr> <tr> <td>1:</td> <td>高圧電源</td> </tr> <tr> <td>2:</td> <td>EEPROM/ROM/RAM</td> </tr> <tr> <td>3:</td> <td>RTC 電池電圧</td> </tr> <tr> <td>5:</td> <td>温度</td> </tr> <tr> <td>7:</td> <td>+5V 電源</td> </tr> </table>	エラーの種類		E:	異常	W:	故障	エラーの番号		1:	高圧電源	2:	EEPROM/ROM/RAM	3:	RTC 電池電圧	5:	温度	7:	+5V 電源	<p>(1) 電源投入時に左図点線内部分にエラー表示が表示されていないか確認する。 (エラーがない場合は何も表示されない)</p> <p>(2) エラー表示がある場合、数回再起動を試みる。</p> <p>(3) エラーが発生した場合は、左下表のとおりそれぞれのエラー番号が表示される。 (例)E5：使用温度範囲越</p> <p>(4) エラーの状態を解決できない場合は、メーカーへ問合せまたは修理を検討する。</p> <p>(5) エラー表示がないことで良好とする。</p> <p>(6) 点検結果を該当機器の「様式-NaI点検記録」に記録する。</p>	
エラーの種類																						
E:	異常																					
W:	故障																					
エラーの番号																						
1:	高圧電源																					
2:	EEPROM/ROM/RAM																					
3:	RTC 電池電圧																					
5:	温度																					
7:	+5V 電源																					

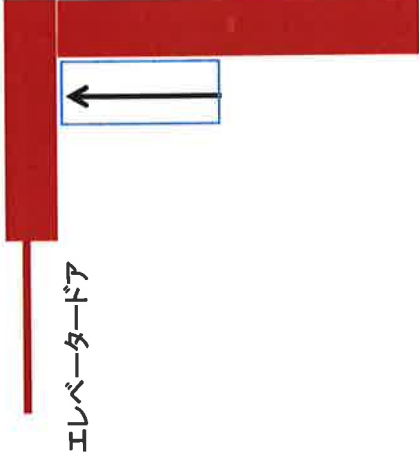

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
10	《測定モード切替》SCA2計数率表示画面へ (Scalerモードへ)	<p>モード画面へ</p> <p>Scalerモードの基本画面</p> <p>表示A</p> <p>表示B</p>	<p>実施方法および注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本表示画面(線量率測定表示)において「SET」ボタンを4回押す。</li> <li>(2) 左図上のSCA2計数率表示画面になる。</li> <li>(3) 「SET」ボタンを長押しする。 日付設定画面になる。</li> <li>(4) 「SET」ボタンを10回押す。</li> <li>(5) 左図下のモード画面になる。</li> <li>(6) 「」ボタンを1秒押す。 表示が点滅し、変更可能な状態となる。</li> <li>(7) 変更したいモードになるまで、「CONN」ボタンを押す。</li> <li>(8) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押す。 ピッと音がする</li> <li>(9) 基本表示画面(計数値画面:単位nSv)になる。</li> <li>(10) 「SET」ボタンを1回押すと、左図表示Bの基本設定画面(計数値画面:単位count)となり、そのまま測定可能状態となる。(点線内表示:なし)</li> <li>(11) 「SET」ボタンを押すと、SCA1計数値画面(点線内表示:S.1)、さらに「SET」ボタンを押すと、SCA2計数値画面(点線内表示:S.2)になる。</li> <li>(12) Scalerモード表示に切り替えられることで良好とする。</li> <li>(13) 点検結果を該当機器の「様式-NaI点検記録」に記録する。</li> </ol>	<p>備考</p> <p>引き続き日付確認を実施する</p>

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
11	《日時確認》	 <p style="text-align: center;">Date 2013/07/29</p> <p style="text-align: center;">Time 23:46:58</p>	<p>(1) 「SET」ボタンを長押しする。</p> <p>(2) 左図日付設定画面になる。</p> <p>(3) 日付を確認する。 修正する場合は、NaI取扱手順2.(5)～(8)を参照して操作する。</p> <p>(4) 「SET」ボタンを1回押す。</p> <p>(5) 左図下の時刻設定画面になる。</p> <p>(6) 時刻を確認する。 修正する場合は、NaI取扱手順3.(4)～(10)を参照して操作する。</p> <p>(7) 日付が正しい、および時刻が正しいことで良好とする。 (分は誤差5分以内、秒は問わず)</p> <p>(8) 点検結果を該当機器の「様式-NaI点検記録」に記録する。</p> <p>(9) 次工程のため、モードを線量率測定モードに戻す。</p> <p style="text-align: right;">Scalerモードから線量率測定モードへ戻す際は、NaI取扱手順7(3)を行い、SCA2計数値画面表示させ、NaI取扱手順5(3)～(9)を参照して操作する。</p>	

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
12	<p>《確認測定》</p> <p>※ 標準線源を使用しない確認測定の例 1階エレベーターホール</p>  <p>エレベータードア</p>  <p>測定実施状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 時定数を30Secに設定する。 NaI取扱手順4を参照して時定数変更操作する。</li> <li>(2) 最初の電源投入から10分以上経過していることを確認の上、確認測定を始める。</li> <li>(3) プロブがホルダにしっかり収まっていることを確認する。</li> <li>(4) 1階エレベーターホール(左図参照)に測定器を配置する。</li> <li>(5) 壁面に本体部分が密着していることを確認する。 (この時点で"セット完了"とする)</li> <li>(6) 測定器の"セット完了"したら、2分間放置する。</li> <li>(7) 2分経過後、正確に30秒置きに指示値を読み取る。</li> <li>(8) 測定値を該機器の「様式-NaI点検記録」下部の 確認測定記録欄(太枠内)に記録(5回分)する。</li> <li>(9) 5回の平均値が前回行った確認測定の標準偏差の3倍 以内に収まっていることを良好とする。 ただし、前回の確認測定がされていない場合は、同機種 の確認測定結果を参照する。その際、検査成績書から求めた 補正係数をかけること。</li> <li>(10) 点検結果を該機器の「様式-NaI点検記録」に記録 する。 NaI取扱手順4を参照して時定数変更操作する。</li> </ol>	<p>グリップ部にプロブが十分手前に詰められていること。</p> <p>30秒間隔は秒取りを正確に計測し、測定値読取り者の主観が入らないよう注意し、記録する。</p>	

# NaIサーベイメータ日常点検記録

NaIサーベイメータ日常点検要領に記載の点検記録として明記した

改訂記録

制定日

2015年4月1日

担当部署

監視情報課



# 日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：シンチレーション式サーベイメータ No.1

測定器型式		富士電機社製 NHC711B2-BYY2Y-S Serial No.4A3631T			
点検頻度：1ヶ月に1回		天気：			
点検日：平成 年 月 日		点検者：			
No.	点検項目	点検事項	判断基準	点検結果	備考
1	保管状況	台帳に記載された場所に保管されているか	事務所に保管されていること	良好・不良	
2	管理状況	次回校正予定日(または有効期限)の表示があるか	該当表示があること	良好・不良	校正について下記参考
3	外觀	本体に傷・破損はないか	目視確認 傷・破損がないこと	良好・不良	
4	外觀	プローブに傷・破損はないか	目視確認 傷・破損がないこと	良好・不良	
5	外觀	液晶表示部に傷・破損はないか	目視確認 傷・破損がないこと	良好・不良	
6	外觀	コネクタ接続状態に異常はないか	目視確認 接触、接続異常がないこと	良好・不良	
7	動作状況	電源投入操作は正常にできるか	動作確認 正常動作すること	良好・不良	
8	電池消耗	電池残量はあるか	目視確認 電池残量表示が2個以上点灯であること	良好・不良	不良時は交換電池を準備
9	機器異常	エラー表示は出していないか	目視確認 エラー表示がないこと	良好・不良	取扱説明書P.44参照
10	動作状況	測定モード切替	動作確認 正常動作すること	良好・不良	取扱説明書P.17参照
11	動作状況	表示日時確認	動作確認 日付・時刻が正しいこと	良好・不良	取扱説明書P.21参照

測定器	No.1
測定回数	測定値 μSv/h
1回目	65
2回目	66
3回目	60
4回目	64
5回目	61
平均値	63.2
標準偏差	2.6
Avg+3σ	71.0
Avg-3σ	55.4

## 指示値変動試験

点検方法	判断基準	点検結果	備考
前回と前回の比較	5回の平均値が前回行った確認測定の標準偏差の3倍以内に収まっていること	良好・不良	

校正について参考

- 測定器の校正は1年に1回実施することが望ましい
- 校正の手配は、校正有効期限の2ヶ月前より校正機関へ予約を入れる。
- 時期によっては校正を受付できない月があるので、事前に確認しておく。
- 2台の同機種を約半年時期をずらすなどして、少なくとも1台は稼働できる状態にしておく。

様式-NaI点検記録

日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：シンチレーション式サーベイメータ No.2

測定器型式 富士電機社製 NHC711B2-BYY2Y-S Serial No.4A3632T

点検頻度：1ヶ月に1回		天気：		点検者：		
No.	点検項目	点検事項	点検方法	判断基準	点検結果	備考
1	保管状況	台帳に記載された場所に保管されているか	目視確認	事務所に保管されていること	良好・不良	
2	管理状況	次回校正予定日(または有効期限)の表示があるか	目視確認	該当表示があること	良好・不良	校正について下記参考
3	外観	本体に傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
4	外観	プローブに傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
5	外観	液晶表示部に傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
6	外観	コネクタ接続状態に異常はないか	目視確認	接触、接続異常がないこと	良好・不良	
7	動作状況	電源投入操作は正常にできるか	動作確認	正常動作すること	良好・不良	
8	電池消耗	電池残量はあるか	目視確認	電池残量表示が2個以上点灯であること	良好・不良	不良時は交換電池を準備
9	機器異常	エラー表示は出していないか	目視確認	エラー表示がないこと	良好・不良	取扱説明書P.44参照
10	動作状況	測定モード切替	動作確認	正常動作すること	良好・不良	取扱説明書P.17参照
11	動作状況	表示日時確認	動作確認	日付・時刻が正しいこと	良好・不良	取扱説明書P.21参照

確認測定記録	
測定器	No.2
測定回数	測定値 μ Sv/h
1回目	65
2回目	66
3回目	60
4回目	64
5回目	61
平均値	63.2
標準偏差	2.6
Avg+3σ	71.0
Avg-3σ	55.4

指示値変動試験

点検方法	判断基準	点検結果	備考
前回との比較	5回の平均値が前回行った確認測定の標準偏差の3倍以内に収まっていること	良好・不良	

校正について参考

- ・ 測定器の校正は1年に1回実施することが望ましい
- ・ 校正の手配は、校正有効期限の2ヶ月前より校正機関へ予約を入れる。
- ・ 時期によっては校正を受けできない月があるので、事前に確認しておく。
- ・ 2台の同機種を約半年時期をずらすなどして、少なくとも1台は稼働できる状態にしておく。


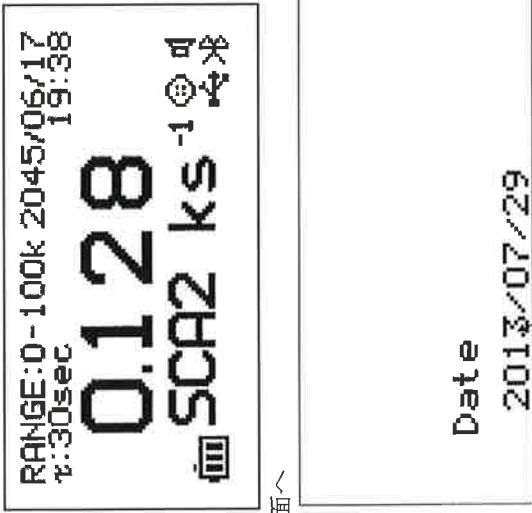
# NaIサーベイメータ取扱手順

NaIサーベイメータ日常点検要領に記載の取扱い方法として明記した

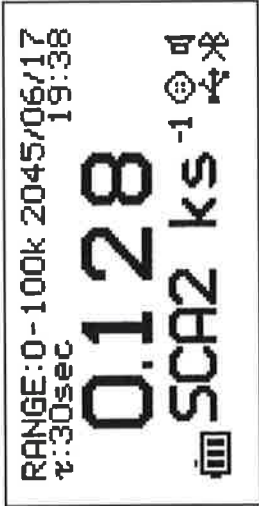


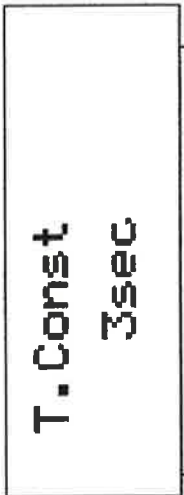
改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課


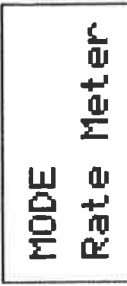


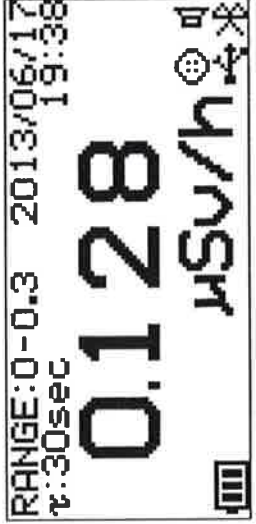
# 取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
1	《電源投入》	<p>電源投入</p>  <p>スイッチ操作部</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「PWR」ボタンを5秒以上押す。 "POWER ON" 表示</li> <li>(2) 30秒程で基本表示画面になる。 "Stand By Please Wait" 表示後 基本表示画面(線量率測定表示)になる。</li> <li>(3) 電源を入れて、10分以上経過後に測定を始める。 (設定変更等は直後に実施してよい)</li> </ol>	
2	《日時確認》	<p>SCA2計数率表示画面へ</p>  <p>日付設定画面へ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「SET」ボタンを4回押す。</li> <li>(2) 左図上のSCA2計数率表示画面になる。</li> <li>(3) 「SET」ボタンを長押しする。</li> <li>(4) 左図下の日付設定画面になる。</li> <li>(5) 「□」ボタンを1秒押す。 西暦が点滅し、変更可能な状態となる。</li> <li>(6) 変更したい値になるまで、「CONN」ボタンを押す。</li> <li>(7) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押す。 ピッと音がする</li> <li>(8) 「□」ボタンを押すごとに、変更可能桁が移動するので、適宜目的の桁にあわせ、同様に変更確定する。</li> <li>(9) 「SET」ボタンを11回押すと基本表示画面に戻る。</li> </ol>	

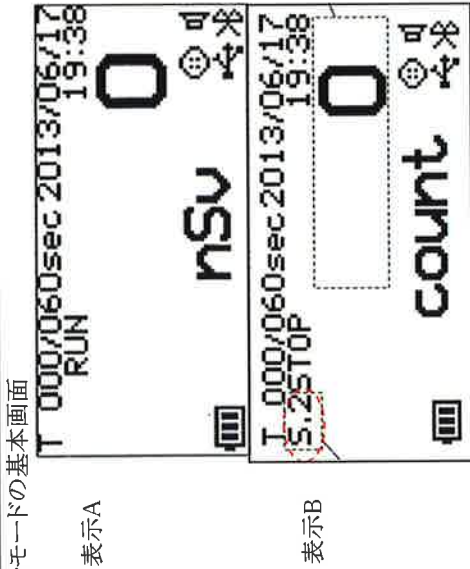


取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
3	《日時確認》	<p>SCA2計数率表示画面へ</p>  <p>時刻設定画面へ</p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「SET」ボタンを4回押す。</li> <li>(2) 左図上のSCA2計数率表示画面になる。</li> <li>(3) 「SET」ボタンを長押しする。 日付設定画面になる。</li> <li>(4) 「SET」ボタンを1回押す。</li> <li>(5) 左図下の時刻設定画面になる。</li> <li>(6) 「□」ボタンを1秒押す。 時間が点滅し、変更可能な状態となる。</li> <li>(7) 変更したい値になるまで、「CONN」ボタンを押す。</li> <li>(8) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押す。 ピッと音がする</li> <li>(9) 「□」ボタンを押すごとに、変更可能桁が移動するので、適宜目的の桁にあわせ、同様に変更確定する。</li> <li>(10) 「SET」ボタンを10回押すと基本表示画面に戻る。</li> </ol>	
4	《時定数設定》	<p>SCA2計数率表示画面へ</p>  <p>時定数設定画面へ</p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「SET」ボタンを4回押す。</li> <li>(2) 左図上のSCA2計数率表示画面になる。</li> <li>(3) 「SET」ボタンを長押しする。 日付設定画面になる。</li> <li>(4) 「SET」ボタンを2回押す。</li> <li>(5) 左図下の時定数設定画面になる。</li> <li>(6) 「□」ボタンを1秒押す。 時定数値が点滅し、変更可能な状態となる。</li> <li>(7) 変更したい値になるまで、「CONN」ボタンを押す。</li> <li>(8) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押す。 ピッと音がする</li> <li>(9) 「SET」ボタンを9回押すと基本表示画面に戻る。</li> </ol>	<p>・通常は10Secに設定しておく</p>

取扱手順



No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
5	《モード設定》	<p>SCA2計数率表示画面へ</p>  <p>モード画面へ</p>  <p>又は</p>  <p>Scalerモードの基本画面</p> 	<p>(1) 「SET」ボタンを4回押す。</p> <p>(2) 左図上のSCA2計数率表示画面になる。</p> <p>(3) 「SET」ボタンを長押しする。 日付設定画面になる。</p> <p>(4) 「SET」ボタンを10回押す。</p> <p>(5) 左図下のモード画面になる。</p> <p>(6) 「□」ボタンを1秒押す。 表示が点滅し、変更可能な状態となる。</p> <p>(7) 変更したいモードになるまで、「CONN」ボタンを押す。</p> <p>(8) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押す。 ピツと音がする</p> <p>(9) 基本表示画面に戻る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ScalerモードからRate Meterへ戻す際は、手順7(3)を行い、SCA2計数値画面表示をさせて本手順(2)より順次実施する。</li> </ul>
6	《測定》 (RATEMETERモード)	<p>基本設定画面(線量率測定画面)</p> 	<p>(1) 手順1により電源を投入すると、左図の基本設定画面(線量率測定画面)となり、そのまま測定状態となる。電源投入後、10分以上経過後に測定を実施する。</p> <p>(2) 測定対象に検出部正面を向けて構える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「PWR」ボタンを押すと、バックライトが点灯。再度押すと消灯する。</li> <li>方向指向性がある</li> </ul>

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
7	《測定》 (Scalerモード)   <p>Scalerモードの基本画面</p> <p>表示A</p> <p>表示B</p> <p>積算時間設定画面へ</p>  <p>積算データのリセット</p> <p>積算開始(停止)</p>  <p>経過秒/設定秒</p> <p>カウント状況</p>	(1) 手順1により電源を投入する。 (2) 手順4によりモードを変更すると、左図表示Aの基本設定画面(計数値画面:単位nSv)となる。 (3) 「SET」ボタンを1回押すと、左図表示Bの基本設定画面(計数値画面:単位count)となり、そのまま測定可能状態となる。 もう一度「SET」ボタンを押すと、SCA1計数値画面、さらにもう一度「SET」ボタンを押すと、SCA2計数値画面になる。 (4) SCA2計数値画面で「SET」ボタンを長押しする。 日付設定画面になる。 (5) 「SET」ボタンを7回押す。 (1) 左図下の積算時間設定画面になる。 (2) 「□」ボタンを1秒押す。 表示が点滅し、変更可能な状態となる。 (3) 変更したい秒数になるまで、「CONN」ボタンを押す。 (4) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押す。 ピッと音がする (5) 「SET」ボタンを4回押すと基本表示画面に戻る。 (1) 「CONN」ボタンを3秒長押しする。 (1) 「□」ボタンを3秒長押しすると、カウントが始まる。 (2) 途中で測定を止めたい場合は「□」ボタンを3秒長押しすると、カウントが停止する。 (3) 測定対象に検出部正面を向けて構える	・ 「□」ボタンを3秒押すと、カウント音が出る。 音を止める場合も同じ操作。  ・ 表示Bの点線内の表示 未表示:計数値(count) S.1:SCA1計数値(count) S.2:SCA2計数値(count)	

・ 方向指向性がある

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考									
8	《異常確認》	<p>エラー表示を確認</p>  <p>エラーコード内容</p> <table border="1" data-bbox="676 1196 943 1749"> <tr> <td><b>エラーの種類</b></td> </tr> <tr> <td>E: 異常</td> </tr> <tr> <td>W: 故障</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="959 1196 1241 1749"> <tr> <td><b>エラーの番号</b></td> </tr> <tr> <td>1: 高圧電源</td> </tr> <tr> <td>2: EEPROM/ROM/RAM</td> </tr> <tr> <td>3: RTC 電池電圧</td> </tr> <tr> <td>5: 温度</td> </tr> <tr> <td>7: +5V 電源</td> </tr> </table>	<b>エラーの種類</b>	E: 異常	W: 故障	<b>エラーの番号</b>	1: 高圧電源	2: EEPROM/ROM/RAM	3: RTC 電池電圧	5: 温度	7: +5V 電源	<p>(1) 電源投入時に左図点線内部分にエラー表示が表示されていないか確認する。 (エラーがない場合は何も表示されない)</p> <p>(2) エラー表示がある場合、数回再起動を試みる。</p> <p>(3) エラーが発生した場合は、それぞれのエラー番号が表示される。 (例) E5: 使用温度範囲超過</p> <p>(4) エラーの状態を解決できない場合は、メーカーへ問合せまたは修理依頼する。</p>	
<b>エラーの種類</b>													
E: 異常													
W: 故障													
<b>エラーの番号</b>													
1: 高圧電源													
2: EEPROM/ROM/RAM													
3: RTC 電池電圧													
5: 温度													
7: +5V 電源													
9	《電源断》	<p>電源を切る</p> 	<p>(1) 「PWR」ボタンを5秒以上押す。 "POWER OFF" 表示</p> <p>(2) 電源が切れる。</p>										



# GMサーバイメータ日常点検要領

測定機器管理台帳に記載の点検方法としてその要領を明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課

## 日常点検要領

測定機器管理担当者:

平成27年度

•GM計数管式サーベイメータ

点検目的	1.常時適正な使用が可能な状態を確認するため。 2.電池の交換時期に対処するため。			
点検方法	様式-GM点検手順 による	点検記録	様式-GM点検記録 による	様式-GM取扱 による
実施頻度	1ヶ月に1回			
実施場所	建物内部で線量率の高い場所の隅 参考:鉄筋コンクリートの建物では、柱が太く外壁が厚い場所の線量率が大きい傾向がある。 また、花崗岩の化粧板を使っている場所も良い。			
確認測定概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>•時定数を30secにし、サーベイメータを建物の隅に押し当てる。</li> <li>•2分後に最初の線量率を読む。その後30秒ごとに4回読む。</li> <li>•5個の測定値の平均値と標準偏差を求める。</li> <li>•過去の測定値や他のサーベイメータと比較して、お互いに標準偏差の3倍以内に平均値が収まっているか確認する。なお、他のサーベイメータと比較する場合は、検査成績書から求めた補正係数をかけること。</li> </ul>			
備考	測定終了後、時定数を10secに戻すこと。			

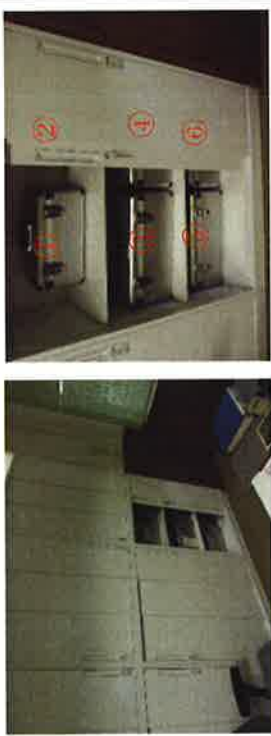
# GMサーベイメータ日常点検手順

GMサーベイメータ日常点検要領に記載の点検方法としてその手順を明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------



日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
1	<p>《保管状況》</p> <p>※ 鹿児島事務所の収納例</p>  <p>事務所内左下キャビネット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 電離箱式サーベイメータ No.1</li> <li>② 電離箱式サーベイメータ No.2</li> <li>③ GMサーベイメータ No.1</li> <li>④ GMサーベイメータ No.2</li> <li>⑤ NaIサーベイメータ No.1</li> <li>⑥ NaIサーベイメータ No.2</li> </ul>	<p>実施方法および注意事項</p> <p>(1) 保管場所にGMサーベイメータ No.1及びGMサーベイメータ No.2が各々ケースに収納されている。</p> <p>(2) ケースを取り出し、収納物を目視確認する。</p> <p>(3) 次の物が収納されているか目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GMサーベイメータ本体</li> <li>・ 取扱い説明書</li> <li>・ 最新の検査成績証</li> <li>・ 単三型アルカリ乾電池 6本</li> <li>・ ACアダプター</li> </ul> <p>(4) 収納場所、収納物が正しければ良好とする。</p> <p>(5) 点検結果を該当機器の「様式-GM点検記録」に記録する。</p>	<p>台帳に記載された保管場所を変更した場合は、測定器管理台帳を更新する。</p> <p>本体電池6本のこと</p>	
2	<p>《管理状況》</p> <p>各測定器に明示してある表示の例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>富士電機社製 NHJJ2001-2020Y-S Serial No.4C3571T 使用有効期限:平成##年##月##日 点検結果:良好</p> </div>	<p>実施方法および注意事項</p> <p>(1) 次回校正予定日または有効期限の表示の有無を目視確認する。</p> <p>(2) 次回校正予定日または有効期限の2ヶ月前には校正機関への予約手配を行う。</p> <p>(3) 表示があり、有効期限内であれば良好とする。</p> <p>(4) 点検結果を該当機器の「様式-GM点検記録」に記録する。</p>	<p>校正作業で機器が手元にならない期間は3～4週間程度の見込。</p>	

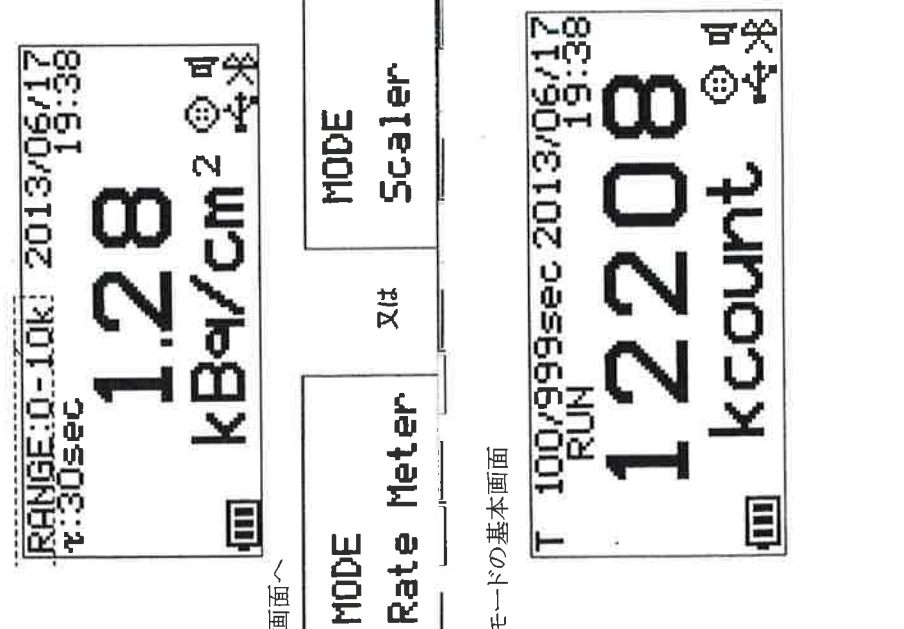
日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
3～6	《外觀状況》	<p>コネクタ及びケーブル</p> <p>プローブ部分</p> <p>液晶表示部</p> <p>本体部分</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本体に傷・破損はないか目視確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本体の周囲にひび割れ、凹み、欠損他不良と思われる点がないかを確認する。</li> </ul> </li> <li>(2) プローブに傷・破損はないか目視確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プローブの周囲にひび割れ、凹み、欠損他不良と思われる点がないかを確認する。</li> </ul> </li> <li>(3) 液晶表示部に傷・破損はないか目視確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 液晶表示部窓にひび割れ、その他不良と思われる点がないかを確認する。</li> </ul> </li> <li>(4) コネクタ接続状態に異常はないか目視確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コネクタに緩みがないかを確認する。</li> <li>・ ケーブル外皮に傷がないかを確認する。</li> </ul> </li> <li>(5) 上記4項目で傷等がなければ良好とする。</li> <li>(6) 点検結果を該当機器の「様式-GM点検記録」に記録する。</li> </ol>	
7	《動作状況》 電源投入	<p>液晶表示部</p> <p>スイッチ操作部</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 電源投入操作は正常にできるか確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「PWR」ボタンを5秒以上押す。</li> <li>・ “POWER ON” 表示</li> <li>・ “Stand By Please Wait” 表示後30秒程で基本表示画面(計数率表示)になる。</li> </ul> </li> <li>(2) 画面が点灯しない場合、次の原因が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電池切れ(次工程で確認する)</li> <li>・ 電源ボタンの故障または内部の故障。</li> </ul> </li> <li>(3) 基本表示画面(計数率表示)が表示されれば良好とする。</li> <li>(4) 点検結果を該当機器の「様式-GM点検記録」に記録する。</li> </ol>	<p>故障の場合は、メーカーによる修理を検討する。</p>

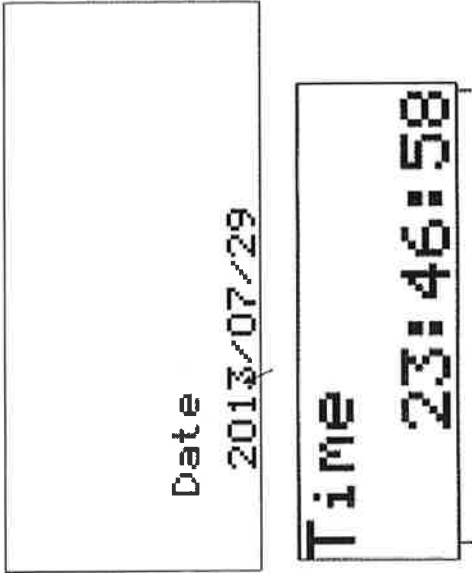
日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考												
8	《電池消耗》	 <p>電池残量表示</p>	<p>(1) 電池残量表示が2個以上(左写真は2個点灯)点灯しているか確認する。</p> <p>(2) 電池残量表示が1個点灯している場合は、直ちに予備電池(単三型アルカリ乾電池)6本をケースに入れ、すぐに交換できるよう準備しておく。</p> <p>(3) 電池残量表示が1個点滅している場合は、直ちに予備電池(単三型アルカリ乾電池)6本を交換する。</p> <p>(4) 上記(1)である場合、または予備電池が準備できていることで良好とする。</p> <p>(5) 点検結果を該当機器の「様式-GM点検記録」に記録する。</p>													
9	《機器異常》	 <table border="1" data-bbox="1117 1160 1428 1836"> <thead> <tr> <th>エラーの種類</th> <th>エラーの番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E: 異常</td> <td>1: 高圧電源</td> </tr> <tr> <td>W: 故障</td> <td>2: EEPROM/ROM/RAM</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3: RTC 電池電圧</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5: 温度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7: +5V 電源</td> </tr> </tbody> </table>	エラーの種類	エラーの番号	E: 異常	1: 高圧電源	W: 故障	2: EEPROM/ROM/RAM		3: RTC 電池電圧		5: 温度		7: +5V 電源	<p>(1) 電源投入時に左図点線内部分にエラー表示が表示されていないか確認する。 (エラーがない場合は何も表示されない)</p> <p>(2) エラー表示がある場合、数回再起動を試みる。</p> <p>(3) エラーが発生した場合は、左下表のとおりそれぞれのエラー番号が表示される。 (例)E5: 使用温度範囲越</p> <p>(4) エラーの状態を解決できない場合は、メーカーへ問合せまたは修理を検討する。</p> <p>(5) エラー表示がないことで良好とする。</p> <p>(6) 点検結果を該当機器の「様式-GM点検記録」に記録する。</p>	
エラーの種類	エラーの番号															
E: 異常	1: 高圧電源															
W: 故障	2: EEPROM/ROM/RAM															
	3: RTC 電池電圧															
	5: 温度															
	7: +5V 電源															

日常点検手順

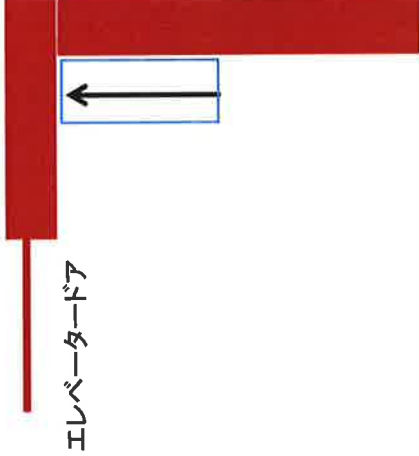

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
10	《測定モード切替》濃度表示画面へ (Scalerモードへ)	 <p>モード画面へ</p> <p>Scalerモードの基本画面</p>	(1) 基本表示画面(計数率画面)において「SET」ボタンを2回押す。 (2) 左図上の濃度表示画面になる。 (3) 「SET」ボタンを長押しする。 日付設定画面になる。 (4) 「SET」ボタンを9回押す。 (5) 左図下のモード画面になる。 (6) 「□」ボタンを1秒押す。 表示が点滅し、変更可能な状態となる。 (7) 変更したいモードになるまで、「CONN」ボタンを押す。 (8) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押す。 ピッと音がする (9) 基本表示画面に戻る。  (10) Scalerモード表示に切り替えられることで良好とする。  (11) 点検結果を該当機器の「様式-GM点検記録」に記録する。	引き続き日付確認を実施する

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
11	《日時確認》		<p>(1) 「SET」ボタンを2回押す。</p> <p>(2) 左図上の濃度表示画面になる。</p> <p>(3) 「SET」ボタンを長押しする。</p> <p>(4) 左図上の日付設定画面になる。</p> <p>(5) 日付を確認する。 修正する場合は、GM取扱手順2日付変更、(5)～(7)を参照して操作する。</p> <p>(6) 「SET」ボタンを1回押す。</p> <p>(7) 左図下の時刻設定画面になる。</p> <p>(8) 時刻を確認する。 修正する場合は、GM取扱手順2時刻変更、(6)～(10)を参照して操作する。</p> <p>(9) 日付が正しい、および時刻が正しいことで良好とする。 (分は誤差5分以内、秒は問わず)</p> <p>(10) 点検結果を該機器の「様式-GM点検記録」に記録する。</p> <p>(11) 次工程のため、モードを計数率測定モードに戻す。  Scalerモードから計数率測定モードへ戻す際は、「SET」ボタンを9回押し、モード設定画面を表示させ、GM取扱手順4(6)～(9)を参照して操作する。</p>	



日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
12	<p>《確認測定》</p> <p>※ 標準線源を使用しない確認測定の例 1階エレベーターホール</p>  <p>エレベータードア</p> <p>測定実施状況</p> 	<p>(1) 測定数を30Secに設定する。 GM取扱手順3を参照して時定数変更操作する。</p> <p>(2) 最初の電源投入から10分以上経過していることを確認の上、確認測定を始める。</p> <p>(3) プロブがホルダにしっかりと収まっていることを確認する。</p> <p>(4) 1階エレベーターホール(左図参照)に測定器を配置する。</p> <p>(5) 壁面に本体部分が密着していることを確認する。 (この時点で"セット完了"とする)</p> <p>(6) 測定器の"セット完了"したら、2分間放置する。</p> <p>(7) 2分経過後、正確に30秒置きに指示値を読み取る。</p> <p>(8) 測定値を該当機器の「様式-GM点検記録」下部の 確認測定記録欄(太枠内)に記録(5回分)する。</p> <p>(9) 5回の平均値が前回行った確認測定の標準偏差の3倍 以内に収まっていることを良好とする。 ただし、前回の確認測定がされていない場合は、同機種の 確認測定結果を参照する。その際、検査成績書から求めた 補正係数をかけること。</p> <p>(10) 点検結果を該当機器の「様式-GM点検記録」に記録 する。 GM取扱手順3を参照して時定数変更操作する。</p>	<p>備考</p> <p>グリップ部にプロブが 十分手前に詰められていること。 プロブの蓋を取ってある確認 すること。</p> <p>30秒間隔は秒数を正確に計測 し、測定値読取り者の主観が入ら ないよう注意し、記録する。</p>	

# GMサーベイメータ日常点検記録

GMサーベイメータ日常点検要領に記載の点検記録として明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課

様式-GM点検記録

日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：GM計数管式サーベイメータ No.1

測定器型式		富士電機社製 NHJ12001-2020Y-S Serial No.4C3570T	
点検頻度：1ヶ月に1回		点検日：平成 年 月 日	天気：
点検項目		点検事項	点検方法
No.	点検項目	点検事項	点検方法
1	保管状況	台帳に記載された場所に保管されているか	目視確認
2	管理状況	次回校正予定日(または有効期限)の表示があるか	目視確認
3	外観	本体に傷・破損はないか	目視確認
4	外観	プローブに傷・破損はないか	目視確認
5	外観	液晶表示部に傷・破損はないか	目視確認
6	外観	コネクタ接続状態に異常はないか	目視確認
7	動作状況	電源投入操作は正常にできるか	動作確認
8	電池消耗	電池残量はあるか	目視確認
9	機器異常	エラー表示は出していないか	目視確認
10	動作状況	測定モード切替	動作確認
11	動作状況	表示日時確認	動作確認
		判断基準	点検結果
		事務所に保管されていること	良好・不良
		該当表示があること	良好・不良
		傷・破損がないこと	良好・不良
		傷・破損がないこと	良好・不良
		傷・破損がないこと	良好・不良
		接触、接続異常がないこと	良好・不良
		正常動作すること	良好・不良
		60%以上であること	良好・不良
		エラー表示がないこと	良好・不良
		正常動作すること	良好・不良
		日付・時刻(分単位)が正しいこと	良好・不良
			不良時は交換電池を準備
			取扱説明書P.44参照
			取扱説明書P.18参照
			取扱説明書P.24参照

確認測定記録	
測定器	No.1
測定回数	測定値 cpm
1回目	
2回目	
3回目	
4回目	
5回目	
平均値	
標準偏差	
Avg+3σ	
Avg-3σ	

指示値変動試験

点検方法	判断基準	点検結果	備考
前回との比較	5回の平均値が前回行った確認測定の標準偏差の3倍以内に収まっていること	良好・不良	

校正について参考

- ・ 測定器の校正は1年に1回実施することが望ましい
- ・ 校正の手配は、校正有効期限の2ヶ月前より校正機関へ予約を入れる。
- ・ 時期によっては校正を受付できない月があるので、事前に確認しておく。
- ・ 2台の同機種を約半年時期をずらすなどして、少なくとも1台は稼働できる状態にしておく。

様式-GM点検記録

日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：GM計数管式サーベイメータ No.2

測定器型式		富士電機社製 NHJ12001-2020Y-S Serial No.4C3571T				
点検頻度：1ヶ月に1回	点検日：平成 年 月 日	天気：	点検者：			
No.	点検項目	点検事項	点検方法	判断基準	点検結果	備考
1	保管状況	台帳に記載された場所に保管されているか	目視確認	事務所に保管されていること	良好・不良	校正について下記参考
2	管理状況	次回校正予定日(または有効期限)の表示があるか	目視確認	該当表示があること	良好・不良	
3	外観	本体に傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
4	外観	プローブに傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
5	外観	液晶表示部に傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
6	外観	コネクタ接続状態に異常はないか	目視確認	接触、接続異常がないこと	良好・不良	
7	動作状況	電源投入操作は正常にできるか	動作確認	正常動作すること	良好・不良	
8	電池消耗	電池残量はあるか	目視確認	60%以上であること	良好・不良	不良時は交換電池を準備
9	機器異常	エラー表示は出していないか	目視確認	エラー表示がないこと	良好・不良	取扱説明書P.44参照
10	動作状況	測定モード切替	動作確認	正常動作すること	良好・不良	取扱説明書P.18参照
11	動作状況	表示日時確認	動作確認	日付・時刻(分単位)が正しいこと	良好・不良	取扱説明書P.24参照

確認測定記録	
測定器	No.2
測定回数	測定値 cpm
1回目	
2回目	
3回目	
4回目	
5回目	
平均値	
標準偏差	
Avg+3σ	
Avg-3σ	

指示値変動試験

点検方法	判断基準	点検結果	備考
前回と前回の比較	5回の平均値が前回行った確認測定の標準偏差の3倍以内に収まっていること	良好・不良	

校正について参考

- 測定器の校正は1年に1回実施することが望ましい
- 校正の手配は、校正有効期限の2ヶ月前より校正機関へ予約を入れる。
- 時期によっては校正を受付できない月があるので、事前に確認しておく。
- 2台の同機種を約半年時期をずらすなどして、少なくとも1台は稼働できる状態にしておく。

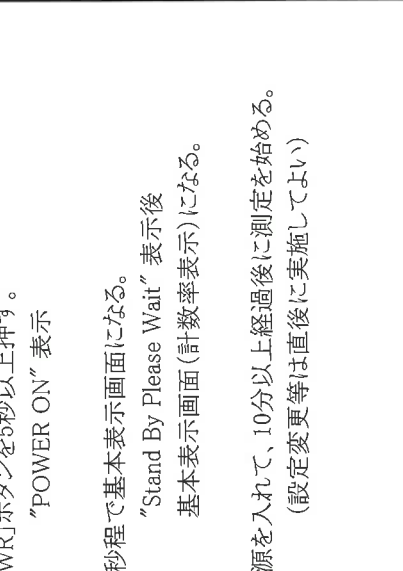
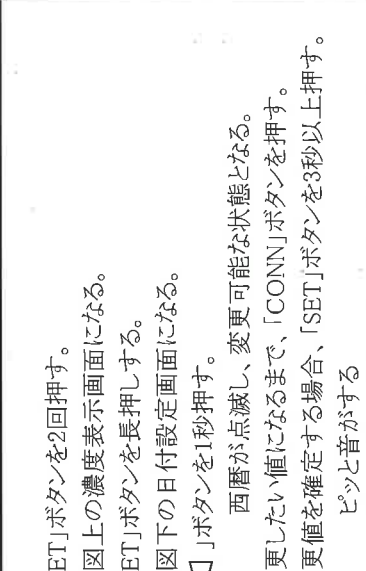


# GMサーバーバイメータ取扱手順

GMサーバーバイメータ日常点検要領に記載の取扱い方法として明記した


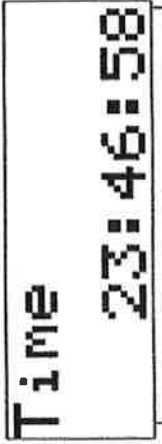
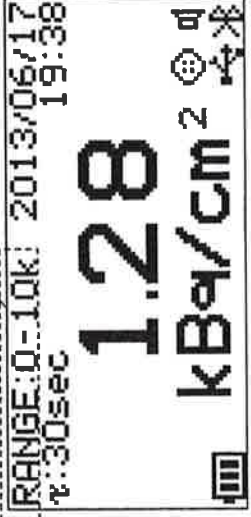
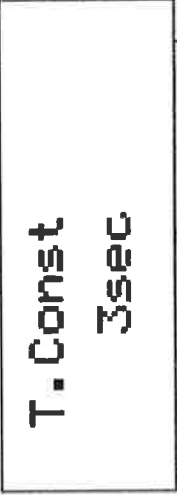
改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------

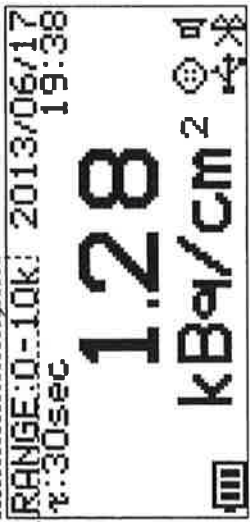
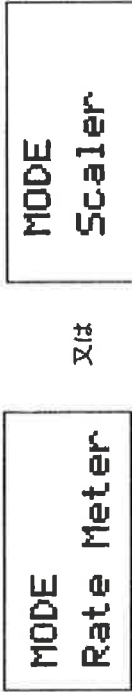

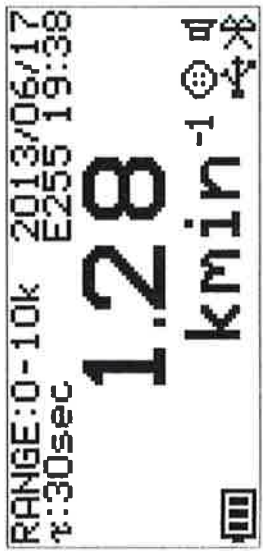
# 取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
1	《電源投入》	<p>電源投入</p>  <p>スイッチ操作部</p>	<p>(1) 「PWR」ボタンを5秒以上押す。 "POWER ON" 表示</p> <p>(2) 30秒程で基本表示画面になる。 "Stand By Please Wait" 表示後 基本表示画面(計数率表示)になる。</p> <p>(3) 電源を入れて、10分以上経過後に測定を始める。 (設定変更等は直後に実施してよい)</p>	
2	《日時確認》	<p>濃度表示画面へ</p>  <p>日付設定画面へ</p>	<p>(1) 「SET」ボタンを2回押す。</p> <p>(2) 左図上の濃度表示画面になる。</p> <p>(3) 「SET」ボタンを長押しする。</p> <p>(4) 左図下の日付設定画面になる。</p> <p>(5) 「」ボタンを1秒押す。 西暦が点滅し、変更可能な状態となる。</p> <p>(6) 変更したい値になるまで、「CONN」ボタンを押す。</p> <p>(7) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押す。 ビーン音がする</p> <p>(8) 「」ボタンを押すごとに、変更可能桁が移動するので、適宜目的の桁にあわせ、同様に変更確定する。</p> <p>(9) 「SET」ボタンを11回押すと基本表示画面に戻る。</p>	

取扱手順


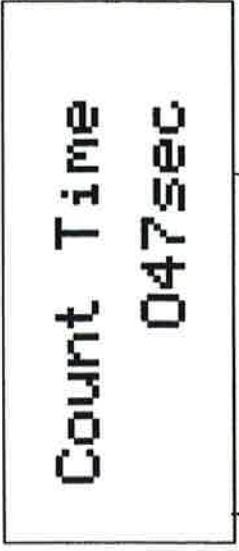

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
2 (続き)	《日時確認》	<p>濃度表示画面へ</p>  <p>時刻設定画面へ</p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「SET」ボタンを2回押す。</li> <li>(2) 左図上の濃度表示画面になる。</li> <li>(3) 「SET」ボタンを長押しする。 日付設定画面になる。</li> <li>(4) 「SET」ボタンを1回押す。</li> <li>(5) 左図下の時刻設定画面になる。</li> <li>(6) 「□」ボタンを1秒押す。 時間が点滅し、変更可能な状態となる。</li> <li>(7) 変更したい値になるまで、「CONN」ボタンを押す。</li> <li>(8) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押す。 ピッと音がする</li> <li>(9) 「□」ボタンを押すごとに、変更可能桁が移動するので、適宜目的の桁にあわせ、同様に変更確定する。</li> <li>(10) 「SET」ボタンを10回押すと基本表示画面に戻る。</li> </ol>	
3	《時定数設定》	<p>濃度表示画面へ</p>  <p>時定数設定画面へ</p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「SET」ボタンを2回押す。</li> <li>(2) 左図上の濃度表示画面になる。</li> <li>(3) 「SET」ボタンを長押しする。 日付設定画面になる。</li> <li>(4) 「SET」ボタンを2回押す。</li> <li>(5) 左図下の時定数設定画面になる。</li> <li>(6) 「□」ボタンを1秒押す。 時定数値が点滅し、変更可能な状態となる。</li> <li>(7) 変更したい値になるまで、「CONN」ボタンを押す。</li> <li>(8) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押す。 ピッと音がする</li> <li>(9) 「SET」ボタンを9回押すと基本表示画面に戻る。</li> </ol>	<p>・通常は10Secに設定しておく</p>

取扱手順



No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
4	《モード設定》	<p>濃度表示画面へ</p>  <p>モード画面へ</p>  <p>Scalerモードの基本画面</p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「SET」ボタンを2回押す。</li> <li>(2) 左図上の濃度表示画面になる。</li> <li>(3) 「SET」ボタンを長押しする。 日付設定画面になる。</li> <li>(4) 「SET」ボタンを9回押す。</li> <li>(5) 左図下のモード画面になる。</li> <li>(6) 「□」ボタンを1秒押す。 表示が点滅し、変更可能な状態となる。</li> <li>(7) 変更したいモードになるまで、「CONN」ボタンを押す。</li> <li>(8) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押す。 ピッと音がする</li> <li>(9) 基本表示画面に戻る。</li> </ol>	
5	《測定》 (Rateモード)	<p>基本設定画面(計数率画面)</p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 手順1により電源を投入すると、左図の基本設定画面(計数率画面)となり、そのまま測定状態となる。電源投入後、10分以上経過後に測定を実施する。</li> <li>(2) 測定対象に検出部正面を向けて構える</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「PWR」ボタンを押すと、バックライトが点灯。再度押すと消灯する。</li> <li>・ 方向指向性がある</li> </ul>



取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
6	《測定》 (Scalerモード)	Scalerモードの基本画面 	(1) 手順1により電源を投入する。 (2) 手順4によりモードを変更すると、左図の基本設定画面(計数値画面)となり、そのまま測定可能状態となる。電源投入後、10分以上経過後に測定を実施する。	・「□」ボタンを3秒押しすと、カウント音が出る。 音を止める場合も同じ操作。
		積算時間設定画面へ 	(1) 「SET」ボタンを長押しする。 日付設定画面になる。 (2) 「SET」ボタンを7回押し。 (3) 左図下の積算時間設定画面になる。 (4) 「□」ボタンを1秒押し。 表示が点滅し、変更可能な状態となる。 (5) 変更したい秒数になるまで、「CONN」ボタンを押し。 (6) 変更値を確定する場合、「SET」ボタンを3秒以上押し。 ピッと音がする (7) 「SET」ボタンを4回押しと基本表示画面に戻る。	
		積算データのリセット 積算開始(停止) 	(1) 「□」ボタンを3秒長押しすると、カウントが始まる。 (2) 途中で測定を止めたい場合は「□」ボタンを3秒長押しすると、カウントが停止する。 (3) 測定対象に検出部正面を向けて構える	・ 方向指向性がある

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考									
7	《異常確認》	<p>エラー表示を確認</p>  <p>エラーコード内容</p> <table border="1" data-bbox="678 1193 943 1747"> <thead> <tr> <th>エラーの種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E : 異常</td> </tr> <tr> <td>W : 故障</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="962 1193 1227 1747"> <thead> <tr> <th>エラーの番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>002 : 高圧電源</td> </tr> <tr> <td>004 : EEPROM/ROM/RAM</td> </tr> <tr> <td>008 : RTC 電池電圧</td> </tr> <tr> <td>032 : 温度</td> </tr> <tr> <td>128 : +5V 電源</td> </tr> </tbody> </table>	エラーの種類	E : 異常	W : 故障	エラーの番号	002 : 高圧電源	004 : EEPROM/ROM/RAM	008 : RTC 電池電圧	032 : 温度	128 : +5V 電源	<p>(1) 電源投入時に左図点線内部分にエラー表示が表示されていないか確認する。 (エラーがない場合は何も表示されない)</p> <p>(2) エラー表示がある場合、数回再起動を試みる。</p> <p>(3) 複数のエラーが発生した場合は、エラー番号の合計で表示される。 (例) E160 : +5V電源異常と使用温度範囲超過 (128 + 032 = 160)</p> <p>(4) エラーの状態を解決できない場合は、メーカーへ問合せまたは修理依頼する。</p>	
エラーの種類													
E : 異常													
W : 故障													
エラーの番号													
002 : 高圧電源													
004 : EEPROM/ROM/RAM													
008 : RTC 電池電圧													
032 : 温度													
128 : +5V 電源													
8	《電源断》	<p>電源を切る</p> 	<p>(1) 「PWR」ボタンを5秒以上押す。 "POWER OFF" 表示</p> <p>(2) 電源が切れる。</p>										

# 電離箱式サーベイメータ日常点検要領

測定機器管理台帳に記載の点検方法としてその要領を明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------

## 日常点検要領

測定機器管理担当者:

・電離箱式サーベイメータ

平成27年度

点検目的	1. 常時適正な使用が可能な状態を保つため。 2. 消耗品の交換時期到来前に対処するため。			
点検方法	様式-電離箱点検手順 による	点検記録	様式-電離箱点検記録 による	取扱い方法 様式-電離箱取扱 による
	実施頻度	1ヶ月に1回		
	実施場所	見通しの良い野外		
確認測定概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーベイメータを地上1mになるように構え、30秒後に線量率を読む。</li> <li>・通常時における線量(0<math>\mu</math>Sv/h ~ 0.1<math>\mu</math>Sv/h)値が表示されているか確認する。</li> <li>・GPSが現在地の緯度経度を示すか確認する。</li> </ul>			
	備考			

# 電離箱式サーバーメータ日常点検手順

電離箱式サーバーメータ日常点検要領に記載の点検方法としてその手順を明記した

改訂記録


制定日

2015年4月1日

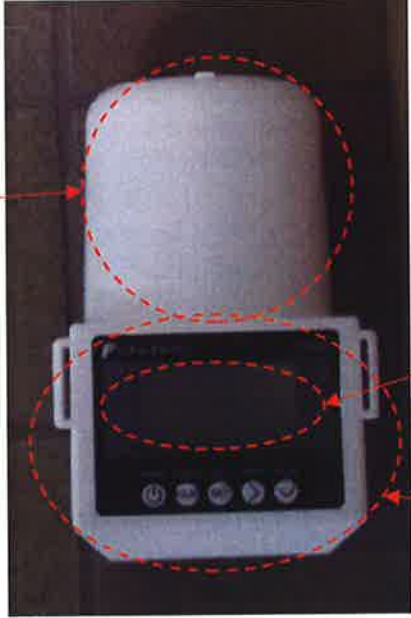

担当部署

監視情報課



日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
1	《保管状況》 ※ 鹿児島事務所の収納例	 <p>事務所内左下キャビネット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 電離箱式サーベイメータ No.1</li> <li>② 電離箱式サーベイメータ No.2</li> <li>③ GMサーベイメータ No.1</li> <li>④ GMサーベイメータ No.2</li> <li>⑤ NaIサーベイメータ No.1</li> <li>⑥ NaIサーベイメータ No.2</li> </ul>	<p>(1) 保管場所に電離箱サーベイメータ No.1及び電離箱サーベイメータ No.2が各々ケースに収納されている。</p> <p>(2) ケースを取り出し、収納物を目視確認する。</p> <p>(3) 次の物が収納されているか目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電離箱サーベイメータ本体</li> <li>・ 取扱説明書</li> <li>・ 最新の検査成績証</li> <li>・ 単三型アルカリ乾電池 5本</li> <li>・ ショルダージェット</li> </ul> <p>(4) 収納場所、収納物が正しければ良好とする。</p> <p>(5) 点検結果を「様式-電離箱点検記録」に記録する。</p>	<p>台帳に記載された保管場所を変更した場合は、測定器管理台帳を更新する。</p> <p>本体電池5本のこと</p>
2	《管理状況》	<p>各測定器に明示してある表示の例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>富士電機社製 NHA10123-11YYY-S Serial No.4C3638T 使用有効期限:平成##年##月##日 点検結果:良好</p> </div>	<p>(1) 次回校正予定日または有効期限の表示の有無を目視確認する。</p> <p>(2) 次回校正予定日または有効期限の2ヶ月前には校正機関への予約手配を行う。</p> <p>(3) 表示があり、有効期限内であれば良好とする。</p> <p>(4) 点検結果を該当機器の「様式-電離箱点検記録」に記録する。</p>	<p>校正作業で機器が手元にならない期間は3～4週間程度の見込。</p>

日常点検手順

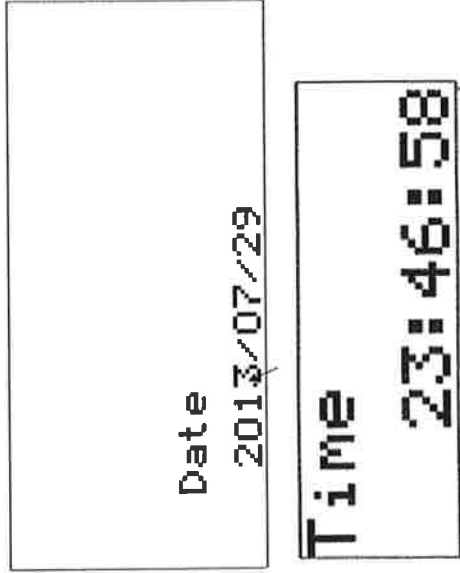
No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
3~5	《外觀状況》	 <p>検出部</p> <p>液晶表示部</p> <p>本体部分</p>	<p>(1) 本体に傷・破損はないか目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本体の周囲にひび割れ、凹み、欠損他不良と思われる点がないかを確認する。</li> </ul> <p>(2) 検出部に傷・破損はないか目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検出部の周囲にひび割れ、凹み、欠損他不良と思われる点がないかを確認する。</li> </ul> <p>(3) 液晶表示部に傷・破損はないか目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>液晶表示部にひび割れ、その他不良と思われる点がないかを確認する。</li> </ul> <p>(4) 上記4項目で傷等がなければ良好とする。</p> <p>(5) 点検結果を「様式-電離箱点検記録」に記録する。</p>	
6	《動作状況》 電源投入	 <p>スイッチ操作部</p>	<p>(1) 電源投入操作は正常にできるか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「PWR」ボタンを5秒以上押す。 "POWER ON" 表示 "Stand By Please Wait" 表示後10秒程で基本表示画面(線量率測定表示)になる。</li> </ul> <p>(2) 画面が点灯しない場合、次の原因が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電池切れ(次工程で確認する)</li> <li>電源ボタンの故障または内部の故障。</li> </ul> <p>(3) 基本表示画面(線量率測定表示)が表示されれば良好とする。</p> <p>(4) 点検結果を「様式-電離箱点検記録」に記録する。</p> <p>故障の場合は、メーカーによる修理を検討する。</p>	

日常点検手順

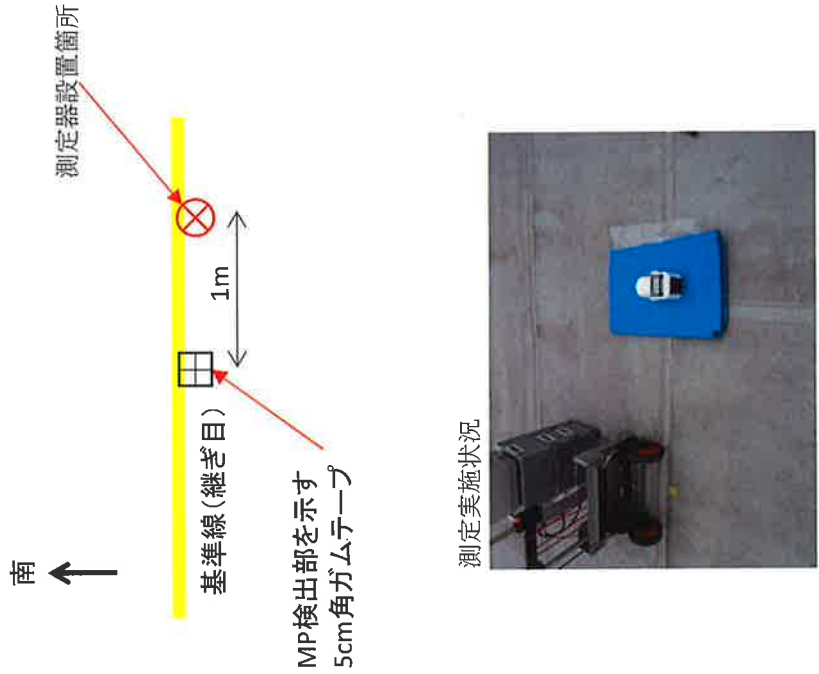
No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考																																				
8	《電池消耗》	 <p>電池残量表示</p>	<p>(1) 電池残量表示が2個以上(左写真は2個点灯)点灯しているか確認する。</p> <p>(2) 電池残量表示が1個点灯している場合は、直ちに予備電池(単三型アルカリ乾電池)5本をケースに入れ、すぐに交換できるように準備しておく。</p> <p>(3) 電池残量表示が1個点滅している場合は、直ちに予備電池(単三型アルカリ乾電池)5本を交換する。</p> <p>(4) 上記(1)である場合、または予備電池が準備できていることで良好とする。</p> <p>(5) 点検結果を「様式-電離箱点検記録」に記録する。</p>																																					
9	《機器異常》	 <table border="1" data-bbox="1125 1243 1452 1736"> <thead> <tr> <th>エラーコード</th> <th>(MSB)</th> <th>(LSB)</th> <th>エラー内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E001</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>RAM異常</td> </tr> <tr> <td>E005</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>ROM異常</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>EEPROM異常</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>RTC電池低</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>予備</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>速度故障</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-1.3V電源故障</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-1.3V電源故障</td> </tr> </tbody> </table> <p>各故障内容が発生した場合、該当するビットに「1」がセットされる。上記のビットを10進数に変換した値がエラーコードになります。故障エラーのみの場合欄文字に「*」、異常エラービットがセットされた場合は必ず欄文字に「E」がつきます。 例) E001:RAM異常</p>	エラーコード	(MSB)	(LSB)	エラー内容	E001	1	1	RAM異常	E005	1	1	ROM異常		1	1	EEPROM異常		1	1	RTC電池低		1	1	予備		1	1	速度故障		1	1	-1.3V電源故障		1	1	-1.3V電源故障	<p>(1) 電源投入時に左図点線内部分にエラー表示が表示されていないか確認する。 (エラーがない場合は何も表示されない)</p> <p>(2) エラー表示がある場合、数回再起動を試みる。</p> <p>(3) エラーが発生した場合は、左下表のとおりそれぞれのエラー番号が表示される。</p> <p>(4) エラーの状態を解決できない場合は、メーカーへ問合せまたは修理を検討する。</p> <p>(5) エラー表示がないことで良好とする。</p> <p>(6) 点検結果を「様式-電離箱点検記録」に記録する。</p>	
エラーコード	(MSB)	(LSB)	エラー内容																																					
E001	1	1	RAM異常																																					
E005	1	1	ROM異常																																					
	1	1	EEPROM異常																																					
	1	1	RTC電池低																																					
	1	1	予備																																					
	1	1	速度故障																																					
	1	1	-1.3V電源故障																																					
	1	1	-1.3V電源故障																																					



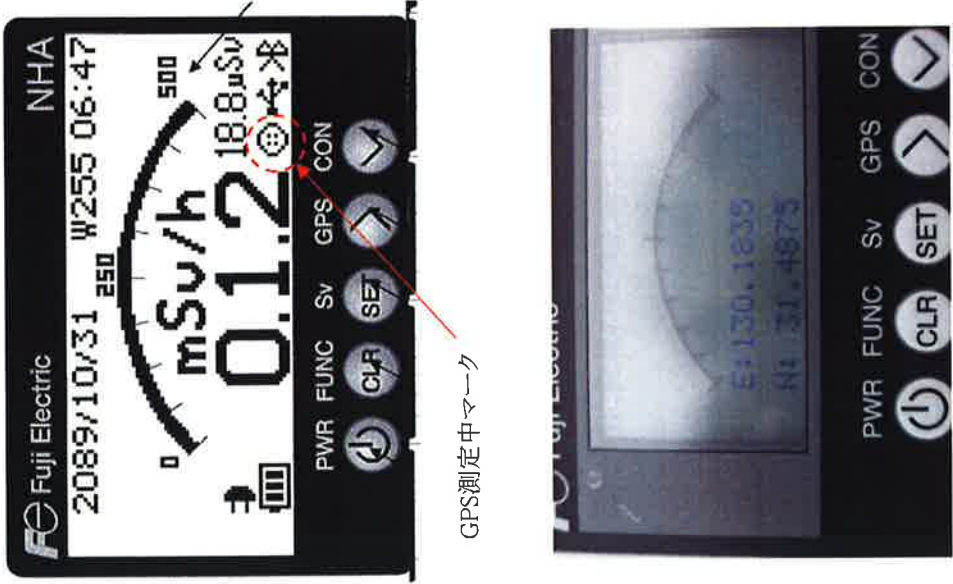
日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
10	《日時確認》		<p>実施方法および注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「FUNC」ボタンを1回押す。</li> <li>(2) 左記の日付設定画面になる。</li> <li>(3) 日付を確認する。 修正する場合は、電離箱取扱手順2日付変更(3)～(7)を参照して操作する。</li> <li>(4) 「FUNC」ボタンを2回押す。 日付設定からの続きの場合、1回押す。</li> <li>(5) 左記の日付設定画面になる。</li> <li>(6) 時刻を確認する。 修正する場合は、電離箱取扱手順2時刻変更(3)～(7)を参照して操作する。</li> <li>(7) 日付が正しい、および時刻が正しいことで良好とする。 (分は誤差5分以内、秒は問わず)</li> <li>(8) 点検結果を「様式-電離箱点検記録」に記録する。</li> <li>(9) 「FUNC」ボタンを5回押すと基本表示画面に戻る。</li> </ol>	

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
11	<p>《確認測定》</p> <p>※ 標準線源を使用しない確認測定の例</p>  <p>南 ↑</p> <p>測定器設置箇所</p> <p>基準線(継ぎ目)</p> <p>MP検出部を示す 5cm角ガムテープ</p> <p>測定実施状況</p>	<p>(1) 最初の電源投入から10分以上経過していることを確認の上、確認測定を始める。</p> <p>(2) 屋上MP測定箇所の西側(左図参照)に測定器を配置する。 (この時点で"セット完了"とする)</p> <p>(4) 測定器の"セット完了"したら、2分間放置する。</p> <p>(5) 2分経過後、指示値を読み取る。</p> <p>(6) 測定値を「様式-電離箱点検記録」項目11の備考欄に確認測定値を記録する。</p> <p>(7) 測定値が0~0.1 <math>\mu</math> Sv/h であれば良好とする。</p>	<p>測定回数1回でよい</p>	

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
12	《GPS指示値状況》	 <p>GPS測定中マーク</p> <p>GPS位置情報画面</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前項の確認測定を行った場所でGPS位置情報読み取りを行う。</li> <li>(2) 「GPS」ボタンを1回押す。</li> <li>(3) 左記のGPS測定中マークが点滅する。</li> <li>(4) 約1分後、表示が消える。</li> <li>(5) 「FUNC」ボタンを5回押すと位置情報表示画面になる。</li> <li>(6) 点検結果を「様式-電離箱点検記録」に記録する。</li> <li>(7) 位置データが左写真の位置情報とほぼ一致していれば良好とする。</li> <li>(8) 「FUNC」ボタンを2回押すと基本表示画面に戻る。</li> <li>(9) 電源を切る。 操作は電離箱取扱手順5を参照。</li> </ol>	<p>E : 130.1835 130度18.35分 N : 31.4875 31度48.75分</p> <p>注意:ラミセス端末には 度に変換して入力する。</p>

日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：電離箱式サーベイメータ No.1

測定器型式		富士電機社製 NHA10123-11YYY-S Serial No.4C3638T	
点検頻度：1ヶ月に1回		点検日：平成	年 月 日
No.	点検項目	点検事項	点検方法
1	保管状況	台帳に記載された場所に保管されているか	目視確認
2	管理状況	次回校正予定日(または有効期限)の表示があるか	目視確認
3	外観	本体に傷・破損はないか	目視確認
4	外観	検出部に傷・破損はないか	目視確認
5	外観	液晶表示部に傷・破損はないか	目視確認
6	動作状況	電源投入操作は正常にできるか	動作確認
7	電池消耗	電池残量はあるか	目視確認
8	機器異常	エラー表示は出していないか	目視確認
9	動作状況	測定モード切替	動作確認
10	動作状況	表示日時確認	動作確認
11	測定指示値状況	バックグラウンド環境における測定値	測定確認
12	GPS指示値状況	GPSは正常か。	測定確認

天気：

点検者：

判断基準

点検結果

備考

事務所に保管されていること  
 該当表示があること  
 傷・破損がないこと  
 傷・破損がないこと  
 傷・破損がないこと  
 正常動作すること  
 電池残量表示が2個以上点灯であること  
 エラー表示がないこと  
 正常動作すること  
 日付・時刻(分単位)が正しいこと  
 0  $\mu$  Sv/h  $\sim$  0.1  $\mu$  Sv/hであること  
 現在地の緯度経度を示すこと。

良好・不良  
 良好・不良  
 良好・不良  
 良好・不良  
 良好・不良  
 良好・不良  
 良好・不良  
 良好・不良  
 良好・不良  
 良好・不良  
 良好・不良  
 良好・不良

校正について下記参考

- 測定器の校正は1年に1回実施することが望ましい
- 校正の手配は、校正有効期限の2ヶ月前より校正機関へ予約を入れる。
- 時期によっては校正を受付できない月があるので、事前に確認しておく。
- 2台の同機種を約半年時期をずらすなどして、少なくとも1台は稼働できる状態にしておく。

測定値： $\mu$  Sv/h  
 注意：度分表示

# 日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：電離箱式サーベイメータ No.2		富士電機社製 NHA10123-11YYY-S Serial No.4C3639T			
測定器型式		天気：			
点検頻度：1ヶ月に1回		点検者：			
No.	点検項目	点検事項	点検結果	備考	
1	保管状況	台帳に記載された場所に保管されているか	事務所に保管されていること	良好・不良	
2	管理状況	次回校正予定日(または有効期限)の表示があるか	該当表示があること	良好・不良	校正について下記参考
3	外観	本体に傷・破損はないか	傷・破損がないこと	良好・不良	
4	外観	検出部に傷・破損はないか	傷・破損がないこと	良好・不良	
5	外観	液晶表示部に傷・破損はないか	傷・破損がないこと	良好・不良	
6	動作状況	電源投入操作は正常にできるか	正常動作すること	良好・不良	
7	電池消耗	電池残量はあるか	電池残量表示が2個以上点灯であること	良好・不良	不良時は交換電池を準備
8	機器異常	エラー表示は出ているか	エラー表示がないこと	良好・不良	取扱説明書P.33参照
9	動作状況	測定モード切替	正常動作すること	良好・不良	取扱説明書P.24参照
10	動作状況	表示日時確認	日付・時刻(分単位)が正しいこと	良好・不良	取扱説明書P.25参照
11	測定指示値状況	バックグラウンド環境における測定値	0 $\mu$ Sv/h $\sim$ 0.1 $\mu$ Sv/hであること	良好・不良	(測定値： $\mu$ Sv/h)
12	GPS指示値状況	GPSは正常か。	現在地の緯度経度を示すこと。	良好・不良	注意:度分表示

校正について参考

- ・ 測定器の校正は1年に1回実施することが望ましい
- ・ 校正の手配は、校正有効期限の2ヶ月前より校正機関へ予約を入れる。
- ・ 時期によっては校正を受付できない月があるので、事前に確認しておく。
- ・ 2台の同機種を約半年時期をずらすなどして、少なくとも1台は稼働できる状態にしておく。



# 電離箱式サーバイメータ取扱手順

電離箱式サーバイメータ日常点検要領に記載の取扱い方法として明記した

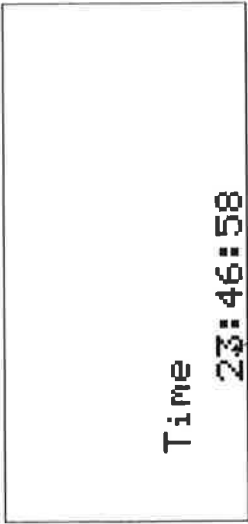
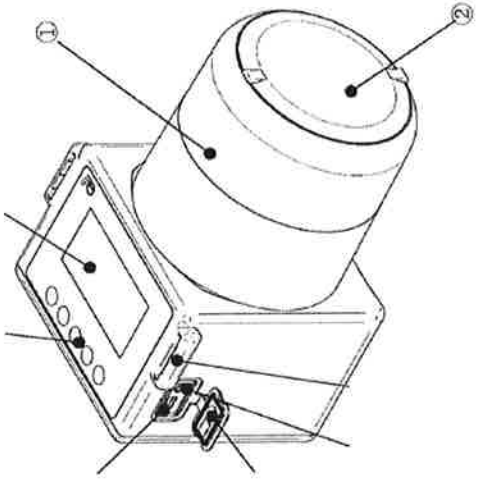
改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------

取扱手順

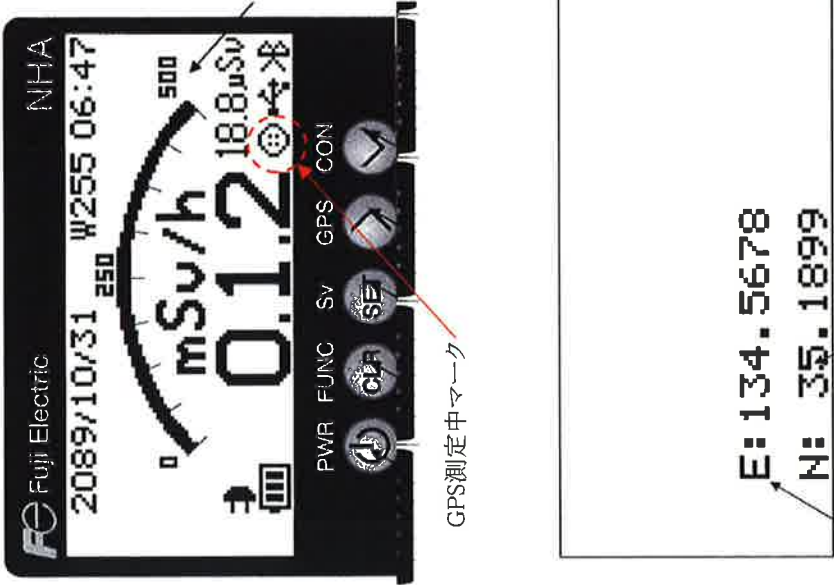
No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
1	《電源投入》 電源投入	 <p style="text-align: center;">スイッチ操作部</p>	<p>(1) 「PWR」ボタンを3秒以上押す。 "POWER ON" 表示</p> <p>(2) 10秒程で基本表示画面になる。 "Stand By Please Wait" 表示後 基本表示画面になる</p> <p>(3) 電源を入れて、約10分経過後に測定を始める。 (設定変更等は直後に実施してよい)</p>	
2	《日時確認》 日付設定画面へ		<p>(1) 「FUNC」ボタンを1回押す。</p> <p>(2) 左記の日付設定画面になる。</p> <p>(3) 「GPS」ボタンを1回押す。 西暦が点滅し、変更可能な状態となる。</p> <p>(4) 変更したい値になるまで、「CON」ボタンを押す。</p> <p>(5) 変更値を確定する場合、「Sv」ボタンを押す。</p> <p>(6) 「GPS」ボタンを押すごとに、変更可能桁が移動するので、適宜目的の桁にあわせ、同様に変更確定する。</p> <p>(7) 「FUNC」ボタンを6回押すと基本表示画面に戻る。</p>	

取扱手順

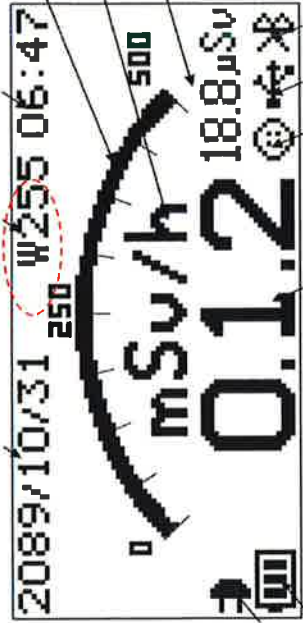

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
2 (続き)	《日時確認》	時刻設定画面へ 	(1) 「FUNC」ボタンを2回押す。 日付設定からの続きの場合、1回押す。 (2) 左記の日付設定画面になる。 (3) 「GPS」ボタンを1回押す。 時間が点滅し、変更可能な状態となる。 (4) 変更したい値になるまで、「CON」ボタンを押す。 (5) 変更値を確定する場合、「Sv」ボタンを押す。 (6) 「GPS」ボタンを押すごとに、変更可能桁が移動するので、適宜目的の桁にあわせ、同様に変更確定する。 (7) 「FUNC」ボタンを5回押すと基本表示画面に戻る。	
3	《測定》		(1) 特に指示がない場合は、床面より1mの高さで測定する。 (2) 左図②のキャップは通常装着したままで測定する。 (3) 手で測定器を支える場合、左図①の検出部を持ってはならない。(本体四角部分を持つ) (4) 測定対象に検出部正面を向けて構える (5) 低線量場では測定を始めてから約30秒後の表示値を記録する。(高線量場では約6秒後の表示値) (6) 「PWR」ボタンを押すとバックライトが点灯する。もう一度ボタンを押すか、60秒後に消灯する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 左図①の検出部中央の高さ</li> <li>• 方向指向性がある</li> <li>• 低線量:10mSv/h以下 (仕様による)</li> </ul>



取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
4	<p>《GPS計測》 位置データ確認</p>	 <p>GPS測定中マーク</p> <p>位置情報表示画面</p>	<p>(1) 「GPS」ボタンを1回押す。</p> <p>(2) 左記のGPS測定中マークが点滅する。</p> <p>(3) 約1分後、表示が消える。</p> <p>(4) 「FUNC」ボタンを5回押すと位置情報表示画面になる。</p> <p>(5) 「FUNC」ボタンを2回押すと基本表示画面に戻る。</p>	<p>E : 134.5678 134度56.78分 N : 35.1899 31度18.99分 注意:ラミセス端末には 度に変換して入力する。</p>

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考																	
5	<p>《異常確認》</p> <p>エラー表示を確認</p>  <p>エラーコード内容</p> <table border="1" data-bbox="746 1160 1225 1870"> <thead> <tr> <th>エラーコード</th> <th>エラー内容 (LSB)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E001</td> <td>RAM 異常</td> </tr> <tr> <td>E255</td> <td>ROM 異常</td> </tr> <tr> <td></td> <td>EEPROM 異常</td> </tr> <tr> <td></td> <td>RTC 電池低</td> </tr> <tr> <td></td> <td>予備</td> </tr> <tr> <td></td> <td>温度故障</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-3.3V 電源故障</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+3.3V 電源故障</td> </tr> </tbody> </table> <p>各故障内容が発生した場合、該当するビットに「1」がセットされる。                      上記8ビットを10進数に変換した値がエラーコードになります。                      故障エラーのみの場合頭文字に「W」、異常エラービットがセットされた場合は必ず頭文字に「E」がきます。                      例) E001: RAM異常</p>	エラーコード	エラー内容 (LSB)	E001	RAM 異常	E255	ROM 異常		EEPROM 異常		RTC 電池低		予備		温度故障		-3.3V 電源故障		+3.3V 電源故障	<p>(1) 電源投入時に左図点線内部分にエラー表示が表示されていないか確認する。                      (エラーがない場合は何も表示されない)</p> <p>(2) エラー表示がある場合、数回再起動を試みる。</p> <p>(3) エラーの状態を解決できない場合は、メーカーへ問合せまたは修理依頼する。</p>	
エラーコード	エラー内容 (LSB)																				
E001	RAM 異常																				
E255	ROM 異常																				
	EEPROM 異常																				
	RTC 電池低																				
	予備																				
	温度故障																				
	-3.3V 電源故障																				
	+3.3V 電源故障																				
6	<p>《電源断》</p> <p>電源を切る</p> 	<p>(1) 「PWR」ボタンを5秒以上押す。                      “POWER OFF”表示</p> <p>(2) 電源が切れる。</p>																			

様式-簡易MP点検

# 簡易モニタリングポスト日常点検要領

測定機器管理台帳に記載の点検方法としてその要領を明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------

# 日常点検要領

測定機器管理担当者:

・簡易モニタリングポスト(鹿児島簡易MP)

点検目的	1.バッテリーの健全状態を保つため、適度に充放電を繰り返し、長期に使用しない状態が続かないようにする。				
	2.バッテリーと簡易モニタリングポストの組合せを変えて測定することで、不具合時の原因究明に役立つ。				
	3.定点点検により、各簡易モニタリングポストの指示値比較ができる。また、不具合時期の考察参考となる。				
点検方法	様式-MP点検手順 による	点検記録	様式-MP点検記録 による	取扱い方法	様式-MP取扱 による
	実施頻度	バッテリーセットを6ヶ月以内に一度は充放電させる。最低1ヶ月に1回(雨天時を避け、木曜日または金曜日に運転)			
実施期間	該当MPについて約1週間				
点検運転方法	実施場所	当建屋上(下左図参照)			
	要領	本体装置			
		バッテリー			
備考	都合によっては中断または測定しない週ができてよい				

当建屋上における測定点を示す図



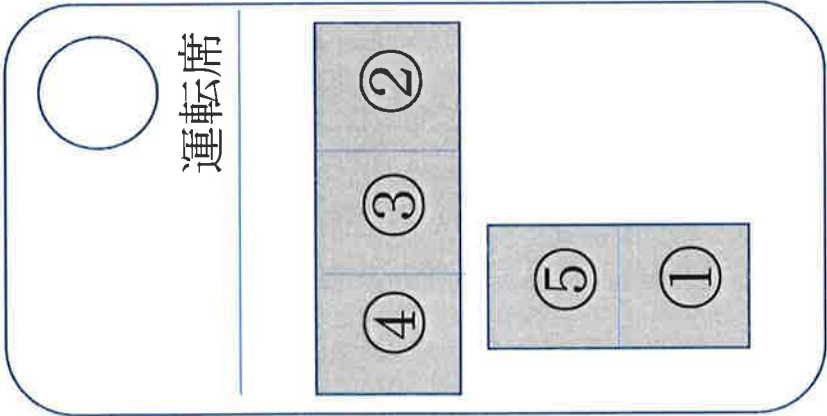
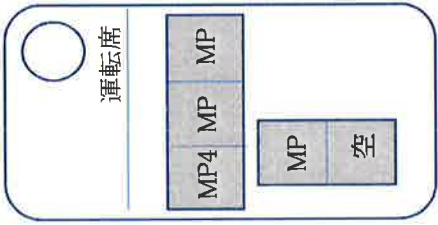
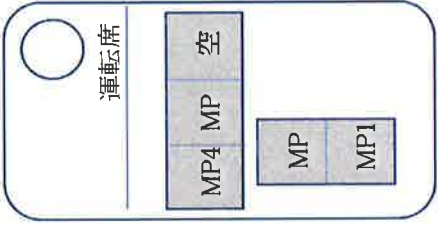
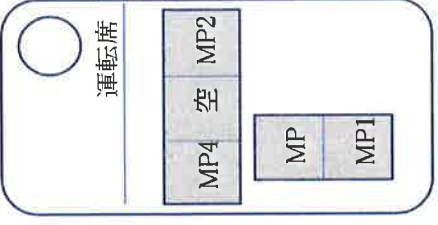
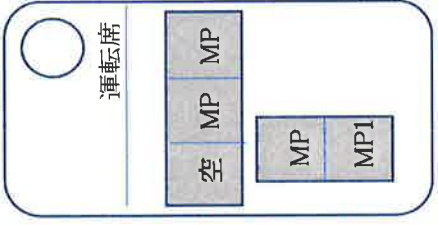
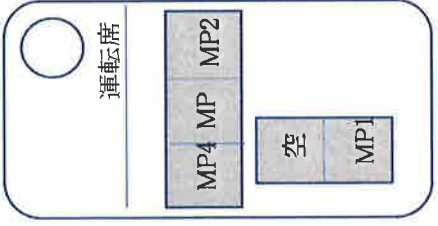
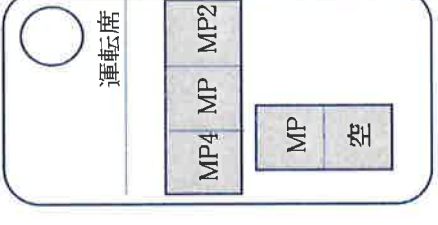
バッテリー交換ローテーションの流れ

状況	点検運転	待機	待機	待機	待機	待機	充電
1回目点検	装置	MP1	MP2	MP3	MP4	MP5	-
	バッテリー	B1	B2	B3	B4	B5	S.B
2回目点検	装置	MP2	MP3	MP4	MP5	MP1	-
	バッテリー	B2	B3	B4	B5	S.B	B1
3回目点検	装置	MP3	MP4	MP5	MP1	MP2	-
	バッテリー	B3	B4	B5	S.B	B1	B2

4回目以降同様に

# 日常点検要領

簡易モニタリングポスト 点検運転ローテーション表

車載状況	
<p>①～⑤：積載場所番号 (積載場所番号と本体装置の機器管理番号は一致させる)</p> 	
<p>1. MP1 点検運転中の車載状態</p> 	<p>2. MP2 点検運転中の車載状態</p> 
<p>3. MP3 点検運転中の車載状態</p> 	<p>4. MP4 点検運転中の車載状態</p> 
<p>5. MP5 点検運転中の車載状態</p> 	<p>6. MP6 点検運転中の車載状態</p> 

※MP3を降ろした後にMP2を積む

※MP1を降ろした後にMP5を積む

※MP5を降ろした後にMP4を積む

※MP4を降ろした後にMP3を積む

様式-簡易MP点検手順

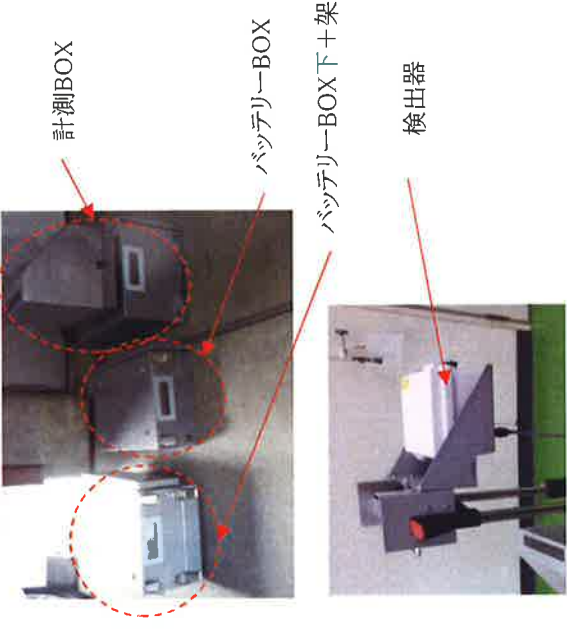
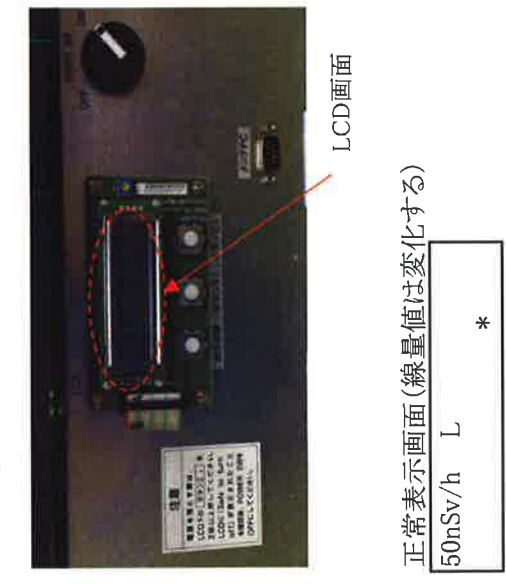
# 簡易モニタリングポスト日常点検手順

簡易モニタリングポスト日常点検要領に記載の点検方法としてその手順を明記した

改訂記録

制訂日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------

日常点検手順

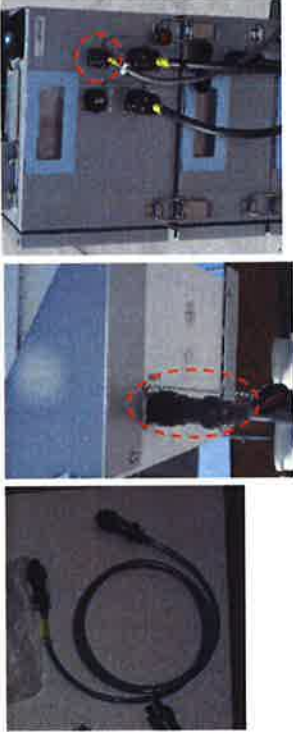
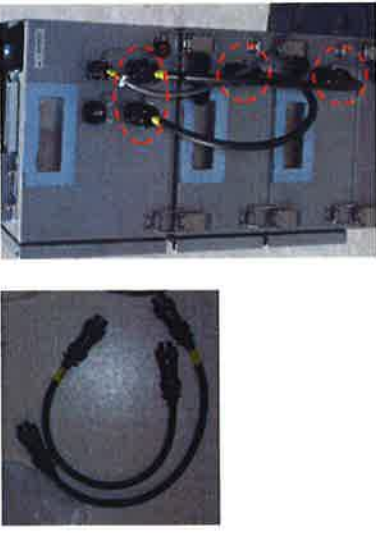
No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
1	<p>《外観》 装置本体</p>		<p>(1) 次の機器に傷・破損はないか目視確認する。                      ・検出器BOX                      ・衛星アンテナBOX、計測BOX                      ・バッテリーBOX(上)                      ・バッテリーBOX(下)、架台</p> <p>(2) 傷、破損その他不良点がなければ良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を該当機器の「様式-MP点検記録」に記録する。</p>	
2	<p>《機能》 正常起動</p>		<p>(1) MP取扱-3 取扱手順11により、車載状態から測定準備状態へ装置を組み上げる。</p> <p>(2) MP取扱-4 取扱手順12により、測定器を運転操作し、起動させる。</p> <p>(3) LCD画面に左下図の正常表示であれば良好とする。</p> <p>(4) 点検結果を該当機器の「様式-MP点検記録」に記録する。</p>	<p>車載から測定状態へは約1時間ほどの作業時間を要します。</p>

日常点検手順

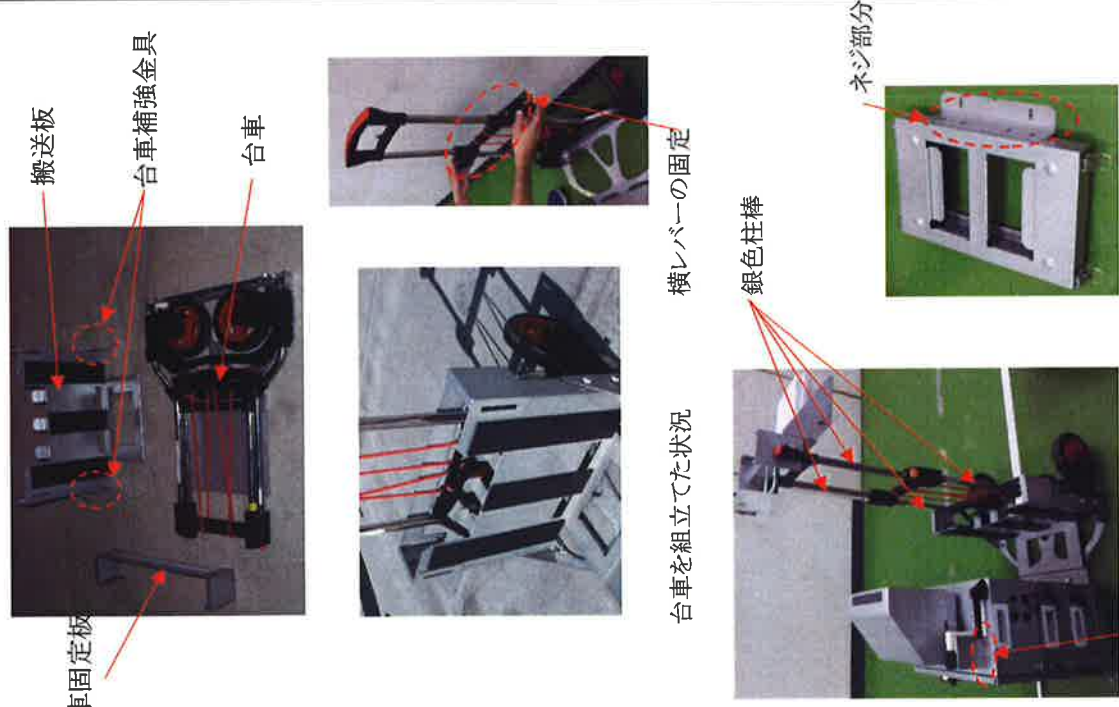
No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
3	《機能》 故障・異常情報	 <p>LCD画面</p> <p>「表示切替」ボタン</p>	<p>(1) 「表示切替」ボタンを3回押すと、故障・異常情報が表示される。</p> <p>(2) LCD画面が「NON_ERR」の表示であれば良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を該当機器の「様式-MP点検記録」に記録する。</p>	<p>エラー表示がある場合は、MP取扱-5 取扱手順14を参照。</p>
4	《保管状況》 鍵		<p>(1) 左写真の3組の鍵があることを確認する。</p> <p>(2) 3組そろっていれば良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を該当機器の「様式-MP点検記録」に記録する。</p>	
5~7	《保管・状態・機能》 ラジジングベルト		<p>(1) 左写真のベルトがあることを確認する。</p> <p>(2) 傷、破損がないか確認する。</p> <p>(3) 締上げ固定ができるか確認する。</p> <p>(4) 傷等がなく、締上げ固定できれば良好とする。</p> <p>(5) 点検結果を該当機器の「様式-MP点検記録」に記録する。</p>	



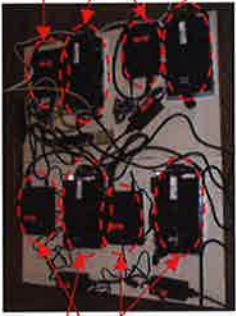
日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
8~11	《保管・状態・機能》 検出器ケーブル		<p>(1) 左写真のケーブルが1本あることを確認する。                  (2) 傷、破損がないか確認する。                  (3) 端子接続に緩み等不良がないか確認する。                  (4) 傷等がなく、端子接続に緩み等不良がなければ良好とする。                  (5) 伝送状態は、本体LCD画面に「TED」エラーがなければ良好とする。                  (6) 点検結果を該当機器の「様式-MP点検記録」に記録する。</p>	
12~14	《保管・状態・機能》 DCケーブル		<p>(1) 左写真のケーブルが2本あることを確認する。                  (2) 傷、破損がないか確認する。                  (3) 端子接続に緩み等不良がないか確認する。                  (4) 傷等がなく、端子接続に緩み等不良がなければ良好とする。                  (5) 電源供給状態は、本体が正常起動すれば良好とする。                  (6) 点検結果を該当機器の「様式-MP点検記録」に記録する。</p>	

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
15~17	《保管・状態・機能》 台車一式		<p>(1) 左写真の台車一式があることを確認する。          ・台車本体          ・搬送板＋台車補強金具          ・台車固定板</p> <p>(2) 各パーツに傷、破損がないか確認する。</p> <p>(3) 横レバーの組立て固定ができるか確認する。</p> <p>(4) 傷等がなく、組立て固定できれば良好とする。</p> <p>(5) 点検結果を該当機器の「様式-MP点検記録」に記録する。</p> <p>※ メンテナンスのために屋外で組み立てる際に、次の箇所を重点的に防錆措置を施す。          ・架台ローレットネジ穴（L字フレーム4穴部分）およびネジ本体          ・台車本体の銀色柱棒表面          ・GPS受信機台座固定ネジ部分</p> <p>※ メンテナンスのために1週間ほど屋外で移動した後は、土ほこりや水滴を雑巾で拭く。</p>	<p>防錆措置          CRC 5-56 スプレーなどで          塗布後、ウエスでなじませる。</p>

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
18~19	《保管・状態》 ACケーブル		(1) 保管場所に1個保管されているか目視確認をする。 (2) ケーブルに傷、破損がないか確認する。 (3) 収納場所、傷等がなければ良好とする。 (4) 点検結果を該当機器の「様式-MP点検記録」に記録する。	台帳管理はしていない
20~21	《保管・状態》 バッテリー・充電器		(1) 保管場所に充電器が4個保管されているか目視確認をする。 (2) 保管場所にバッテリーが4個保管されているか目視確認をする。 (3) 各々に傷、破損がないか確認する。 (4) 収納場所、傷、充電不良等がなければ良好とする。 (5) 点検結果を該当機器の「様式-MP点検記録」に記録する。	台帳に記載された保管場所を変更した場合は、測定器付属品管理台帳を更新する。

# 簡易モニタリングポスト日常点検記録

簡易モニタリングポスト日常点検要領に記載の点検記録として明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------

日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：簡易モニタリングポスト		機器管理番号：鹿児島簡易MPI		Serial No. R4F0056T				
点検頻度：点検運転の都度		点検日：平成 年 月 日		天気：		点検者：		
測定開始日時：		測定終了日時：		使用バッテリートレートNo.:		1個目 2個目 3個目 4個目		
No.	機器管理番号(名称)	保管場所	点検項目	点検事項	点検方法	判断基準	点検結果	備考
1			外觀	傷・破損はないか	目視確認	検出器BOX・衛星アンテナBOX・バッテリーBOXに傷・破損がないこと	良好・不良	
2	装置本体		機能	正常起動するか	運転確認	本体LCD画面に通常の測定値が表示されていること	良好・不良	
3				故障・異常情報の確認	表示確認	「ERR・・・」表示がないこと	良好・不良	「MP取扱(14)」参照
4	鍵	放射線測定車	保管状況	3種類あるか	目視確認	3種類あること	良好・不良	
5			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
6	ラッシングベルト		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
7			機能	締上げ固定できるか	動作確認	ベルトが緩まずロックできること	良好・不良	
8			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
9			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
10	検出器ケーブル	鹿児島800		端子接続状況	接触確認	緩み・抜けがないこと	良好・不良	
11			機能	信号伝送は良好か	運転確認	本体LCD画面に「TED」エラーが出ないこと	良好・不良	
12			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物が2本あること	良好・不良	
13	DCケーブル2本		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
14			機能	電源供給は良好か	運転確認	本体運転時に正常起動できること	良好・不良	
15			保管状況	該当物があるか	目視確認	台車固定板・搬送板・台車補強金具・ローレットネジ4本が1組で存在すること	良好・不良	
16	台車一式		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	防錆措置を組立て時に実施のこと(点検手順参照)
17			機能	組み立て固定できるか	動作確認	組み立て後極度な緩みがないこと	良好・不良	
18	ACケーブル1本	事務所	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
19			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
20	バッテリー・充電器	事務所	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	充電器4個は共通
21			状態	不良・破損はないか	目視確認	不良・破損がないこと	良好・不良	

日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：簡易モニタリングポスト		機器管理番号：鹿兒島簡易MP2		Serial No. R4F0057T									
点検頻度：点検運転の都度		点検日：平成 年 月 日		天気：									
測定開始日時：		測定終了日時：		1個目		2個目		3個目		4個目			
No.	機器管理番号(名称)	保管場所	点検項目	点検事項	点検方法	判断基準	点検結果					備考	
1			外観	傷・破損はないか	目視確認	検出器BOX・衛星アンテナBOX・バッテリーBOXに傷・破損がないこと	良好	不良					
2	装置本体		機能	正常起動するか	運転確認	本体LCD画面に通常の測定値が表示されていること	良好	不良					
3				故障・異常情報の確認	表示確認	「ERR・・・」表示がないこと	良好	不良					「MP取扱(14)」参照
4	鍵	放射線測定車	保管状況	3種類あるか	目視確認	3種類あること	良好	不良					
5			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良					
6	ラッシングベルト		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良					
7			機能	締上げ固定できるか	動作確認	ベルトが緩まらずロックできること	良好	不良					
8			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良					
9			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良					
10	検出器ケーブル	鹿兒島	機能	端子接続状況	接触確認	緩み・抜けがないこと	良好	不良					
11		800		信号伝送は良好か	運転確認	本体LCD画面に「TED」エラーが出ないこと	良好	不良					
12		す5963	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物が2本あること	良好	不良					
13	DCケーブル2本		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良					
14			機能	電源供給は良好か	運転確認	本体運転時に正常起動できること	良好	不良					
15			保管状況	該当物があるか	目視確認	台車固定板・搬送板・台車補強金具・ローレットネジ4本が一組で存在すること	良好	不良					
16	台車一式		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良					
17			機能	組み立て固定できるか	動作確認	組み立て後極度な緩みがないこと	良好	不良					防錆措置を組立て時に実施のこと(点検手順参照)
18	ACケーブル1本	事務所	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良					
19			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良					
20	バッテリー・充電器	事務所	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良					
21			状態	不良・破損はないか	目視確認	不良・破損がないこと	良好	不良					充電器4個は共通

日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：簡易モニタリングポスト		機器管理番号：鹿兒島簡易MP3		Serial No. R4F0058T							
点検頻度：点検運転の都度		点検日：平成 年 月 日		天気：							
測定開始日時：		測定終了日時：		1個目		2個目		3個目		4個目	
No.	機器管理番号(名称)	保管場所	点検項目	点検事項	点検方法	判断基準	点検結果		備考		
1	装置本体		外観	傷・破損はないか	目視確認	検出器BOX・衛星アンテナBOX・バッテリーBOXに傷・破損がないこと	良好	不良			
2			機能	正常起動するか	運転確認	本体LCD画面に通常の測定値が表示されていること	良好	不良			
3				故障・異常情報の確認	表示確認	「ERR・・・」表示がないこと	良好	不良	「MP取扱(14)」参照		
4	鍵	放射線測定車	保管状況	3種類あるか	目視確認	3種類あること	良好	不良			
5			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良			
6	ラッシングベルト		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良			
7			機能	締上げ固定できるか	動作確認	ベルトが緩まずロックできること	良好	不良			
8			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良			
9	検出器ケーブル	鹿兒島800	状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良			
10			機能	端子接続状況	接触確認	緩み・抜けがないこと	良好	不良			
11				信号伝送は良好か	運転確認	本体LCD画面に「TED」エラーが出ないこと	良好	不良			
12		す5963	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物が2本あること	良好	不良			
13	DCケーブル2本		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良			
14			機能	電源供給は良好か	運転確認	本体運転時に正常起動できること	良好	不良			
15	台車一式		保管状況	該当物があるか	目視確認	台車固定板・搬送板・台車補強金具・ローレットネジ4本が1組で存在すること	良好	不良			
16			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良	防錆措置を組立て時に実施のこと(点検手順参照)		
17			機能	組み立て固定できるか	動作確認	組み立て後極度な緩みがないこと	良好	不良			
18	ACケーブル1本	事務所	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良			
19			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良			
20	バッテリー・充電器	事務所	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	充電器4個は共通		
21			状態	不良・破損はないか	目視確認	不良・破損がないこと	良好	不良			

日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：簡易モニタリングポスト		機器管理番号：鹿兒島簡易MP4		Serial No. R4F0059T				
点検頻度：点検運転の都度		点検日：平成 年 月 日		天気：				
測定開始日時：		測定終了日時：		点検者：				
No.	機器管理番号(名称)	保管場所	点検項目	点検事項	点検方法	判断基準	点検結果	備考
1			外観	傷・破損はないか	目視確認	検出器BOX・衛星アンテナBOX・バッテリーBOXに傷・破損がないこと	良好・不良	
2	装置本体		機能	正常起動するか	運転確認	本体LCD画面に通常の測定値が表示されていること	良好・不良	
3				故障・異常情報の確認	表示確認	「ERR・・・」表示がないこと	良好・不良	「MP取扱(14)」参照
4	鍵	放射線測定車	保管状況	3種類あるか	目視確認	3種類あること	良好・不良	
5			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
6	ラッシングベルト		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
7			機能	締上げ固定できるか	動作確認	ベルトが緩まずロックできること	良好・不良	
8			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
9	検出器ケーブル	鹿兒島800	状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
10			機能	端子接続状況	接触確認	緩み・抜けがないこと	良好・不良	
11				信号伝送は良好か	運転確認	本体LCD画面に「TED」エラーが出ないこと	良好・不良	
12		す5963	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物が2本あること	良好・不良	
13	DCケーブル2本		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
14			機能	電源供給は良好か	運転確認	本体運転時に正常起動できること	良好・不良	
15	台車一式		保管状況	該当物があるか	目視確認	台車固定板・搬送板・台車補強金具・ローレットネジ4本が1組で存在すること	良好・不良	
16			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	防錆措置を組立て時に実施のこと(点検手順参照)
17			機能	組み立て固定できるか	動作確認	組み立て後極度な緩みがないこと	良好・不良	
18	ACケーブル1本	事務所	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
19			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
20	バッテリー・充電器	事務所	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	充電器4個は共通
21			状態	不良・破損はないか	目視確認	不良・破損がないこと	良好・不良	



日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：簡易モニタリングポスト		機器管理番号：鹿兒島簡易MP5		Serial No. R4F0060T									
点検頻度：点検運転の都度		点検日：平成 年 月 日		天気：									
測定開始日時：		測定終了日時：		1個目		2個目		3個目		4個目			
No.	機器管理番号(名称)	保管場所	点検項目	点検事項	点検方法	判断基準	点検結果					備考	
1	装置本体		外観	傷・破損はないか	目視確認	検出器BOX・衛星アンテナBOX・バッテリーBOXに傷・破損がないこと	良好	不良					
2			機能	正常起動するか	運転確認	本体LCD画面に通常の測定値が表示されていること	良好	不良					
3				故障・異常情報の確認	表示確認	「ERR・・・」表示がないこと	良好	不良					「MP取扱(14)」参照
4	鍵	放射線測定車	保管状況	3種類あるか	目視確認	3種類あること	良好	不良					
5			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良					
6	ラッシングベルト		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良					
7			機能	締上げ固定できるか	動作確認	ベルトが緩まらずロックできること	良好	不良					
8			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良					
9			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良					
10	検出器ケーブル	鹿兒島	端子接続状況		接触確認	緩み・抜けがないこと	良好	不良					
11		800	信号伝送は良好か		運転確認	本体LCD画面に「TED」エラーが出ないこと	良好	不良					
12		す5963	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物が2本あること	良好	不良					
13	DCケーブル2本		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良					
14			機能	電源供給は良好か	運転確認	本体運転時に正常起動できること	良好	不良					
15			保管状況	該当物があるか	目視確認	台車固定板・搬送板・台車補強金具・ローレットネジ4本が一組で存在すること	良好	不良					
16	台車一式		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良					
17			機能	組み立て固定できるか	動作確認	組み立て後極度な緩みがないこと	良好	不良					防錆措置を組立て時に実施のこと(点検手順参照)
18	ACケーブル1本	事務所	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良					
19			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好	不良					
20	バッテリー・充電器		保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良					
21		事務所	状態	不良・破損はないか	目視確認	不良・破損がないこと	良好	不良					充電器4個は共通


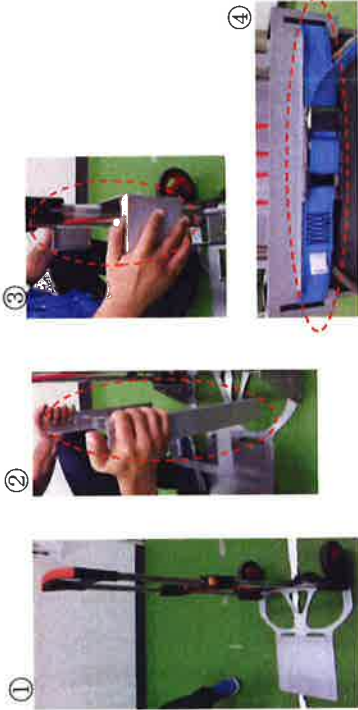
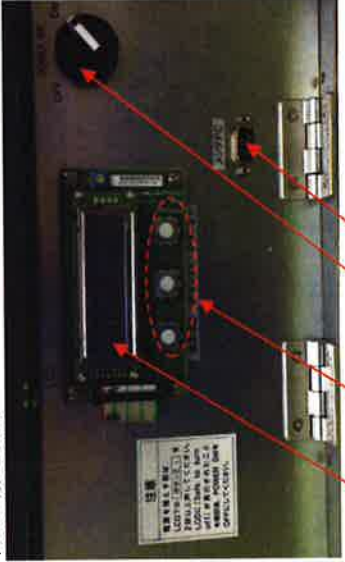
# 簡易モニタリングシステム取扱手順

簡易モニタリングシステム日常点検要領に記載の取扱い方法として明記した


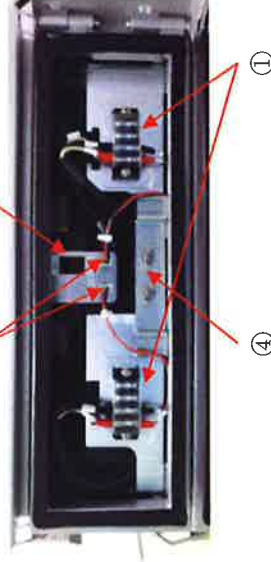
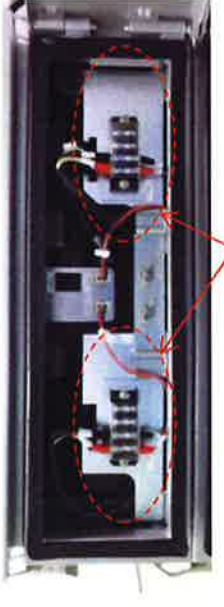

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------


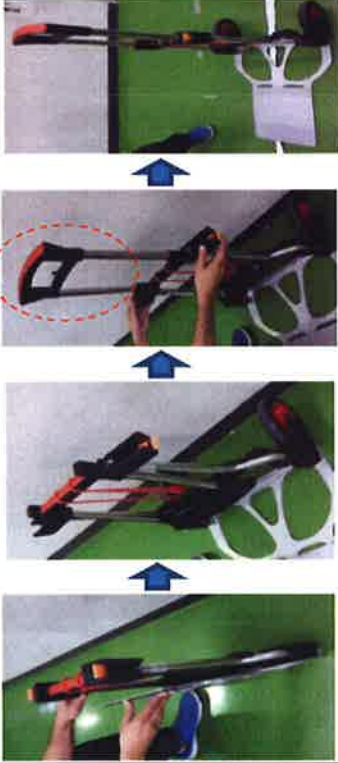

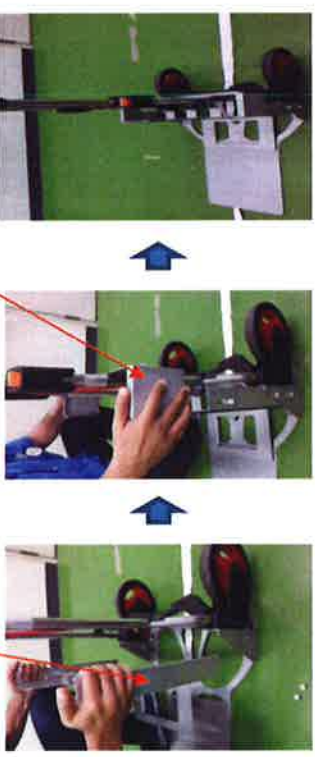

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
1	<p>《基本手順》 付属品を把握</p>	<p>付属品の状況を確認</p> 	<p>次のパーツが1台につき1セットそろっていることを目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① DCケーブル2本</li> <li>② 検出器ケーブル1本</li> <li>③ 鍵3種類                         <ul style="list-style-type: none"> <li>a 計測BOX、バッテリーBOX用</li> <li>b 衛星アンテナカバー用</li> <li>c 検出器BOX用</li> </ul> </li> <li>④ ローレットネジ4個</li> </ul>	
2	<p>《基本手順》 架台パーツを把握</p>	<p>架台構成部品の状況を確認</p> 	<p>次のパーツが1台につき1セットそろっていることを目視確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 台車</li> <li>② 搬送板</li> <li>③ 台車補強金具</li> <li>④ ラッシングベルト</li> </ul>	
3	<p>《基本手順》 計測BOX操作パネル配置の確認</p>	<p>計測BOX扉を開く</p> 	<p>鍵①を使用して開ける。 開けると左の写真の様子が伺える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① LCD表示器</li> <li>② 押ボタンスイッチ</li> <li>③ POWERスイッチ</li> <li>④ メンテPC用コネクタ</li> </ul>	


## 取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
4	<p>《基本手順》 計測BOX操作パネル 内部配置の確認</p>	<p>BOX内の操作パネルを開く</p> 	<p>つまみをはずして開ける 開けると左の写真の様子が伺える</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① AC電源スイッチ</li> <li>② ヒューズホルダー</li> <li>③ FOMA端末</li> <li>④ FAXアダプタ</li> <li>⑤ SDカードスロット</li> </ol>	<p>①AC電源スイッチは常時ONとする</p>
5	<p>《基本手順》 バッテリーBOX内 配置の確認</p>	<p>バッテリーBOXの扉を開く</p> 	<p>鍵aを使用して開ける 開けると左の写真の様子が伺える</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① バッテリーBOX(トレイ)</li> <li>② スイッチ(上方を押すとONになる)</li> <li>③ コネクタ</li> <li>④ 押え金具</li> </ol> <p>※ バッテリーBOXの扉を閉めるときは、ケーブルを挟み込み ないように注意すること。</p>	
6	<p>《基本手順》 バッテリー取外し</p>	<p>バッテリートレイを取外す</p>  <p style="text-align: right;">バッテリートレイ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 手順4にてバッテリーBOXの扉を開き、バッテリーのスイッチ(SW)をOFFにする。</li> <li>(2) バッテリーに接続しているケーブルをコネクタから外す。</li> <li>(3) バッテリーを押えている金具を取り外す。</li> <li>(4) バッテリートレイをバッテリーBOXから取り外す。</li> </ol>	<p>下方を押すとOFFにな</p> 



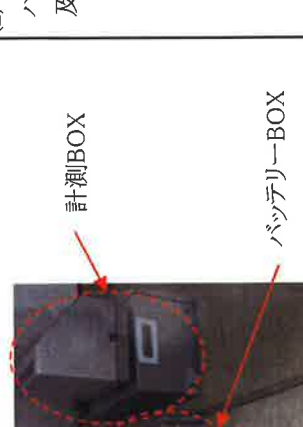

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
7	<p>《基本手順》 バッテリー充電</p>	<p>バッテリー充電</p> 	<p>(1) 手順6によりバッテリートレイを取り外す。                      (2) 取り外したバッテリーコネクタに充電器コネクタを接続する。                      (3) 接続後、電源ケーブルをコンセントに差し込む。                      (4) 充電中は充電器のLEDが緑に点滅します。緑点灯に変わると充電完了。                      (5) 充電完了後、コンセントから電源ケーブルを抜く。</p>	<p>・1セットの充電が完了するまで、約16時間程要する。                      ・床面には、不燃性の敷物で養生することを薦める。</p>
8	<p>《基本手順》 運搬</p> <p>本作業は2名で実施する</p>	<p>台車組み立て</p>  <p>ハンドル部</p>  <p>搬送板</p>  <p>台車固定板</p> 	<p>※ 本装置は約80kgの重量があり、分解及び運搬時は2名で対応を要する。</p> <p>(1) 台車のハンドル部を伸ばし、ハンドル部横の固定レバーを固定する。</p> <p>(2) 台車補強金具が付いた搬送板を台車に置き、ローレットネジ4個で固定する。</p> <p>(3) 台車固定板を左図のように被せ、台車と搬送板を固定する。 (固定ネジ等はなく、被せるだけ)</p>	<p>・搬送板と台車補強金具は、通常は分解せず保管する。                      ・ローレットネジは、車輪側から見て左手前より仮締めを行い、4本仮締め後、手締めによる本締めを行う。</p>

# 取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
8 (続き)	<p>《基本手順》 運搬</p> <p>本作業は2名で実施する</p>	<p>本体を台車に載せる</p> <p>写真①</p> <p>写真②</p> <p>架台+バッテリーBOX(下) バッテリーBOX(上) +計測BOX</p> <p>写真③</p> <p>留意点</p>	<p>(4) 台車に架台+バッテリーBOX(下)を載せる。(写真①)</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>台車に角が接触するように配置する。(写真③)</li> </ul> <p>(5) FOMAアンテナは倒しておく。(写真③)</p> <p>(6) バッテリーBOX(上)+計測BOXを載せ、パチン錠で固定する。</p>	
		<p>ラジソングベルトで本体装置と台車を固定する</p> <p>写真④</p> <p>写真⑤</p> <p>運搬時は検出器BOXを取り外す</p>	<p>(7) 台車固定板のスリットにベルトを通し、台車車輪側でベルト固定バックルを締めて固定する。</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>固定状況は写真⑤の通りであるが、この時点で検出器BOXは取り付けない。</li> </ul> <p>(8) 原則として台車を押す姿勢で運搬する。別途、検出器BOX、検出器ケーブル1本、DCケーブル2本を持ち運ぶ。</p>	<p>・ベルトはタグが見える向きでスリットに通す。</p> <p></p> <p></p>

取扱手順


No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
9	<p>《車載》 運搬状態から分解 本作業は2名で実施する</p>	<p>ラッシングベルトを外す</p>  <p>ラッシング</p> 	<p>(1) ラッシングベルトを外し、別途保管する。</p>	
<p>計測BOX、バッテリーBOXを外す</p>		 <p>計測BOX</p> <p>バッテリーBOX</p> <p>バッテリーBOX下+架</p>	<p>(2) FOMAアンテナが倒れていることを確認し、下段以外のパチン錠を外して順に計測BOX及びバッテリーBOX及び架台を外して3分割にする。</p>	
		 <p>台車固定板</p> <p>搬送板</p> <p>台車補強金具</p> <p>台車</p>	<p>(3) 台車から台車固定板、及び、搬送板(台車補強金具付)を外し、台車を折りたたむ。</p>	

## 取扱手順


No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
10	<p>《運搬》 運搬状態から車載 (5台積み込み)  本作業は2名で実施する</p>	<p>本体装置を固定する位置と積み込み順を確認する</p>   <p>(左側から見た中央車載場所)</p>  <p>(車内から見た後部車載場所)</p>	<p>この手順は、三菱DELICA 放射線測定車 (鹿児島800 す5963) に車載する場合に適用する。</p> <p>(4) 積み込む順番は下記の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.車載場所③に本体装置管理番号「MP3」</li> <li>2.車載場所④に本体装置管理番号「MP4」</li> <li>3.車載場所②に本体装置管理番号「MP2」</li> <li>4.車載場所⑤に本体装置管理番号「MP5」</li> <li>5.車載場所①に本体装置管理番号「MP1」</li> </ol>	<p>点検運転時の持ち出し時に おける運用方法検討の結果、 不規則な配置番号となつて いる。</p>
積み込み(本体装置)		 <p>(点線部分:台座穴)</p>  <p>(点線部分:ベルト固定状況)</p>	<p>以降、車載場所③の積み込み手順を示す。</p> <p>(5) 台座のベルト固定位置により、本体装置を配置する向きを確認する。</p> <p>(6) 手順9で分割した架台+バッテリーBOX下を、底面凸部(4つ)が台座穴に合うようにはめ込む。</p> <p>(7) 引き続き、バッテリーBOX上、計測BOXを順次配置し、パチン錠で固定する。</p> <p>(8) 1台車載が終わったら、車載ベルトで本体装置を固定する。</p>	<p>他の車載場所についても 積み込み手順は同じである。</p>
				<p>ベルトはねじれがないように 巻き、強めに留める。</p>




取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
10 (続き)	<p>《運搬》 運搬状態から車載 (5台積み込み)  本作業は2名で実施する</p>	<p>積み込み(台車)</p> 	<p>(1) 後部座席(2席)の背もたれ角度を左写真程度に調節する。 留意点 ・ 後部装置と面接触するように。</p> <p>(2) 「MP5」の台車を左写真のように配置する。 留意点 ・ 助手席後方の座席に配置 ・ 左写真のように底板が背もたれに付く向きで配置する。 ・ 背もたれに密着させる。</p> <p>(3) 「MP5」の搬送板を左写真のように配置する。 留意点 ・ 台車に密着させる。</p>	<p>台車の向きは、収納スペースを確保するために重要。</p>

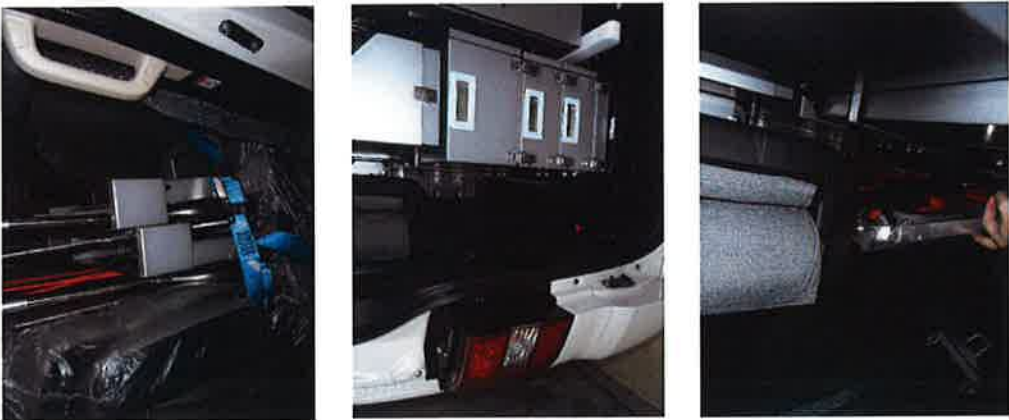
取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
10 (続き)	<p>《運搬》 運搬状態から車載 (5台積み込み)  本作業は2名で実施する</p>	<p>積み込み(台車)</p> 	<p>(4) 「MP5」の台車固定板を左写真のように配置する。 留意点 ・ 搬送板と一体化させる。</p> <p>(5) ラッシングベルトを締めて座席と固定する。 留意点 ・ 左写真のように下部で固定する。 ・ 座席や部品の突起をさけてベルトを設置する。</p> <p>(6) 固定状況を確認する。 留意点 ・ 荷崩れしない程度に座席と一体化しているか確認する。</p> <p>(7) 「MP4」の台車を左写真のように配置する。 留意点 ・ 左写真のように底板が「MP5」台車に付く向きで配置する。 ・ 「MP5」搬送板部分の空間に「MP4」台車底板が入り込むように配置する。</p>	<p>台車の向きは、収納スペースを確保するために重要。</p>




取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
10 (続き)	<p>《運搬》 運搬状態から車載 (5台積み込み)  本作業は2名で実施する</p>	<p>積み込み(台車)</p> 	<p>(8) 「MP4」の搬送板を左写真のように配置する。 留意点 ・ 「MP4」の台車に密着させる。</p> <p>(9) 「MP4」の台車固定板を左写真のように配置する。 留意点 ・ 「MP4」の搬送板と一体化させる。</p> <p>(10) ラッシングベルトを締めて座席と固定する。 留意点 ・ 「MP4」台車とともに座席背もたれにベルトをかける。 ・ 左写真のように下部で固定する。 ・ 座席や部品の突起をさけてベルトを設置する。</p>	

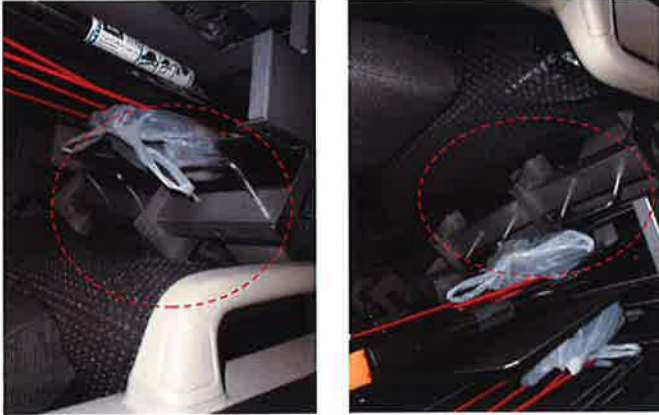

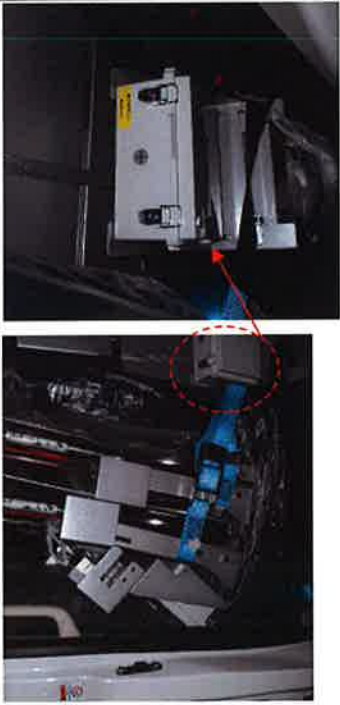
取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
10 (続き)	<p>《運搬》 運搬状態から車載 (5台積み込み)  本作業は2名で実施する</p>	<p>積み込み(台車)</p> 	<p>(11) 同様な手順で運転席後方座席に「MP3」と「MP2」の台車を積み込み、ラッシングベルトで固定する。 留意点 ・ 積み込みは「MP3」、「MP2」の順序で行う。</p> <p>(12) 「MP1」の台車は車両左後部のスペースに配置する。</p> <p>(13) 台車を車輪が手前になるように差し込む。 留意点 ・ 上部折りたたみ座席の隙間を利用して、台車が右装置本体にあたらないよう心がける。</p>	




取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
10 (続き)	<p>《運搬》 運搬状態から車載 (5台積み込み)  本作業は2名で実施する</p>	<p>積み込み(台車)</p>  <p style="text-align: right;">留意点</p>  	<p>(14) 「MP1」の搬送板を左写真のように配置する。 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>搬送板を台車の左側に差し込めば、通常は右装置本体に接触することはないが、振動等で方が一傷が入るのを防止するために、適宜厚紙やウエス等で保護することを勧める。</li> </ul> <p>(15) 「MP1」の搬送板をシートベルトを利用して固定する。</p> <p>(16) 「MP1」の台車固定板とラッシングベルトは、運転席後部座席下の空きスペースに置く。</p>	

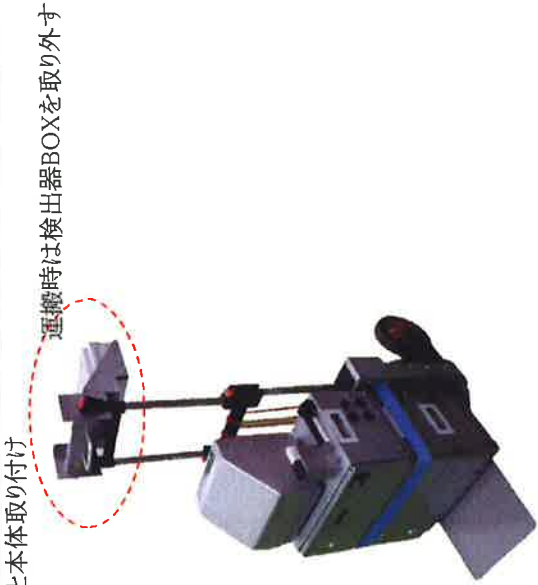

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
<p>10 (続き)</p> <p>《運搬》 運搬状態から車載 (5台積み込み)</p> <p>本作業は2名で実施する</p>	<p>積み込み(検出器BOX)</p> 	<p>(17) 「MP4」と「MP5」の検出器BOXは、助手席後部座席に左写真のように配置する。</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検出器荷崩れ防止のため、下写真の通りスリットに検出器フレームを差し込む。</li> </ul>  <p>(18) 「MP2」と「MP3」の検出器BOXは、運転席後部座席に左写真のように配置する。</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記同様検出器荷崩れ防止対策をとる。</li> </ul>	<p>(19) 「MP1」の検出器BOXは、助手席後部座席に左写真のように配置する。</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検出器保護のため、左写真通りの向きに置くことを心がける。</li> <li>シートベルトを利用して検出器を固定させる。</li> </ul> 	

取扱手順

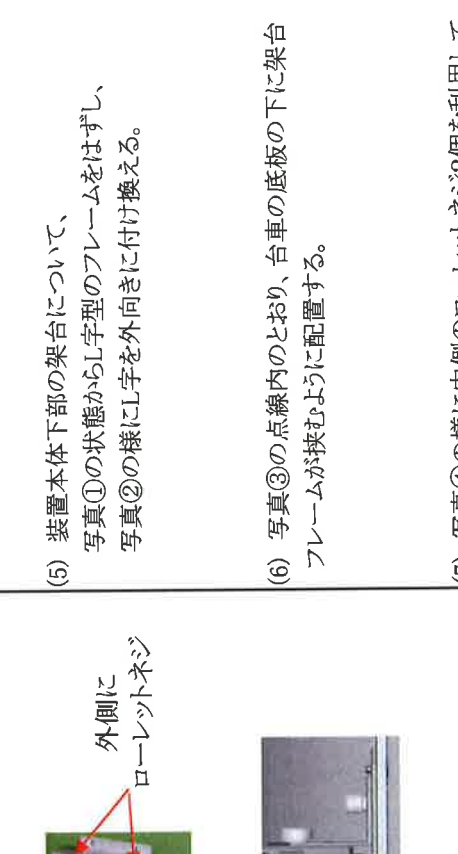
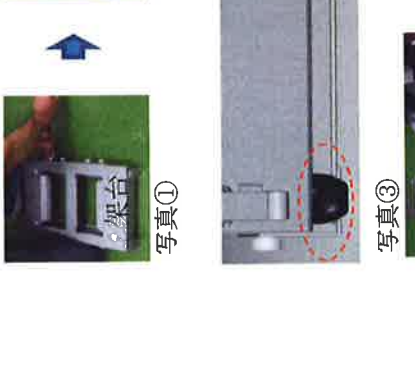
No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
10 (続き)	<p>《運搬》 運搬状態から車載 (5台積み込み)  本作業は2名で実施する</p>	<p>積み込み(付属品)</p>   	<p>(20) 「MP4」と「MP5」の付属品は、助手席後部座席に左写真のように配置する。 留意点 ・ 検出器保護のため、左写真のように台車固定板の隙間に入れる。</p> <p>(21) 「MP2」と「MP3」の付属品は、運転席後部座席に左写真のように配置する。 留意点 ・ 検出器保護のため、左写真のように台車固定板の隙間に入れる。</p> <p>(22) 「MP1」の付属品は、助手席後部座席に左写真のように配置する。</p>	<p>付属品とは、手順1で示したケーブル等を指す。</p>
		<p>積み込み完了</p>		

## 取扱手順

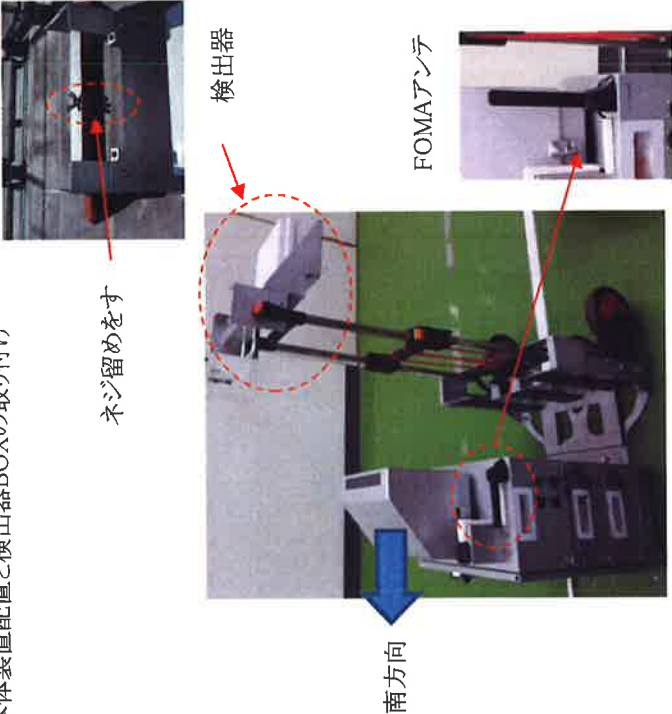
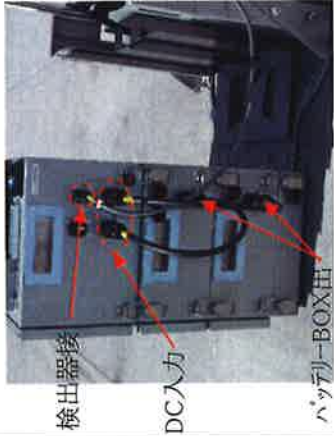
No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
11	《測定器運転》 車載状態から測定準備	<p>本体一式を車より降ろす</p> <p>台車組み立てと本体取り付け  </p>	<p>(1) 積載車から、目的の本体装置、台車、付属品、検出器BOXを降ろす。</p> <p>(2) 手順8を実施する。</p> <p>(3) 左写真のとおり、運搬状態に組上げ、目的の測定地点まで運搬する。</p>	
測定体制への組替え		 <p>留意点</p>	<p>(4) 目的地点へ到着したら、手順8(4)～(7)を逆順で実施し、台車と本体装置を分割する。</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バッテリーBOX(下)と架台は、分割しておく。</li> </ul>	<p>目的の測定地点と積載車の距離が短い場合は、この手順(2)～(4)を省略してもよい。</p>



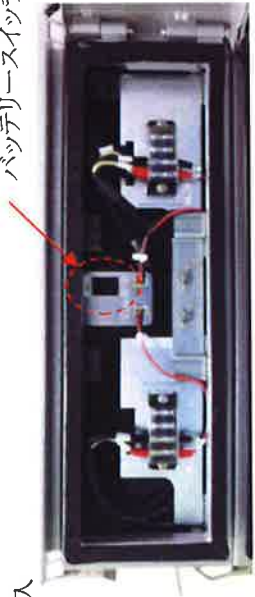

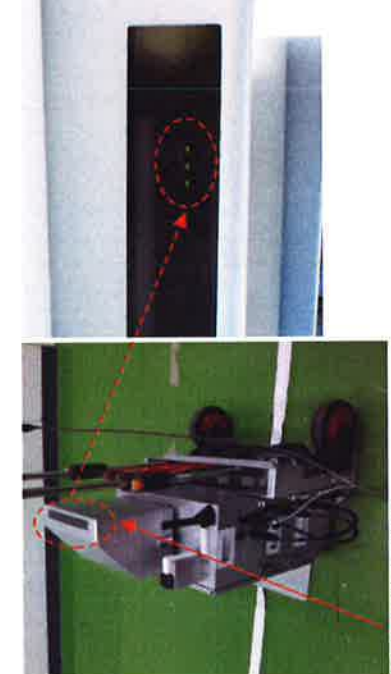
取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
11 (続き)	《測定器運転》 車載状態から測定準備	<p>本体装置を台車に取り付ける</p>  <p>写真① 架台</p> <p>写真② 外側に ローレットネジ</p> <p>写真③ ローレットネジ</p>	<p>(5) 装置本体下部の架台について、写真①の状態からL字型のフレームをはずし、写真②の様にL字を外向きに付け換える。</p> <p>(6) 写真③の点線内のおり、台車の底板の下に架台フレームが狭むように配置する。</p> <p>(7) 写真④の様に内側のローレットネジ2個を利用して台車に固定する。</p>	<p>•内側のローレットネジ2個を利用して台車に固定する。</p>
		<p>バッテリーBOX、測定BOXの順に本体を組立てる</p>  <p>架台+バッテリーBOX(下) +計測BOX</p> <p>バッテリーBOX(下)</p> <p>計測BOX</p>	<p>(8) バッテリーBOX2台を順次載せ、パチン錠で固定する。</p> <p>(9) 測定BOXを載せ、パチン錠で固定する。</p>	

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
11 (続き)	《測定器運転》 車載状態から測定準備	<p>本体装置配置と検出器BOXの取り付け</p>  <p>検出器</p> <p>ネジ留めをす</p> <p>南方向</p> <p>FOMAアンテナ</p>	<p>(10) 衛星アンテナカバーの斜面を南方向に向ける</p> <p>(11) ラッシングベルトを外し、別途保管する。</p> <p>(12) 台車のグリップ部に、上から検出器BOXを差し込み、ネジ留めを行ってしっかりと固定させることを確認する。 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台車と検出器BOXは予め高さを調整してあるため、同じシリアルNo.の組み合わせとなるように取り付ける。</li> </ul> <p>(13) 左写真のように、FOMAアンテナを直立させる。</p>	<p>・ 方位磁石で南方向を確認する</p>
		<p>ケーブルを配線する(バッテリー供給)</p>  <p>検出器接</p> <p>DC入力</p> <p>バッテリーBOX出</p>	<p>(14) 次の3線を付属品のケーブルを使って接続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計測器「DC入力」 ⇄ バッテリーBOX(上下区別なし)</li> <li>・ 計測器「DC入力」 ⇄ バッテリーBOX(上下区別なし)</li> <li>・ 計測器「検出器接続」 ⇄ 検出器</li> </ul>	<p>・ ケーブルにはオスメスがあり、黄色の識別表示がある端子を計測BOX端子へ接続すると正しい接続となる様に予め措置している。</p>

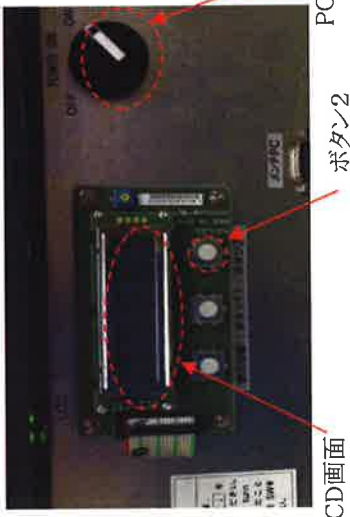

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
12	《測定器運転》 バッテリー供給時	<p>電源投入</p>  <p>バッテリースイッチ</p> <p>バッテリーBOXの扉を開けた様子</p>  <p>LCD画面</p> <p>POWER SW</p> <p>計測BOXの扉を開けた様子</p>  <p>衛星端末状態確認窓</p>	<p>(1) 手順5によりバッテリーBOX(上下)の扉を開き、バッテリースイッチをON(上側)にする。</p> <p>(2) バッテリーBOX(上下)の扉を閉め、鍵をかける。</p> <p>(3) 手順3により、本体計測BOXの扉を開ける。</p> <p>(4) POWER SWを「ON」にする</p> <p>(5) 自動で測定が始まる</p> <p>(6) アンテナカバーの衛星端末状態確認窓から内部状態を確認する。</p> <p>(7) 感度LEDが3つ点灯するように、衛星アンテナの向きを微調整する。</p>	<p>•この時点ではまだ計測BOXの扉は閉めない。</p> <p>•電源投入直後に確認する</p>


取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
12 (続き)	<p>《測定器運転》 (バッテリー供給時)</p>	<p>正常起動の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>50nSv/h L AC*</p> </div> <p>AC:AC電源供給であることを示します。 (バッテリー使用時は表示しません。) L:現在のレンジが低レンジであることを示します。 *:SDカードを認識していることを示します。</p>	<p>(8) 起動状況を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正常起動時は左記が表示される。</li> <li>・異常時はLCD画面2行目に「ERR」が表示される。</li> </ul> <p>(9) 異常表示の場合、手順14の措置をとる。</p> <p>(10) 計測BOXの扉を閉め、鍵をかける。</p>	<p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異常時は数回再起動を試みる</li> </ul>

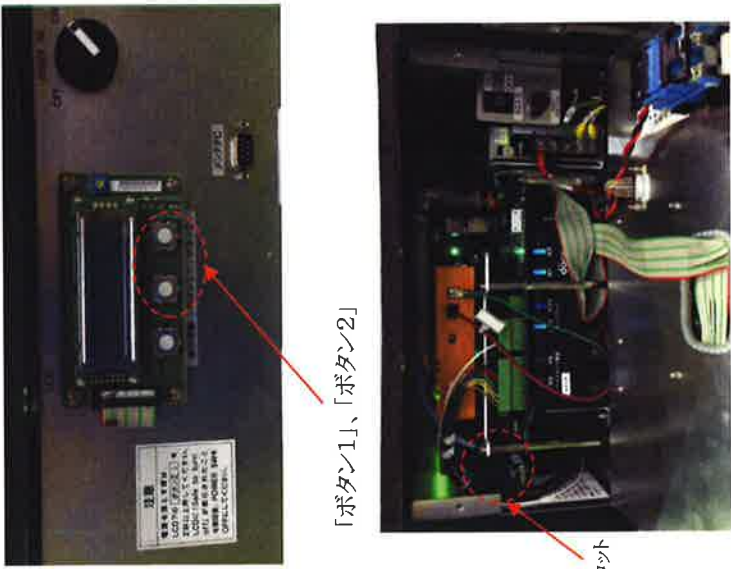
取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
13	《測定器停止》 計測動作停止	 <p>LCD画面</p> <p>ボタン2</p> <p>POWER SW</p>  <p>バッテリースイッチ</p> <p>電源供給停止(バッテリー供給時)</p>	<p>(1) 手順3により、計測BOX扉を開き、操作パネルにあるボタン2を2秒以上押す。</p> <p>(2) LCD画面に「Please wait…」と表示される。</p> <p>(3) LCD画面に「Safe to turn off」と表示される。</p> <p>(4) POWER SWを「OFF」にする</p> <p>(5) 手順5によりバッテリーBOX(上)および(下)の扉を開き、バッテリースイッチをOFF(下側)にする。</p>	<p>•POWER SWはこの手順(1)～(3)を実施後にOFFすること。 (データ損失となりうる)</p>

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
14	《故障・異常情報の確認》	<p>LCD表示にて異常情報を確認 LCD画面</p>  <p>「表示切替」ボタン</p>	<p>(1) 手順12.(1)～(5)により、自動測定状態にする。</p> <p>(2) 「表示切替」ボタンを3回押すと、故障・異常情報が表示される。 なお、異常がない場合は「NON_ERRR」と表示される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5分経過すると、元の「線量率表示」画面へ戻る。</li> </ul>
異常表示があった場合の対処				
表示例				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                 DET : 00 SED TED COM GPS BTT             </div>				
1行目表示				
表示内容		意味		二次対処
DET:01		検出ユニットRAM異常		メーカーへ問合せ・修理依頼 メーカーへ問合せ・修理依頼
DET:02		検出ユニットROM異常		
DET:04		検出ユニットFRAM異常		
DET:08		検出ユニット電源投入時パルステスト異常		
DET:10		検出ユニットセンサ異常		
DET:20		検出ユニット温度異常		
DET:40		検出ユニット線量率低故障		
DET:80		検出ユニット電源故障		
TED		検出器伝送エラー		
その他		その他の異常		
SDE		SDカード異常		カードの差換または交換
電源を切り、数分後に再起動を試みる。 メーカーへ問合せ・修理依頼				
<ul style="list-style-type: none"> <li>メーカーへ問合せの際、異常の内容および温度等環境を同時に連絡する。</li> <li>カードを取り出す際、手順15の通り実施すること。</li> </ul>				

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考												
14 (続き)	《故障・異常情報の確認》	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="333 1765 368 1883">2行目表示</th> <th data-bbox="333 1113 368 1765">意味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="368 1765 403 1883">表示内容</td> <td data-bbox="368 1113 403 1765">一次対処</td> </tr> <tr> <td data-bbox="403 1765 438 1883">MEM</td> <td data-bbox="403 1113 438 1765">メモリー異常</td> </tr> <tr> <td data-bbox="438 1765 474 1883">COM</td> <td data-bbox="438 1113 474 1765">アンテナ方向確認</td> </tr> <tr> <td data-bbox="474 1765 509 1883">GPS</td> <td data-bbox="474 1113 509 1765">場所を変えてみる</td> </tr> <tr> <td data-bbox="509 1765 544 1883">BTT</td> <td data-bbox="509 1113 544 1765">別バッテリー使用</td> </tr> </tbody> </table>	2行目表示	意味	表示内容	一次対処	MEM	メモリー異常	COM	アンテナ方向確認	GPS	場所を変えてみる	BTT	別バッテリー使用	<p>この時点で電源が入っており、LCD表示を確認できる状態であるものとする。</p> <p>メーカーへ問合せ・修理依頼</p>	
2行目表示	意味															
表示内容	一次対処															
MEM	メモリー異常															
COM	アンテナ方向確認															
GPS	場所を変えてみる															
BTT	別バッテリー使用															
15	《SDカード取出》	<p>SDカードを取り出す</p> 	<p>この時点で電源が入っており、LCD表示を確認できる状態であるものとする。</p> <p>(1) 「ボタン1」、「ボタン2」を同時に押し、SDカード取出しモードにする。</p> <p>(2) 手順4によりBOX内の操作パネルを開き、SDカードスロットに挿入されているカードを押すと、取出せる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この手順を行わないと、故障の原因となる。</li> </ul>												

# 走行モニタリングシステム日常点検要領

測定機器管理台帳に記載の点検方法としてその要領を明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------



# 日常点検要領

測定機器管理担当者:

・走行モニタリングシステム

平成27年度

点検目的	1. 常時適正な使用が可能な状態を確認するため。		
	2. 車載状態の健全性を確認するため。		
点検方法	様式-走行MS点検手順 による	点検記録	様式-走行MS点検記録 による
点検運転方法	実施頻度	1ヶ月に1回	
	実施場所	外観目視点検: 当建屋1階駐車場、動作確認: モニタリングポスト付近等	
	要領	外観目視点検及び動作確認	
	備考	本点検は緊急時モニタリングシステムの動作点検も含まれる	

## 点検前準備

1. 放射線測定車(鹿児島800す5963)のエンジンを始動する
2. DC/ACインバータの電源を入れる(写真①)
3. 衛星車載端末の電源を入れる(写真②)
4. 衛星FAXアダプタの電源を入れる(写真③)
5. 走行モニタの電源を入れる(写真④)
6. 車載PCの電源を入れる



写真①



写真②



写真③



写真④


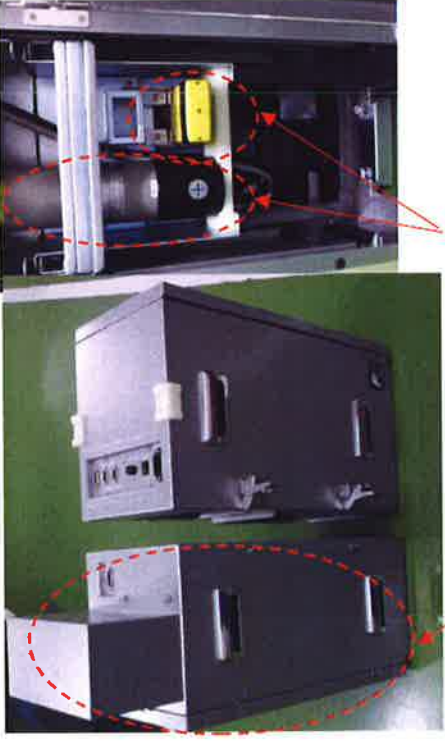
# 走行モニタリングシステム日常点検手順

走行モニタリングシステム日常点検要領に記載の点検方法としてその手順を明記した

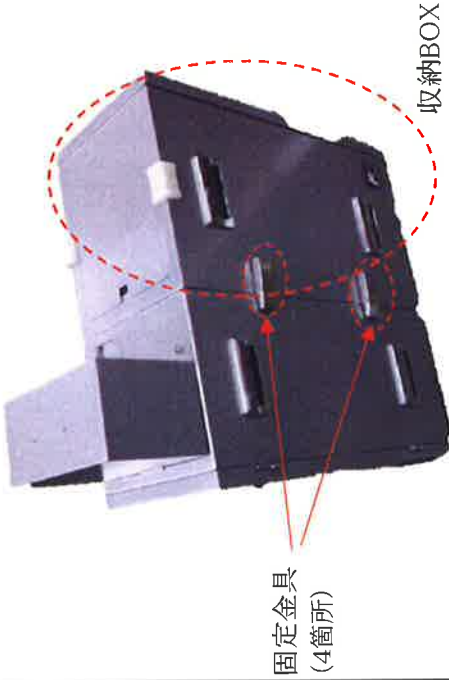
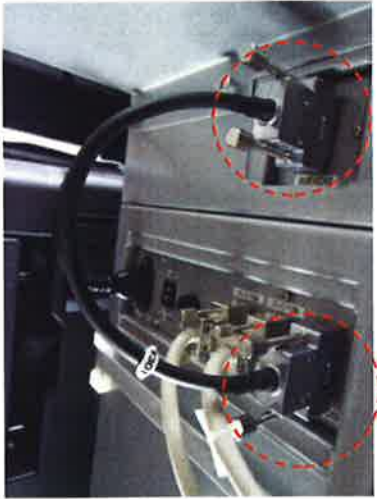
改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------

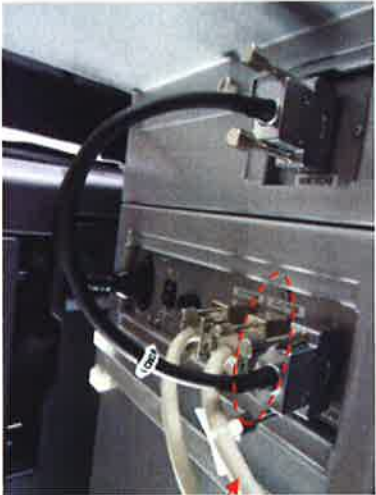
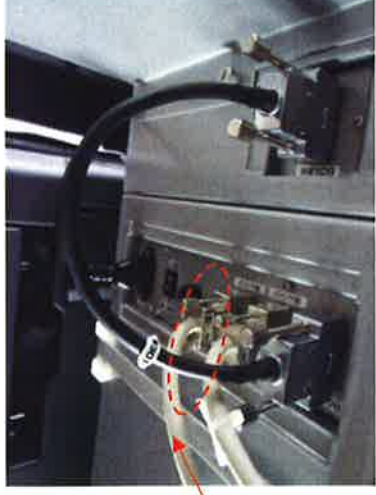
日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
1	《保管状況》 鍵	 <p>① 収納BOX用鍵(XXX-S) ② 計測BOX用鍵(XXX-K)</p>	<p>(1) 左写真の2組の鍵があることを確認する。                  (2) 2組そろっていれば良好とする。                  (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	
2	《保管状況》 検出器BOX	 <p>検出器BOX 2基の検出器</p>	<p>(1) 左写真の検出器BOXがある(車載)ことを確認する。                  (2) 検出器BOXの鍵により扉を開け、2基の検出器がそろっていれば良好とする。                  (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	
3	《状態》 検出器BOX		<p>(1) 検出器BOX外観に傷その他不良な点がないことを確認する。                  (2) 2基の検出器が緩みなく固定され、破損がないことを確認する。                  (3) いずれも傷、破損がなければ良好とする。                  (4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	

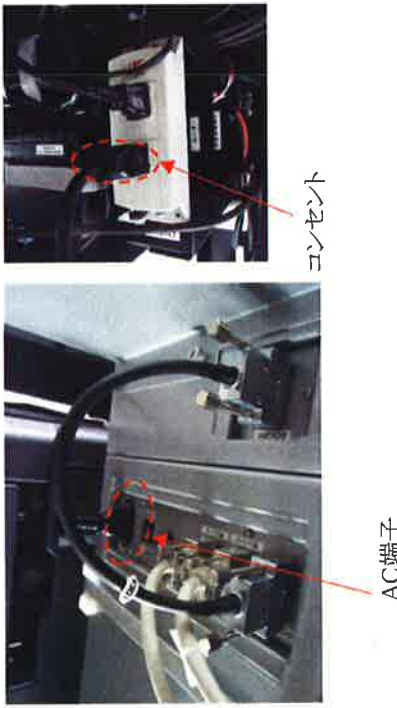
## 日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
4	《保管状況》 検出器BOX	 <p>固定金具 (4箇所)</p> <p>収納BOX</p>	(1) 検出器BOXが固定金具により収納BOXと固定されているか確認する。 (2) 収納BOXと一体化していることで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
5	《接続状況》 ケーブル (BOX間接続)		(1) 接続先が正しいか確認する。 (2) 計測BOX～収納BOX間接続であることで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
6	《状態》 ケーブル (BOX間接続)		(1) 点線円部分の端子固定状態を確認する。 (2) ケーブル本体に傷がないか確認する。 (3) 端子のゆるみ・本体の破損がないこと (4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	

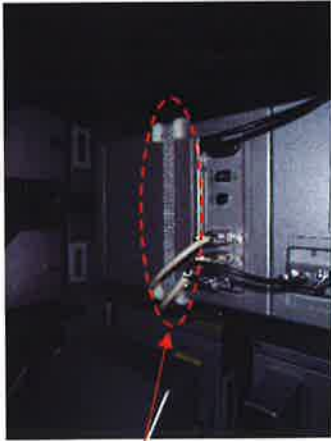

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
7	《接続状況》 ケーブル (PC間接続)	 <p>S004タグ のケーブル</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 接続先が正しいか確認する。</li> <li>(2) 低レンジ〜PC、USBポート間接続であることで良好とする。</li> <li>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	
8	《状態》 ケーブル (PC間接続)		<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 点線円部分の端子固定状態を確認する。</li> <li>(2) ケーブル本体に傷がないか確認する。</li> <li>(3) 端子のゆるみ・本体の破損がないこと</li> <li>(4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	
9	《接続状況》 ケーブル (PC間接続)	 <p>S005タグ のケーブル</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 接続先が正しいか確認する。</li> <li>(2) 高レンジ〜PCシリアルポート間接続であることで良好とする。</li> <li>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	
10	《状態》 ケーブル (PC間接続)		<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 点線円部分の端子固定状態を確認する。</li> <li>(2) ケーブル本体に傷がないか確認する。</li> <li>(3) 端子のゆるみ・本体の破損がないこと</li> <li>(4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	


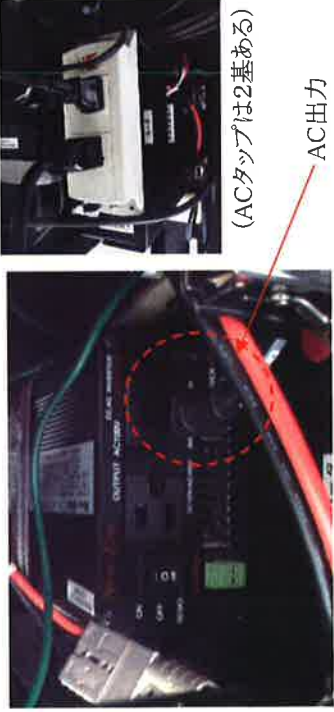
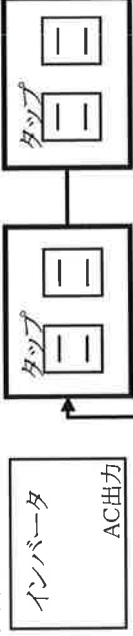
日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
11	《接続状況》 ACケーブル		<p>(1) 接続先が正しいか確認する。</p> <p>(2) 「AC入力」～「コンセント」間接続であることで良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	
12	《状態》 ACケーブル		<p>(1) 点線円部分の端子固定状態を確認する。</p> <p>(2) ケーブル本体に傷がないか確認する。</p> <p>(3) 端子のゆるみ・本体の破損がないことで良好とする。</p> <p>(4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	
13	《保管状況》 収納BOX		<p>(1) 左写真の収納BOXがある(車載)ことを確認する。</p> <p>(2) 収納BOXがある(車載)ことで良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	
14	《状態》 収納BOX		<p>(1) 収納BOX外観に傷その他不良な点がないことを確認する。</p> <p>(2) 傷、破損がなければ良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	

日常点検手順


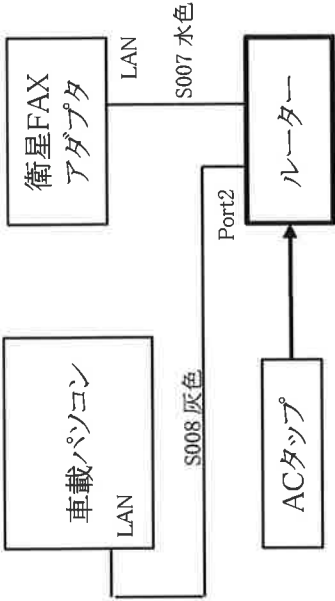
No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
15	《保管状況》 収納BOX	 <p>ベルト</p>	<p>(1) 収納BOXがベルトにより車体台座と固定されているか確認する。</p> <p>(2) ベルトで締め上げ固定していることで良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	
16	《保管状況》 インバータ本体		<p>(1) 左写真のインバータ本体がある(車載)ことを確認する。</p> <p>(2) インバータ本体がある(車載)ことで良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	
17	《状態》 インバータ本体		<p>(1) インバータ本体外観に傷その他不良な点がないことを確認する。</p> <p>(2) 傷、破損がなければ良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
18	《接続状況》 ACケーブル (インバータ)		(1) 接続先が正しいか確認する。 (2) 「車両電源ケーブル」間とでコネクタ接続であることと良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
19	《状態》 ACケーブル (インバータ)		(1) 点線円部分の端子固定状態を確認する。 (2) ケーブル本体に傷がないか確認する。 (3) 端子のゆるみ・本体の破損がないことと良好とする。 (4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
20	《接続状況》 ACタップ		(1) 接続先が正しいか確認する。 (2) インバータの「AC出力」端子に接続してあることと良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
21	《状態》 ACタップ	 <p>接続外略図</p>	(1) 点線円部分の端子固定状態を確認する。 (2) タップ、ケーブル本体に傷がないか確認する。 (3) 端子のゆるみ・本体の破損がないことと良好とする。 (4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	



日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
22	《保管状況》 ルータ本体		<p>(1) 左写真のルータ本体がある(車載)ことを確認する。</p> <p>(2) ルータ本体がある(車載)ことで良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	
23	《状態》 ルータ本体		<p>(1) ルータ本体外観に傷その他不良な点がないことを確認する。</p> <p>(2) 傷、破損がなければ良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	
24	《接続状況》 LANケーブル (ルータ)	<p>接続外略図</p> 	<p>(1) 接続先が正しいか確認する。</p> <p>(2) 左外略図の接続であることで良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	
25	《状態》 LANケーブル (ルータ)		<p>(1) 端子固定状態を確認する。</p> <p>(2) ケーブル本体に傷がないか確認する。</p> <p>(3) 端子のゆるみ・本体の破損がないことで良好とする。</p> <p>(4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</p>	

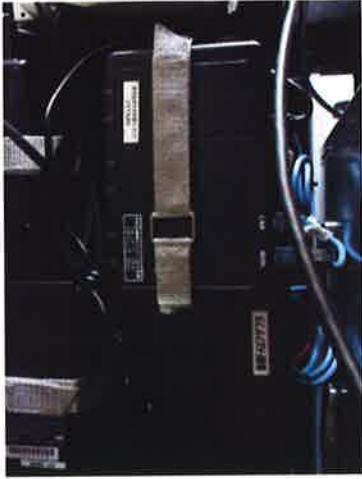
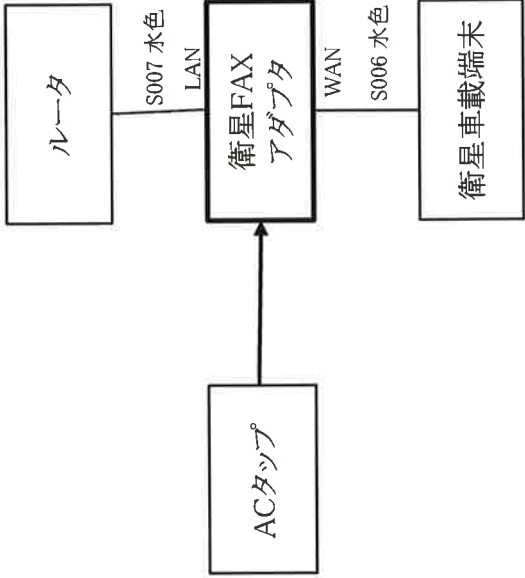
日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
26	《接続状況》 ACケーブル (ルータ)		<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 接続先が正しいか確認する。</li> <li>(2) 「電源タップ」に接続されていることで良好とする。</li> <li>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	
27	《状態》 ACケーブル (ルータ)		<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 点線円部分の端子固定状態を確認する。</li> <li>(2) ケーブル本体に傷がないか確認する。</li> <li>(3) 端子のゆるみ・本体の破損がないことで良好とする。</li> <li>(4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	
28	《保管状況》 衛星車載端末本体		<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 左写真の衛星車載端末本体がある(車載)ことを確認する。</li> <li>(2) 衛星車載端末本体がある(車載)ことで良好とする。</li> <li>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	
29	《状態》 衛星車載端末本体		<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 衛星車載端末本体外観に傷その他不良な点がないことを確認する。</li> <li>(2) 傷、破損がなければ良好とする。</li> <li>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	


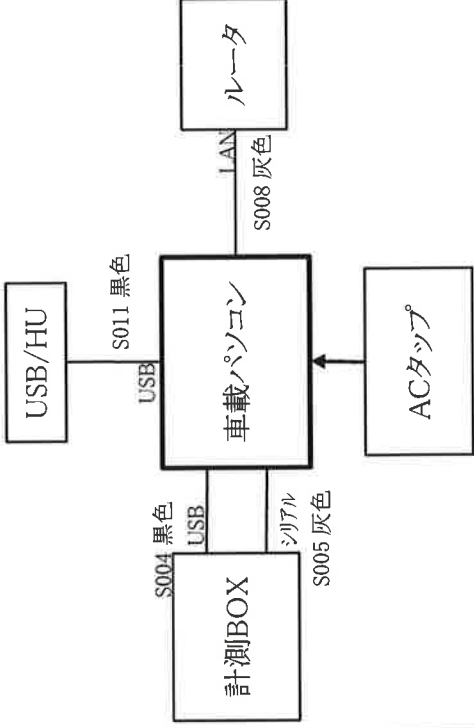
## 日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考	
30	《接続状況》 アンテナケーブル (衛星車載端末本体)	<p>接続外略図</p>	(1) 接続先が正しいか確認する。 (2) 「車載アンテナ」に接続されていることで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。		
31	《状態》 アンテナケーブル (衛星車載端末本体)			(1) 端子固定状態を確認する。 (2) ケーブル本体に傷がないか確認する。 (3) 端子のゆるみ・本体の破損がないことで良好とする。 (4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
32	《接続状況》 LANケーブル (衛星車載端末本体)			(1) 接続先が正しいか確認する。 (2) 左外略図の接続であることで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
33	《状態》 LANケーブル (衛星車載端末本体)			(1) 端子固定状態を確認する。 (2) ケーブル本体に傷がないか確認する。 (3) 端子のゆるみ・本体の破損がないことで良好とする。 (4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
34	《接続状況》 ACケーブル (衛星車載端末本体)			(1) 接続先が正しいか確認する。 (2) 「車両電源ケーブル」間とでコネクタ接続されていることで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
35	《状態》 ACケーブル (衛星車載端末本体)		(1) 端子固定状態を確認する。 (2) ケーブル本体に傷がないか確認する。 (3) 端子のゆるみ・本体の破損がないことで良好とする。 (4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。		

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
36	《保管状況》 衛星FAXアダプタ本体		(1) 左写真の衛星FAXアダプタ本体がある(車載)ことを確認する。 (2) 衛星FAXアダプタ本体がある(車載)ことで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
37	《状態》 衛星FAXアダプタ本体		(1) 衛星FAXアダプタ本体外觀に傷その他不良な点がないことを確認する。 (2) 傷、破損がなければ良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
38	《接続状況》 LANケーブル (衛星FAXアダプタ本体)	接続外略図	(1) 接続先が正しいか確認する。 (2) 左外略図の接続であることで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
39	《状態》 LANケーブル (衛星FAXアダプタ本体)		(1) 端子固定状態を確認する。 (2) ケーブル本体に傷がないか確認する。 (3) 端子のゆるみ・本体の破損がないことで良好とする。 (4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
40	《接続状況》 ACケーブル (衛星FAXアダプタ本体)		(1) 接続先が正しいか確認する。 (2) 左外略図の接続であることで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
41	《状態》 ACケーブル (衛星FAXアダプタ本体)		(1) 端子固定状態を確認する。 (2) ケーブル本体に傷がないか確認する。 (3) 端子のゆるみ・本体の破損がないことで良好とする。 (4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
42	《保管状況》 車載パソコン本体		(1) 左写真の車載パソコン本体がある(車載)ことを確認する。 (2) 車載パソコン本体がある(車載)ことで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	PC : Panasonic TOUGHBOOK CF-19
43	《状態》 車載パソコン本体		(1) 車載パソコン本体外観に傷その他不良な点がないことを確認する。 (2) 傷、破損がなければ良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
44	《状態》 車載パソコン本体		(1) パソコン台に固定されていることを確認する。 (2) ベルトで締められゆるみがないことで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
45	《接続状況》 ACケーブル (車載パソコン本体)		(1) 接続先が正しいか確認する。 (2) 左外略図の接続であることで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	
46	《状態》 ACケーブル (車載パソコン本体)		(1) 端子固定状態を確認する。 (2) ケーブル本体に傷がないか確認する。 (3) 端子のゆるみ・本体の破損がないことで良好とする。 (4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	

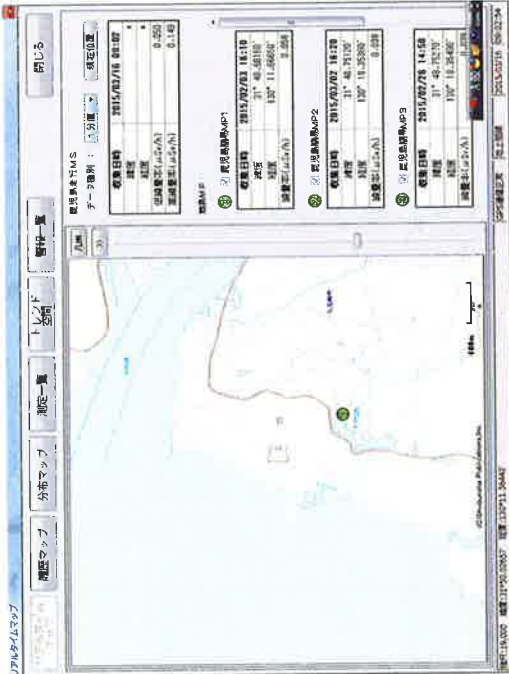
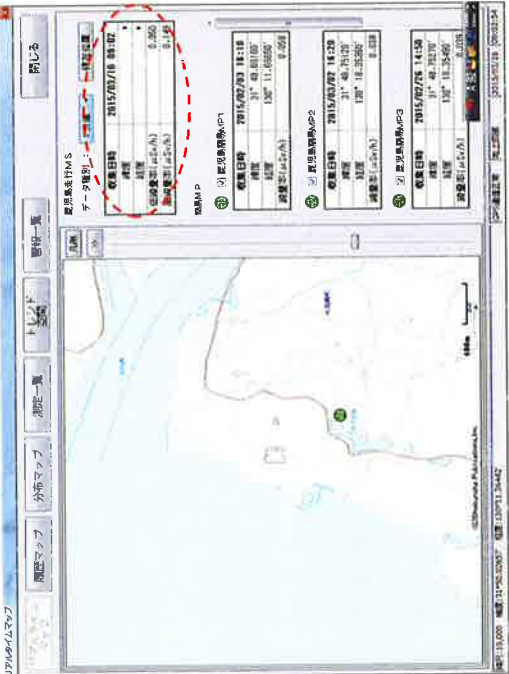
日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
47	《接続状況》 本体・USBケーブル (Webカメラ, GPSレシーバ)		<ol style="list-style-type: none"> <li>接続先が正しいか確認する。</li> <li>左外略図の接続であることで良好とする。</li> <li>点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	
48	《状態》 本体・USBケーブル (Webカメラ, GPSレシーバ)		<ol style="list-style-type: none"> <li>端子固定状態を確認する。</li> <li>ケーブル本体に傷がないか確認する。</li> <li>端子のゆるみ・本体の破損がないことと良好とする。</li> <li>点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	
49	《保管状況》 設置台座 A		<ol style="list-style-type: none"> <li>左写真の設置台座 Aがある(車載)ことを確認する。</li> <li>設置台座 Aがある(車載)ことで良好とする。</li> <li>点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	
50	《状態》 設置台座 A		<ol style="list-style-type: none"> <li>設置台座 A本体外観に傷その他不良な点がないことを確認する。</li> <li>傷、破損がなければ良好とする。</li> <li>点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	
51	《保管状況》 設置台座 B		<ol style="list-style-type: none"> <li>左写真の設置台座 Bがある(車載)ことを確認する。</li> <li>設置台座 Bがある(車載)ことで良好とする。</li> <li>点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	
52	《状態》 設置台座 B		<ol style="list-style-type: none"> <li>設置台座 B本体外観に傷その他不良な点がないことを確認する。</li> <li>傷、破損がなければ良好とする。</li> <li>点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。</li> </ol>	

## 日常点検手順

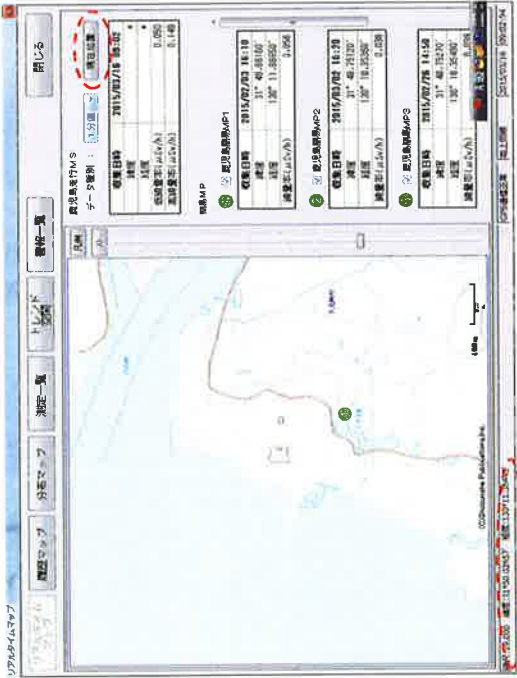

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
53	《保管状況》 校正治具	/	(1) 校正治具が保管場所にあることを確認する。 (2) 校正治具を使用したメーカー点検が完了することで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-1」に記録する。	台帳に記載された保管場所を変更した場合は、測定器管理台帳を更新する。  校正治具は、1年に1回のメーカー点検時に点検者が使用するものである。
54	《状態》 校正治具			
/				

日常点検手順


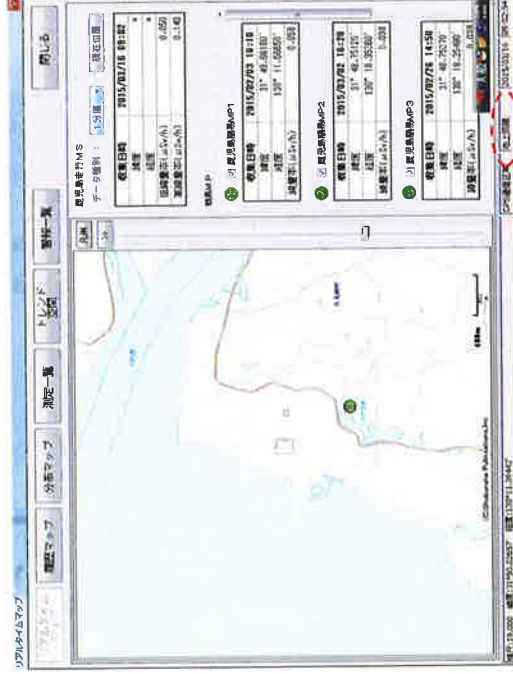
No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
1	《動作確認》 システム起動	<p>リアルタイムマップ画面</p> 	<p>実施方法および注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 走行MS測定器点検手順1による外観点検後、本システムの動作点検を実施する。</li> <li>(2) 該当車のエンジンを掛ける。</li> <li>(3) 走行MS取扱 手順10により、周辺機器の電源を入れる。</li> <li>(4) 走行MS取扱 手順11により、緊急時モニタリングシステムを起動させ、計測を開始する。</li> <li>(5) 走行MS取扱 手順12により、リアルタイムマップ画面を表示させる。</li> <li>(6) 左図リアルタイムマップ画面が表示されることで良好とする。</li> <li>(7) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-2」に記録する。</li> </ol>	
2	《動作確認》 計測データ		<p>実施方法および注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 確認測定地点へ車両を移動させ、約10分間停車状態で測定を継続する。</li> <li>(2) 左図リアルタイムマップ画面 上部点線円中に現在の測定値および位置情報が表示される。</li> <li>(3) 上部点線円内に正しい日付、時刻が表示され、位置情報および測定値が表示、さらに直近の簡易MP測定結果が表示されることで良好とする。</li> <li>(4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-2」に記録する。</li> </ol>	<p>確認測定地点は鹿児島県監視センター局前とする。</p> <p>以降の動作点検はこの場所で停車中に実施する。 ※ 測定器稼働中はエンジンを掛けたままにしておく。</p>



## 日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
3	《動作確認》 収集日時	手順2 で日時を確認	(1) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-2」に記録する。	
4	《動作確認》 位置情報		<p>(1) 左図画面上部点線部の「現在位置」ボタンを押下し、マップに自車マークを表示させる。</p> <p>(2) 左図画面下部点線部分に、現在の位置情報が表示されているので、“鹿児島走行MS”データ表示欄の位置情報を比較確認する。</p> <p>(3) データが一致していることで良好とする。</p> <p>(4) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-2」に記録する。</p>	
5	《動作確認》 測定値		<p>(1) 左図画面上部点線部の測定値を読みとる。</p> <p>(2) 測定値が過去の測定平均値のおおむね15%の範囲であることで良好とする。(平常時)</p> <p>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-2」に記録する。</p>	<p>異常な値を示す場合は、別途サーベイメータで付近の線量を確認し、指示値の信頼性を確認する。</p>

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
6	《動作確認》 通信異常		<p>実施方法および注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 左図画面下部点線部の表示を確認する。</li> <li>(2) 「GPS通信正常」であることで良好とする。</li> <li>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-2」に記録する。</li> </ol>	
7	《動作確認》 回線異常		<p>実施方法および注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 左図画面下部点線部の表示を確認する。</li> <li>(2) 「地上回線」または「衛星回線」であることで良好とする。</li> <li>(3) 点検結果を「様式-走行MS点検記録-2」に記録する。</li> </ol> <p>車内における点検は以上で終了。</p>	

# 走行モニタリングシステム日常点検記録

走行モニタリングシステム日常点検要領に記載の点検記録として明記した

改訂記録

制定日

2015年4月1日

担当部署

監視情報課

# 日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：走行モニタリングシステム検出部 (型式:NAH81101-YYYYY-S)								
状態点検頻度：1ヶ月に1回			点検日：平成 年 月 日		点検者：			
No.	機器管理番号(名称)	保管場所	点検項目	点検事項	点検方法	判断基準	点検結果	備考
1	鍵		保管状況	2種類あるか	目視確認	2種類あること	良好・不良	
2			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物(検出器2台含む一式)があること	良好・不良	
3	検出器BOX		状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
4			保管状況	台座と固定されているか	目視確認	収納BOXと一体化して台座と固定されていること	良好・不良	
5	ケーブル(BOX間接続)		接続状況	接続先は正しいか	目視確認	計測BOX～収納BOX間接続であること	良好・不良	
6			状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
7	ケーブル(PC間接続)		接続状況	接続先は正しいか	目視確認	低レンジ～PC,USBポート間接続であること	良好・不良	
8		放射線測定車	状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
9	ケーブル(PC間接続)		接続状況	接続先は正しいか	目視確認	高レンジ～PCシリアルポート間接続であること	良好・不良	
10			状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
11	AC電源ケーブル		接続状況	接続先は正しいか	目視確認	「AC入力」～「コンセント」間接続であること	良好・不良	
12			状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
13	収納BOX		保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
14			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
15		鹿児島800	保管状況	台座と固定されているか	目視確認	ベルトで締め上げ固定されていること	良好・不良	
16	DC/ACインバータ本体	す5963	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
17			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
18	DC電源ケーブル		接続状況	電源接続先は正しいか	目視確認	「車両電源ケーブル」間でコネクタ接続であること	良好・不良	
19			状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
20	AC電源タップ		接続状況	電源接続先は正しいか	目視確認	「AC出力」端子に接続されていること	良好・不良	
21			状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
22	ルータ本体		保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
23			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
24	ケーブル(LAN)		接続状況	ケーブル接続先は正しいか	目視確認	「GROUP2,Port2」～「PC-LANポート」間接続であること	良好・不良	
25			状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
26	AC電源ケーブル		接続状況	ケーブル接続先は正しいか	目視確認	「電源タップ」に接続されていること	良好・不良	
27			状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	

# 日常点検記録

点検対象：走行モニタリングシステム検出部 (型式:NAH81101-YYYYY-S)									
No.	機器管理番号(名称)	保管場所	点検項目	点検事項	点検方法	判断基準	点検結果	備考	
28	衛星車載端末本体	川薩保健所 モニカー車庫	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良		
29			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良		
30	ケーブル(アンテナ)		接続状況	接続先は正しいか	目視確認	「アンテナ端子」～「車両アンテナケーブル」間接続であること	良好・不良		
31			状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良		
32	ケーブル(LAN)		接続状況	電源接続先は正しいか	目視確認	「衛星FAXアダプタ」間接続であること	良好・不良		
33			状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良		
34	AC電源ケーブル		放射線測定車	接続状況	電源接続先は正しいか	目視確認	「車両電源ケーブル」間とでコネクタ接続であること	良好・不良	
35				状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
36	衛星FAXアダプタ本体		鹿見島800 す5963	保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
37				状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
38	ケーブル(LAN)			接続状況	電源接続先は正しいか	目視確認	「ルータ」間接続であること	良好・不良	
39				状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
40	AC電源ケーブル			接続状況	電源接続先は正しいか	目視確認	「電源タップ」に接続されていること	良好・不良	
41				状態	ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
42	車載パソコン本体			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
43				状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
44				状態	ゆるみはないか	目視確認	パソコン台に固定されていること	良好・不良	
45	AC電源ケーブル			す5963	接続状況	接続先は正しいか	目視確認	「AC端子」～「ACタップ」間接続であること	良好・不良
46			状態		ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
47	Webカメラ,GPSレシーバ		接続状況		接続先は正しいか	目視確認	「WebCam,GPS」～「PC,USBポート」間接続であること	良好・不良	
48			状態		ゆるみ・破損はないか	目視確認	端子のゆるみ・本体の破損がないこと	良好・不良	
49	設置台座 A		保管状況		該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
50	折りたたみ式		状態		傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
51	設置台座 B		保管状況		該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好・不良	
52			状態		傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	
53	校正治具		川薩保健所	保管状況	該当物があるか	目視確認	員数そろって該当物があること	良好・不良	
54			モニカー車庫	状態	傷・破損はないか	目視確認	傷・破損がないこと	良好・不良	

日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：緊急時モニタリングシステム(動作確認)							
状態点検頻度：1ヶ月に1回		点検日：平成		年月日		天気：	
No.	点検項目	点検事項		点検方法	判断基準	点検結果	備考
1	動作確認	システム起動		表示確認	正常起動すること	良好・不良	
2	動作確認	計測データは収集されているか		表示確認	走行MSの測定データおよび稼働中のMPデータが収集されていること	良好・不良	
3	動作確認	収集日時は正しいか		表示確認	走行MSの測定日時が正しい表示であること	良好・不良	
4	動作確認	位置情報は正しいか		表示確認	現在位置と測定位置の緯度経度が一致していること	良好・不良	
5	動作確認	測定値に異常はないか		表示確認	測定場所における通常時の線量率であること	良好・不良	
6	動作確認	GPS通信異常はないか		表示確認	GPS通信が正常表示であること	良好・不良	
7	動作確認	回線異常はないか		表示確認	地上回線または衛星回線で異常表示がないこと	良好・不良	


# 走行モニタリングシステム取扱手順

走行モニタリングシステム日常点検要領に記載の取扱い方法として明記した

改訂記録

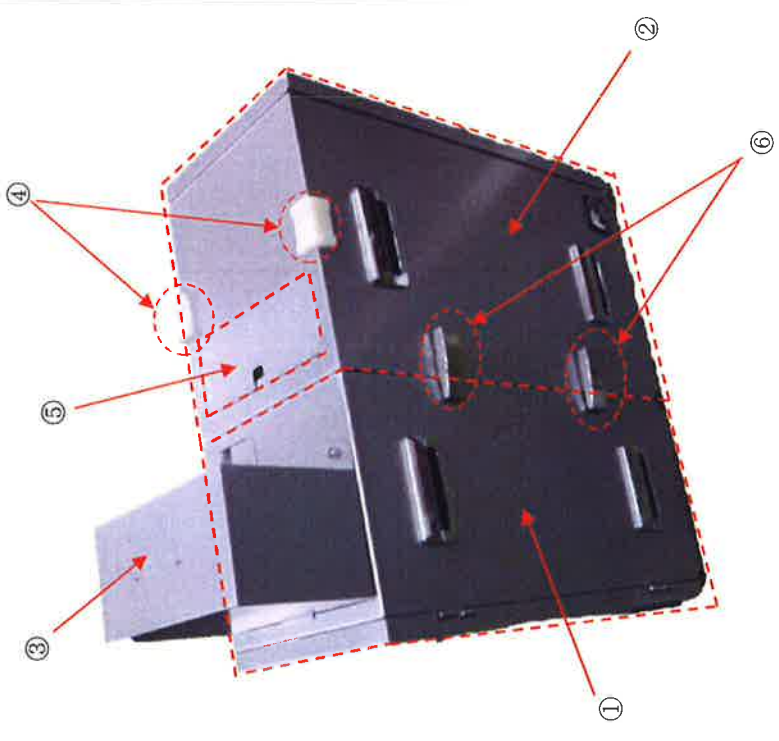
制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------

## 取扱手順

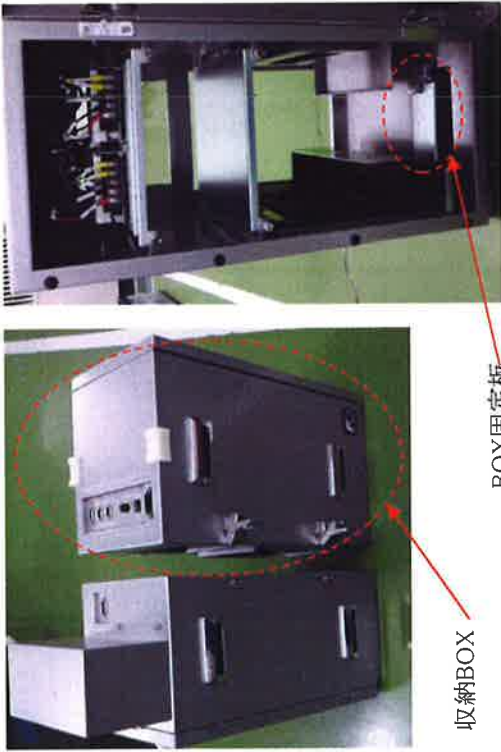
No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
1	<p>《基本手順》 付属品を把握</p>	<p>付属品の状況を確認</p> 	<p>次の鍵がそろっていることを目視確認する</p> <p>① 収納BOX用鍵(xxx-S) ② 計測BOX用鍵(xxx-K)</p>	
2	<p>《基本手順》 必要な機器を把握</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 走行MS本体(収納BOX・計測BOX一体)</li> <li>2. 車載パソコン Panasonic TOUGHBOOK CF-19</li> <li>3. DC/ACインバータ</li> <li>4. 衛星車載端末</li> <li>5. 衛星FAXアダプタ</li> <li>6. ルーター</li> <li>7. Webカメラ</li> <li>8. GPSレシーバ</li> </ol>	<p>左記の機器がそろっていることを目視確認する</p>	
3	<p>《基本手順》 必要なケーブルを把握</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. W301 BOX間ケーブル(黒)</li> <li>2. S004 低レンジ～USB 間ケーブル(黒)</li> <li>3. S005 高レンジ～PC.シリアル 間ケーブル</li> <li>4. S006.S007 LAN ケーブル(水)2本</li> <li>5. S008 LAN ケーブル(灰)1本</li> <li>6. S009.S010 USBケーブル(灰) 2本</li> <li>7. S011 USBケーブル(黒) 1本</li> <li>8. 車載アンテナケーブル(灰) 1本</li> <li>9. P001.P003 車両電源ケーブル(赤黒)</li> <li>10. P007.P009 車両電源ケーブル(青白黒・赤白黒)</li> <li>11. 計測BOX電源ケーブル</li> <li>12. ルーター電源ケーブル</li> <li>13. 衛星FAX電源ケーブル</li> <li>14. パソコン電源ケーブル</li> </ol>	<p>左記のケーブル類がそろっていることを目視確認する</p>	




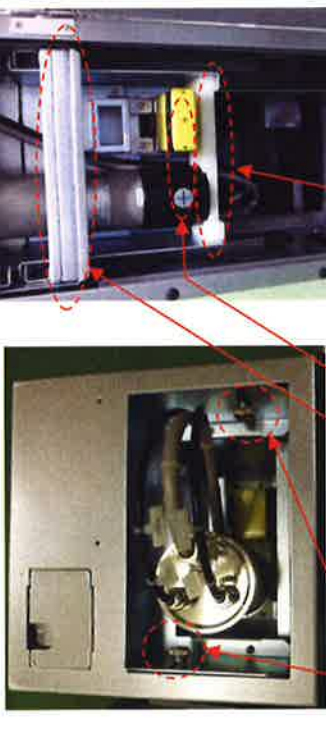
取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
4	<p>《基本手順》 本体外觀を把握</p>	<p>本体の全体外觀の状況を確認</p>  <p>The diagram shows a dark-colored rectangular device with a light-colored front panel. Red dashed lines outline the device. Six red arrows point to specific parts, labeled with circled numbers: 1 points to the top edge, 2 to the top-right corner, 3 to the front panel, 4 to a small white component on the top edge, 5 to a small black component on the top edge, and 6 to a small black component on the top edge.</p>	<p>① 検出器BOX ② 収納BOX ③ 検出器カバー ④ 車載固定用バンドガイド ⑤ コネクタカバー ⑥ ダブルドローフアスナー(パチン錠)</p>	

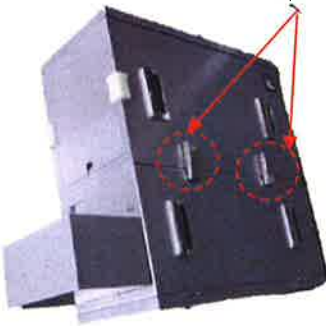
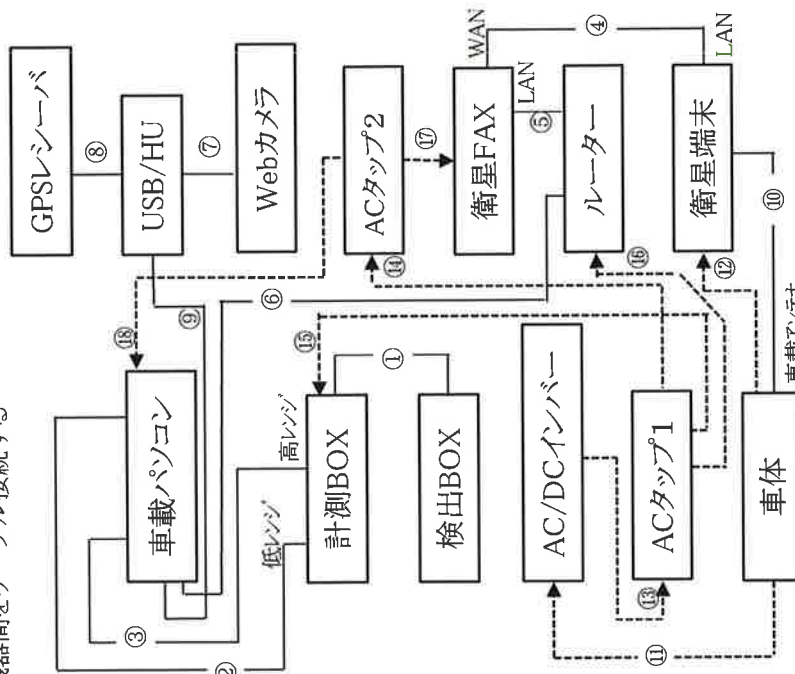
## 取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
5	<p>《車載》 機器の車載 本作業は2名で実施する</p>	<p>車両内を設置準備する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両内シート移動</li> <li>・台座設置</li> <li>・ラック設置</li> <li>・車載パソコン設置</li> <li>・ケーブル接続(次項に詳細を示す)</li> </ul>	<p>左記の5項目については、富士電機(件名:平成25年度緊急時モニタリングシステムの調達)タブ2. 操作手順書「WTA528944」P.3～P.9を参照して実施する。</p>	
6	<p>《車載》 本体積み込み 本作業は2名で実施する</p>	<p>収納BOXを車両に載せる</p>  <p>収納BOX</p> <p>BOX固定板</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 左写真点線内の収納BOXを測定車に載せる。</li> <li>(2) 鍵①で扉を開け、BOX固定板のローレットネジを締めて車体と固定する。</li> <li>(3) 鍵①で扉を閉める。</li> <li>(4) 車載固定用バンドガイド部分でベルト固定する。</li> </ol>	

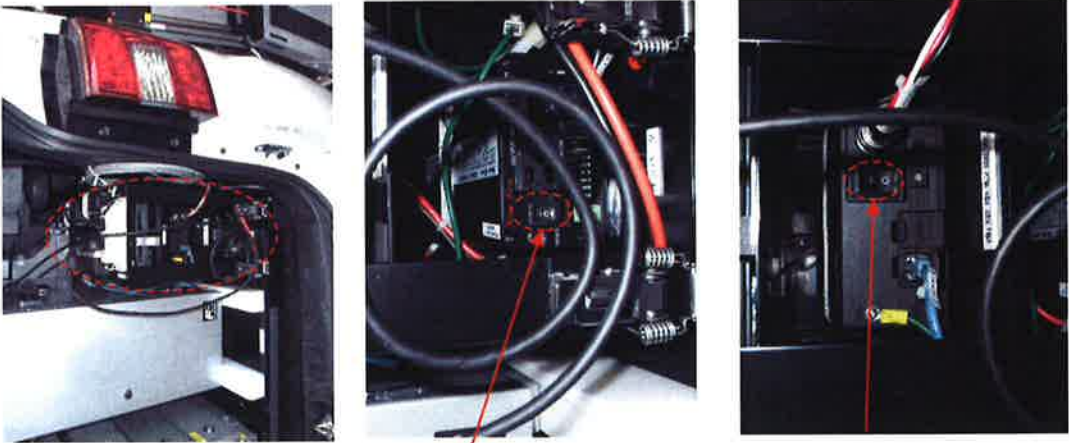
# 取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
7	<p>《車載》 本体調整</p> <p>本作業は2名で実施する</p>	<p>検出器BOXを車両に載せる</p>  <p>検出器BOX 検出器カバーネジ BOX固定板</p>	<p>(1) 左写真点線内の検出器BOXを測定車に載せる。</p> <p>(2) 鍵②で扉を開け、BOX固定板のローレットネジを締めて車体と固定する。</p>	
	<p>検出器の高さ調整</p>  <p>検出器固定ネジ 高さ調整金具 検出器中心位置</p>	<p>(1) 上写真点線内の検出器カバーネジを外し、検出器カバーを外すと、左写真の様子となる。</p> <p>(2) 2箇所検出器固定ローレットネジを緩め、押え板を上方に仮留めする。</p> <p>(3) 高さは、検出器中心が地上面より1mとなる様に調整する。</p> <p>(4) 調整は、高さ調整金具を適宜挿入または外して行う。</p> <p>(5) 高さ調整終了後、押え板を下げて検出器を固定し、ローレットネジを締める。</p> <p>(6) 検出器カバーを取り付け、ローレットネジを締める。</p> <p>(7) 鍵②で扉を閉める。</p>		




## 取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考																																																									
8	《車載》 本体組み立て	 <p>パチン錠(裏側にもある)</p>	(1) 検出器BOXと収納BOXを4箇所のパチン錠で連結させる。																																																										
9	《車載》 ケーブル接続	<p>各機器間をケーブル接続する</p> 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>図中番号</th> <th>管理番号</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td>W301</td><td>BOX間ケーブル(黒)</td></tr> <tr><td>②</td><td>S004</td><td>低レンジ～USB間ケーブル(黒)</td></tr> <tr><td>③</td><td>S005</td><td>高レンジ～PC.シリアル間ケーブル(灰)</td></tr> <tr><td>④</td><td>S006</td><td>LANケーブル(水)</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>S007</td><td>LANケーブル(水)</td></tr> <tr><td>⑥</td><td>S008</td><td>LANケーブル(灰)</td></tr> <tr><td>⑦</td><td>S009/S002</td><td>Webカメラ～USBケーブル(灰/黒)</td></tr> <tr><td>⑧</td><td>S010/S003</td><td>GPS～USB間ケーブル(灰/黒)</td></tr> <tr><td>⑨</td><td>S011</td><td>USBケーブル(黒)</td></tr> <tr><td>⑩</td><td>-</td><td>アンテナケーブル(灰)</td></tr> <tr><td>⑪</td><td>P001/P003</td><td>電源ケーブル(赤黒)</td></tr> <tr><td>⑫</td><td>P007/P009</td><td>電源ケーブル(青白黒/赤白黒)</td></tr> <tr><td>⑬</td><td>-</td><td>AC電源タップ1 本体ケーブル</td></tr> <tr><td>⑭</td><td>-</td><td>AC電源タップ2 本体ケーブル</td></tr> <tr><td>⑮</td><td>-</td><td>計測BOX電源ケーブル</td></tr> <tr><td>⑯</td><td>-</td><td>ルーター電源ケーブル</td></tr> <tr><td>⑰</td><td>-</td><td>衛星FAX電源ケーブル</td></tr> <tr><td>⑱</td><td>-</td><td>パソコン電源ケーブル</td></tr> </tbody> </table>	図中番号	管理番号	種類	①	W301	BOX間ケーブル(黒)	②	S004	低レンジ～USB間ケーブル(黒)	③	S005	高レンジ～PC.シリアル間ケーブル(灰)	④	S006	LANケーブル(水)	⑤	S007	LANケーブル(水)	⑥	S008	LANケーブル(灰)	⑦	S009/S002	Webカメラ～USBケーブル(灰/黒)	⑧	S010/S003	GPS～USB間ケーブル(灰/黒)	⑨	S011	USBケーブル(黒)	⑩	-	アンテナケーブル(灰)	⑪	P001/P003	電源ケーブル(赤黒)	⑫	P007/P009	電源ケーブル(青白黒/赤白黒)	⑬	-	AC電源タップ1 本体ケーブル	⑭	-	AC電源タップ2 本体ケーブル	⑮	-	計測BOX電源ケーブル	⑯	-	ルーター電源ケーブル	⑰	-	衛星FAX電源ケーブル	⑱	-	パソコン電源ケーブル	
図中番号	管理番号	種類																																																											
①	W301	BOX間ケーブル(黒)																																																											
②	S004	低レンジ～USB間ケーブル(黒)																																																											
③	S005	高レンジ～PC.シリアル間ケーブル(灰)																																																											
④	S006	LANケーブル(水)																																																											
⑤	S007	LANケーブル(水)																																																											
⑥	S008	LANケーブル(灰)																																																											
⑦	S009/S002	Webカメラ～USBケーブル(灰/黒)																																																											
⑧	S010/S003	GPS～USB間ケーブル(灰/黒)																																																											
⑨	S011	USBケーブル(黒)																																																											
⑩	-	アンテナケーブル(灰)																																																											
⑪	P001/P003	電源ケーブル(赤黒)																																																											
⑫	P007/P009	電源ケーブル(青白黒/赤白黒)																																																											
⑬	-	AC電源タップ1 本体ケーブル																																																											
⑭	-	AC電源タップ2 本体ケーブル																																																											
⑮	-	計測BOX電源ケーブル																																																											
⑯	-	ルーター電源ケーブル																																																											
⑰	-	衛星FAX電源ケーブル																																																											
⑱	-	パソコン電源ケーブル																																																											

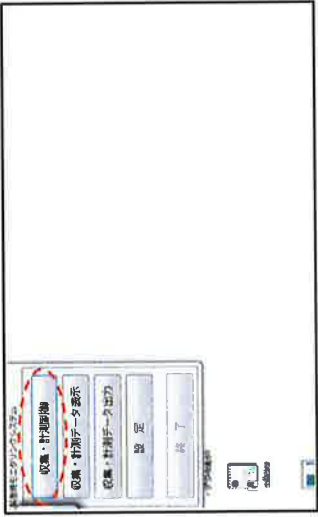
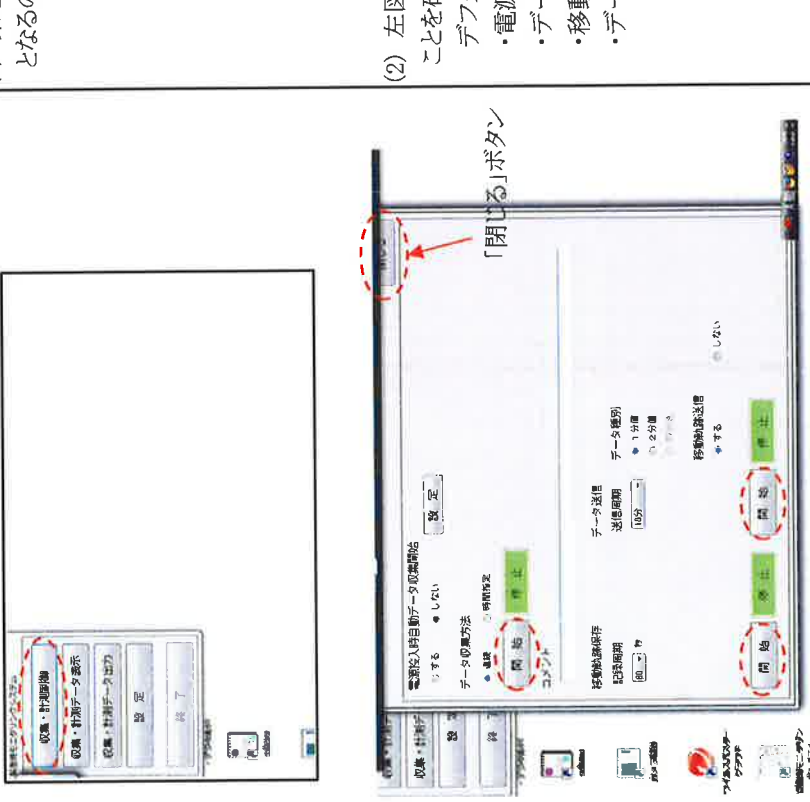

取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
10	《測定器運転》 電源投入	<p>各機器の電源を投入</p> <p>各機器の配置状況</p>  <p>最下段 インバータ 電源投入</p> <p>2段目 衛星車載端末 電源SW</p>	<p>(1) 車両のエンジンを掛ける。</p> <p>(2) 最下段のDC/ACインバータ電源を入れる。</p> <p>(3) 2段目の衛星車載端末電源を入れる。</p>	

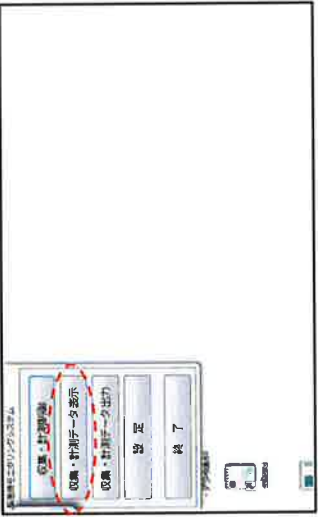
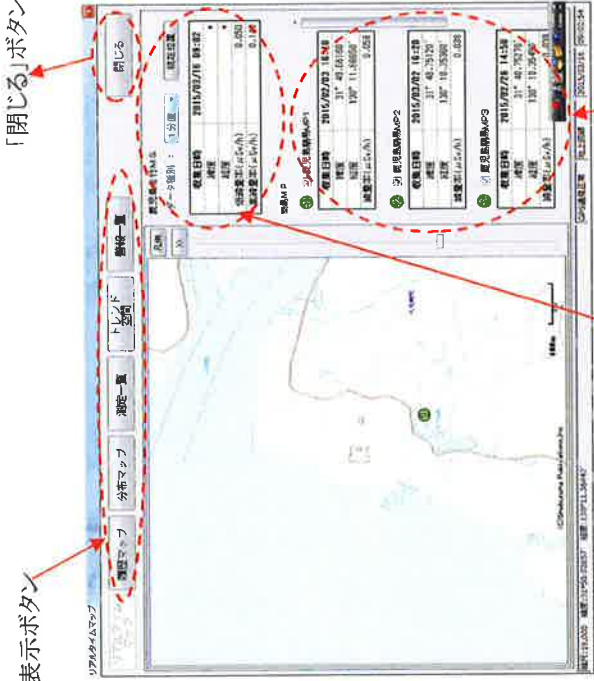
取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
10 (続き)	《測定器運転》 電源投入	<p>各機器の電源を投入</p>  <p>最上段 衛星FAX アダプタ 電源SW</p>  <p>本体上部 電源SW</p>  <p>PC電源SW</p>	<p>(4) 最上段の衛星FAXアダプタ電源を入れる。</p> <p>(5) 走行モニタ本体の電源を入れる。</p> <p>(6) 車載パソコンの電源を入れる。 緊急時モニタリングシステムが自動で立ち上がる。 (完全起動までに1～2分かかる)</p>	

取扱手順

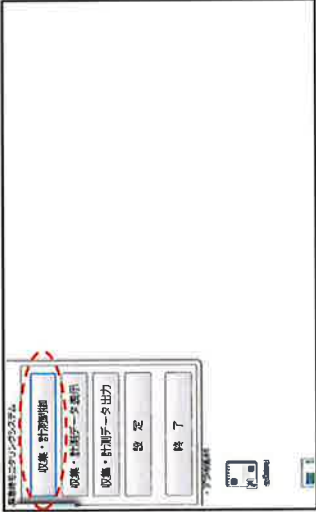
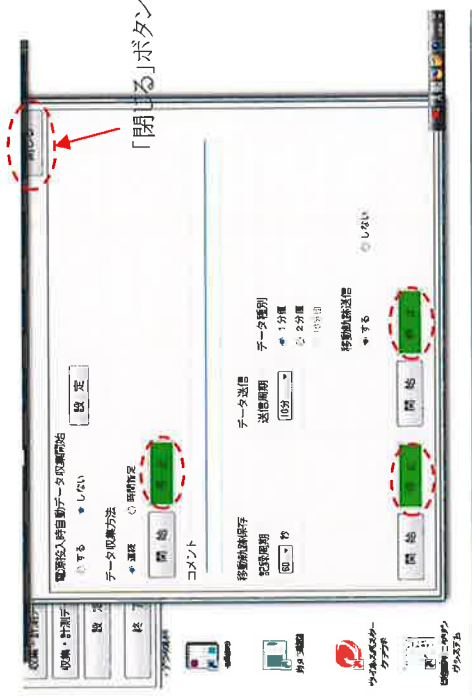
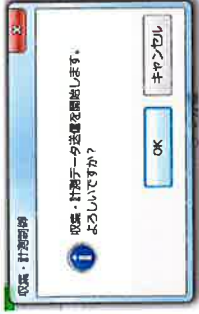
No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
11	《測定器運転》 計測開始手続	緊急時モニタリングシステムの起動を確認		
			<p>(1) 緊急時モニタリングシステムが起動すると、左図の画面となるので、「収集・計測制御」ボタンを押下する。</p> <p>(2) 左図の収集・計測制御画面で、次のデフォルト値であることを確認し、点線内の「開始」ボタンをそれぞれ押下する。 デフォルト値 ・電源投入時自動データ収集開始 “しない” ・データ収集方法 “連続” ・移動軌跡保存 記録周期 “60秒” ・データ送信 送信周期 “10分” データ種別 “1分値” 移動軌跡送信 “する”</p>	デフォルト値は適宜変更可能
			<p>(3) それぞれの「開始」ボタンを押下すること、左図のような確認画面が表示されるので、「OK」を押下して確定させる。</p> <p>(4) 右上の「閉じる」ボタンを押下すると、初期画面へ戻る。</p>	

取扱手順


No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
12	《測定器運転》 計測状況確認	<p>初期画面よりリアルタイムマップ表示へ</p>   <p>各表示ボタン</p> <p>「閉じる」ボタン</p> <p>鹿兒島走行MSに関する表示</p> <p>鹿兒島簡易MPに関する表示</p>	<p>(1) 初期画面より、「収集・計測データ表示」ボタンを押下する。</p> <p>(2) 左図のリアルタイムマップ画面で、右上部の「鹿兒島走行MS」表示に測定結果が表示される。 また、その下部には簡易MSの直近の測定結果が表示される。</p> <p>(3) 必要に応じて各表示ボタンを押下すると、それぞれの画面が表示される。 詳細は取扱い説明書WTA528943 車載パソコン端末画面操作説明書P.14～P.28を参照。</p>	



# 取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
13	《測定器運転》 測定停止	<p>初期画面表示へ</p>   	<p>実施方法および注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各画面右上部の「閉じる」ボタンを押下し、初期画面を表示させる。</li> <li>(2) 「収集・計測制御」ボタンを押下する。</li> <li>(3) 左図の収集・計測制御画面で、点線内の「停止」ボタンをそれぞれ押下する。 (「開始」ボタンが緑色となっている)</li> <li>(4) それぞれの「停止」ボタンを押下することに、左図のような確認画面が表示されるので、「OK」を押下して確定させる。</li> <li>(5) 右上の「閉じる」ボタンを押下すると、初期画面へ戻る。</li> <li>(6) 初期画面の「終了」ボタンを押下するとシステムが閉じる。</li> <li>(7) パソコンをシャットダウンする。</li> </ol>	

## 取扱手順

No.	作業区分	実施項目	実施方法および注意事項	備考
14	《故障・異常情報の確認》	<p>電源が入らない異常の対処</p>  <p>ヒューズ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 走行MS取扱 手順10を数回試みる。</li> <li>(2) 走行MS取扱 手順9を再度確認する。</li> <li>(3) 収納BOXのヒューズを確認する。</li> <li>(4) 改善しない場合は、メーカー問合せ、修理を検討する。</li> </ol>	<p>交換する際は、取扱説明書 TN5A2215 P.17を参照</p>
		<p>データが出力されない異常の対処</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 走行MS取扱 手順10を数回試みる。</li> <li>(2) 走行MS取扱 手順9を再度確認する。 特にPCへの接続状況を確認</li> <li>(3) 接続先PCの設定確認</li> <li>(4) 改善しない場合は、メーカー問合せ、修理を検討する。</li> </ol>	
		<p>その他の異常の対処</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 取扱説明書TN5A2215 P.19,20を参照して対処する。</li> <li>(2) 改善しない場合は、メーカー問合せ、修理を検討する。</li> </ol>	

# モニタリング情報共有システム日常点検要領

測定機器管理台帳に記載の点検方法としてその要領を明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------

## 日常点検要領

測定機器管理担当者:

平成27年度

・モニタリング情報共有システム

<b>点検目的</b>	1.常時適正な使用が可能な状態を確認するため。 2.機能の健全性を確認するため。			
<b>点検方法</b>	様式-RMSS点検手順 による	点検記録	様式-RMSS点検記録 による	取扱説明書(下記参照) による
<b>点検運転方法</b>	実施頻度	1ヶ月に1回		
	実施場所	事務所		
	要領	外観目視点検及び動作確認		
	備考			

取扱説明書：モニタリング情報共有システム 成果物

2(8)システム操作手順書(屋外用端末)、(屋内用端末)を参照

# モニタリング情報共有システム日常点検手順

モニタリング情報共有システム日常点検要領に記載の点検方法としてその手順を明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------





日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
1	《保管状況》 OAバッグ		(1) 左写真のバッグがあることを確認する。 (2) 該当物があれば良好とする。 (3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。	RMSS端末は次の2セットが 配備されているので、各々点検 を実施する。 ・ NSRCL01 ・ NSRCL02
2	《状態》 OAバッグ		(1) 破れやちぎれ、汚損状況を目視確認する。 (2) 運搬、保管に支障がないことで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。	
3	《保管状況》 端末本体		(1) 写真左の端末本体があることを確認する。 (2) 写真右上のACケーブルがあることを確認する。 (3) 以上2品の該当物があれば良好とする。 (4) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。	
4	《保管状況》 ACケーブル			
5	《状態》 端末本体一式	 ACケーブル バッテリーアイコン	(1) 写真右下のバッテリーアイコンを確認する。 (2) 95%以上であれば良好とする。 (3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。 (4) 点検後に約3時間充電する。	
6	《状態》 端末本体一式	 端末本体	(1) 傷や破損状況を目視確認する。 (2) 本体、付属品とも傷や破損がないことで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。	
7	《保管状況》 Simカード	 Simカード	(1) 写真左のSimカードが、写真右のスロットに挿入されていることを目視確認する。 (2) カードが挿入されていれば良好とする。 (3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。	
8	《状態》 Simカード	 端末本体右側面	(1) Simカードが正しく挿入固定されていることを目視確認する。 (2) カードが挿入固定されていれば良好とする。 (3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。	

## 日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
9	《保管状況》 衛星携帯電話本体	 <p>衛星携帯電話本体</p> <p>ハンドセット</p> <p>LANケーブル</p> <p>電源ケーブル</p>	<p>(1) 左写真の衛星携帯電話本体があることを確認する。</p> <p>(2) 該当物があれば良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。</p>	
10	《保管状況》 電源ケーブル			
11	《保管状況》 ハンドセット			
12	《保管状況》 LANケーブル			
13	《状態》 衛星携帯電話一式			
14	《保管状況》 カーインバータ		<p>(1) 左写真のカーインバータがあることを確認する。</p> <p>(2) 該当物があれば良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。</p>	
15	《状態》 カーインバータ			

日常点検手順



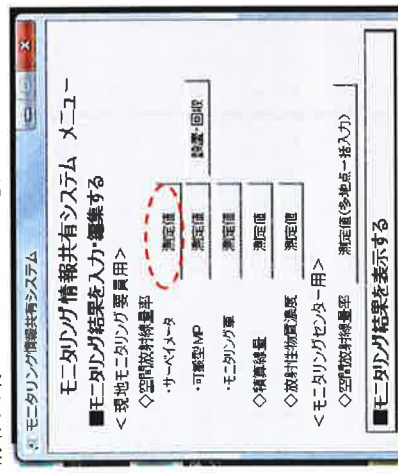
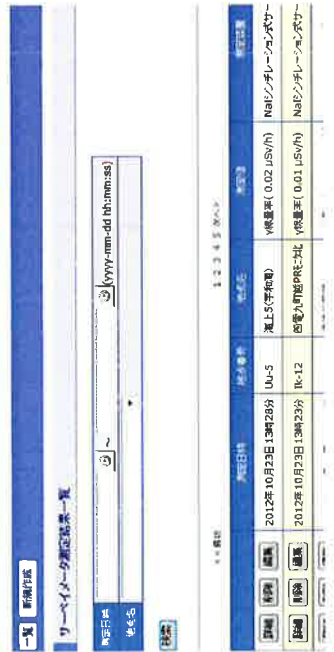

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
16	《保管状況》 GPSレシーバー本体		<p>(1) 左写真のGPSレシーバー本体があることを確認する。</p> <p>(2) 該当物があれば良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。</p>	
17	《状態》 GPSレシーバー本体		<p>(1) 充電状況を動作で確認する。</p> <p>(2) 写真のスイッチを「NAV」に切り替える。</p> <p>(3) 青とオレンジが点灯する。</p> <p>(4) オレンジが点滅になったら起動完了。(1～3分)</p> <p>(5) 起動すれば良好とする。</p> <p>(6) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。</p> <p>(7) 点検後に約3時間充電をする。</p>	
18	《保管状況》 ACアダプタ		<p>(1) 左写真のACアダプタがあることを確認する。</p> <p>(2) 該当物があれば良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。</p>	
19	《保管状況》 USBケーブル		<p>(1) 左写真のUSBケーブルがあることを確認する。</p> <p>(2) 該当物があれば良好とする。</p> <p>(3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。</p>	



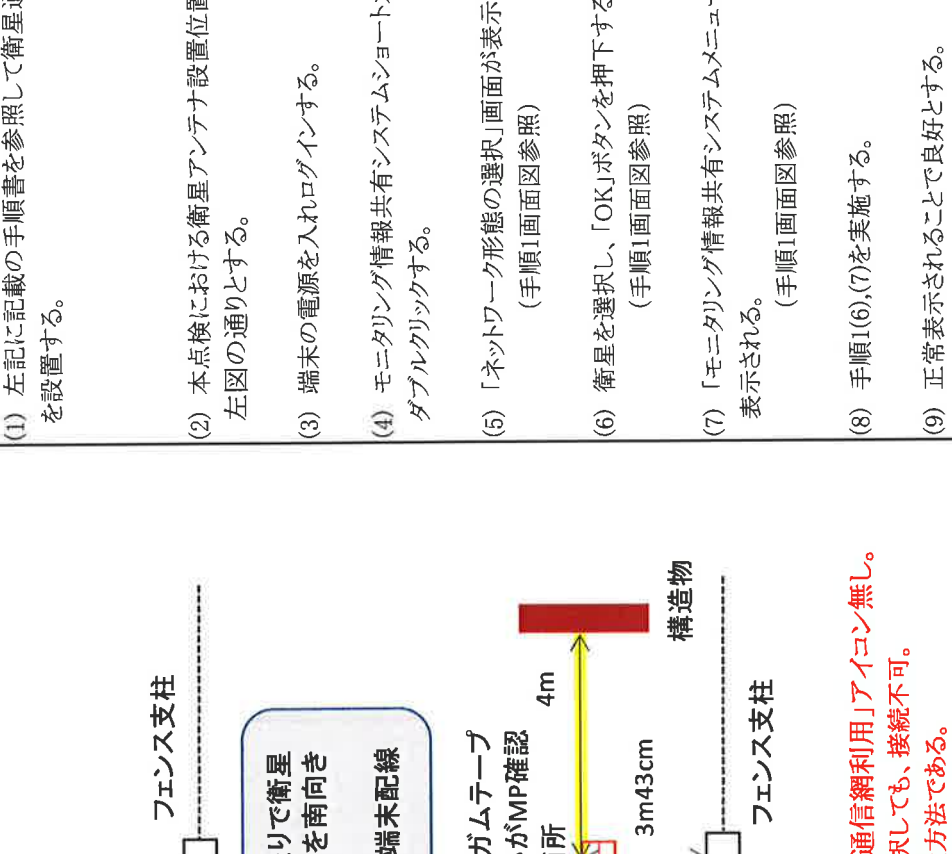
日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
20	《保管状況》 シガーソケットケーブル		(1) 左写真のシガーソケットケーブルがあることを確認する。 (2) 該当物があれば良好とする。 (3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。	
21	《保管状況》 防水ケース		(1) 左写真の防水ケースがあることを確認する。 (2) 該当物があれば良好とする。 (3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。	
22	《状態》 GPSレシーバー式		(1) 傷や破損状況を目視確認する。 (2) 5品とも傷や破損がないことで良好とする。 (3) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-1」に記録する。	

# 日常点検手順

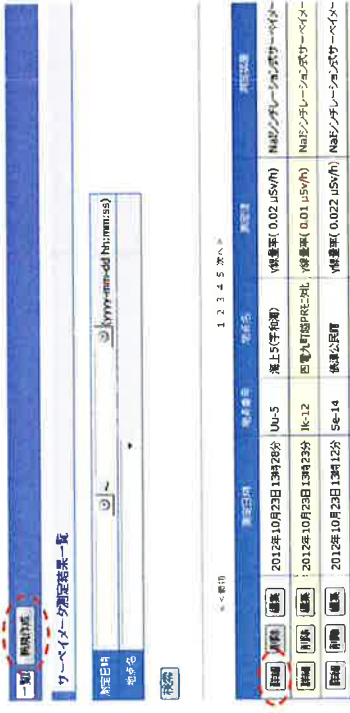
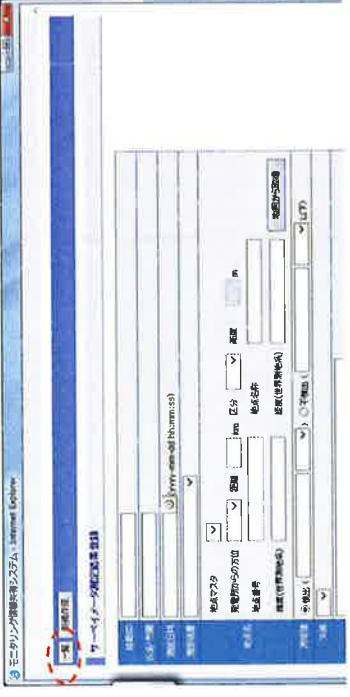
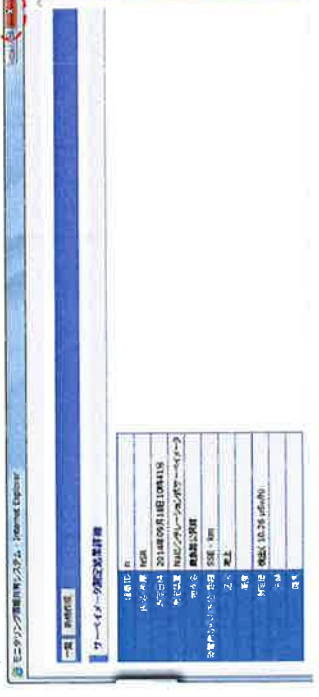
No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
1	<p>《動作確認》 システム起動 (モバイル網)</p>	<p>シャットカッタアイコン</p>  <p>「ネットワーク形態の選択」画面</p>  <p>「モニタリング情報共有システムメニュー」画面</p>  <p>「サーバーバイメータ測定結果一覧」画面</p> 	<p>(1) 端末の電源を入れログインする。</p> <p>(2) モニタリング情報共有システムシミュレーションをダブルクリックする。</p> <p>(3) 「ネットワーク形態の選択」画面が表示される。</p> <p>(4) モバイル網を選択し、「OK」ボタンを押下する。</p> <p>(5) 「モニタリング情報共有システムメニュー」画面が表示される。</p> <p>(6) 左図の「測定値」ボタンを押下する。 30秒以上画面が変わらない場合は接続不良と思われる。 接続が不良な場合は案内画面が表示されるので、「OK」ボタンを押下し、モバイル設定状況を確認し、再度試みる。</p> <p>(7) 接続が良好であれば「サーバーバイメータ測定結果一覧」画面が表示される。</p> <p>(8) 正常表示されることで良好とする。</p> <p>(9) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-2」に記録する。</p>	<p>RMSS端末は次の2セットが配備されているので、各々点検を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NSRCL01</li> <li>・ NSRCL02</li> </ul> <p>接続不良時の案内画面</p> 

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
2	<p>《動作確認》 システム起動 (衛星通信網)</p>	<p>システム操作手順書(ハードウェア・基本ソフトウェア) P.40～P.42参照 (衛星通信網接続、切断方法) P.49～P.53参照 (衛星通信使用時の設置方法)</p>  <p>衛星回線接続点検場所</p> <p>フェンス支柱</p> <p>このあたりで衛星アンテナを南向き設置し、端末配線</p> <p>5cm角ガムテープの中心がMP確認測定箇所</p> <p>4m</p> <p>3m43cm</p> <p>基準線(継ぎ目)</p> <p>構造物</p> <p>フェンス支柱</p> <p>南 ↑</p>	<p>(1) 左記に記載の手順書を参照して衛星通信機器を設置する。</p> <p>(2) 本点検における衛星アンテナ設置位置は、左図の通りとする。</p> <p>(3) 端末の電源を入れログインする。</p> <p>(4) モニタリング情報共有システムショートカットをダブルクリックする。</p> <p>(5) 「ネットワーク形態の選択」画面が表示される。(手順1画面図参照)</p> <p>(6) 衛星を選択し、「OK」ボタンを押下する。(手順1画面図参照)</p> <p>(7) 「モニタリング情報共有システムメニュー」画面が表示される。(手順1画面図参照)</p> <p>(8) 手順I(6),(7)を実施する。</p> <p>(9) 正常表示されることで良好とする。</p> <p>(10) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-2」に記録する。</p>	<p>衛星回線接続における点検は、10分以内で済ませ、回線切断する。</p> <p>端末一式をバッグごと持ち出し、屋上にて接続操作を行う。なお、ブルーシート上で一式を展開して作業をする。</p>

注:平成27年3月末現在「衛星通信網利用」アイコン無し。  
ネットワーク接続で無線を選択しても、接続不可。  
接続できたと仮定しての点検方法である。

日常点検手順

No.	点検項目	参照写真等	実施方法および注意事項	備考
3	<p>《動作確認》 主要画面表示</p>	<p>① 「サーバイメータ測定結果一覧」画面</p>  <p>② 「サーバイメータ測定結果登録」画面</p>  <p>③ 「サーバイメータ測定結果詳細」画面</p> 	<p>(1) 画面表示点検はモバイル網接続状況で実施する。</p> <p>(2) 手順1(1)～(7)により、左図①「サーバイメータ測定結果一覧」画面を表示させる。</p> <p>(3) 一覧表の「新規作成」ボタンを押下し、左図②「サーバイメータ測定結果登録」画面が正常表示されること。</p> <p>(4) この画面入力欄に適宜仮入力し、正常操作可能であることを確認する。なお、「登録」ボタンは押さない。</p> <p>(5) 画面左上の「一覧」ボタンを押下し、①画面に戻る。</p> <p>(6) ①画面の「詳細」ボタンを押下し、左図③「サーバイメータ測定結果詳細」画面が正常表示されること。</p> <p>(7) 画面右上の「×」ボタンを押下し、初期画面である「メニュー」画面に戻る。</p> <p>(8) 以降、各ボタンを押下し、同様に正常表示されるか確認する。</p> <p>(9) 各画面が正常表示されることで良好とする。</p> <p>(10) 点検結果を「様式-RMSS点検記録-2」に記録する。</p>	

# モニタリング情報共有システム日常点検記録

モニタリング情報共有システム日常点検要領に記載の点検記録として明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------

# 日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：モニタリング情報共有システム端末 NSRCL01										
状態点検頻度：1ヶ月に1回		点検日：平成 年 月 日		点検者：						
No.	機器管理番号(名称)	保管場所	点検項目	点検事項	点検方法	判断基準	点検結果	備考		
1	OAバッグ		保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良		
2			状態	傷・破損はないか	目視確認	運搬、保管に支障がないこと	良好	不良		
3	端末本体		保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良		
4			保管状況	電源ケーブルがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良		
5			状態	バッテリー充電状況	表示確認	バッテリーアイコンで95%以上であること	良好	不良		
6			状態	傷・破損はないか	目視確認	本体、付属品とも傷や破損がないこと	良好	不良		
7	Simカード		保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良		
8			状態	本体に挿入されているか	目視確認	端末本体スロットに挿入されていること	良好	不良		
9	衛星携帯電話一式	事務所	保管状況	該当物(本体)があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良		
10			保管状況	電源ケーブルがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良		
11			保管状況	ハンドセットがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良		
12			保管状況	LANケーブルがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良		
13			状態	傷・破損はないか	目視確認	本体、付属品とも傷や破損がないこと	良好	不良		
14			カーインバータ		保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良
15					状態	傷・破損はないか	目視確認	傷や破損がないこと	良好	不良
16			GPSレシーバー一式		保管状況	該当物(本体)があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良
17					状態	充電されているか	動作確認	本体が起動すること	良好	不良
18					保管状況	ACアダプタがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良
19	保管状況	USBケーブルがあるか			目視確認	該当物があること	良好	不良		
20	保管状況	シガーソケットケーブルがあるか			目視確認	該当物があること	良好	不良		
21	保管状況	防水ケースがあるか			目視確認	該当物があること	良好	不良		
22	状態	傷・破損はないか			目視確認	端子本体、付属品とも傷や破損がないこと	良好	不良		

# 日常点検記録

測定機器管理担当者:

点検対象：モニタリング情報共有システム端末 NSRCL02

状態点検頻度：1ヶ月に1回		点検日：平成 年 月 日		点検者：					
No.	機器管理番号(名称)	保管場所	点検項目	点検事項	点検方法	判断基準	点検結果	備考	
1	OAバッグ		保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
2			状態	傷・破損はないか	目視確認	運搬、保管に支障がないこと	良好	不良	
3			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
4			保管状況	電源ケーブルがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
5			状態	バッテリー充電状況	表示確認	バッテリーアイコンで95%以上であること	良好	不良	点検後充電すること
6			状態	傷・破損はないか	目視確認	本体、付属品とも傷や破損がないこと	良好	不良	
7	Simカード		保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
8			状態	本体に挿入されているか	目視確認	端末本体スロットに挿入されていること	良好	不良	
9			保管状況	該当物(本体)があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
10			保管状況	電源ケーブルがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
11			保管状況	ハンドセットがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
12			保管状況	LANケーブルがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
13	カーインバンパータ	事務所	状態	傷・破損はないか	目視確認	本体、付属品とも傷や破損がないこと	良好	不良	
14			保管状況	該当物があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
15			状態	傷・破損はないか	目視確認	傷や破損がないこと	良好	不良	
16			保管状況	該当物(本体)があるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
17			状態	充電されているか	動作確認	本体が起動すること	良好	不良	
18			保管状況	ACアダプタがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
19	GPSレシーバー式		保管状況	USBケーブルがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
20			保管状況	シガーソケットケーブルがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
21			保管状況	防水ケースがあるか	目視確認	該当物があること	良好	不良	
22			状態	傷・破損はないか	目視確認	端子本体、付属品とも傷や破損がないこと	良好	不良	

## 日常点検記録

測定機器管理担当者：

点検対象： モニタリング情報共有システム端末 NSRCL01 (動作確認)										
状態点検頻度：1ヶ月に1回		点検日：平成		年	月	日	天気：		点検者：	
No.	点検項目	点検事項		点検方法		判断基準		点検結果		備考
1	動作確認	システム起動(モバイル網)		接続確認		サーベイメータ測定結果一覧画面が表示されること		良好・不良		
2	動作確認	システム起動(衛星通信網)		接続確認		サーベイメータ測定結果一覧画面が表示されること		良好・不良		
3	動作確認	主要画面表示		表示確認		目的の画面が表示されること		良好・不良		

点検対象： モニタリング情報共有システム端末 NSRCL02 (動作確認)										
状態点検頻度：1ヶ月に1回		点検日：平成		年	月	日	天気：		点検者：	
No.	点検項目	点検事項		点検方法		判断基準		点検結果		備考
1	動作確認	システム起動(モバイル網)		接続確認		サーベイメータ測定結果一覧画面が表示されること		良好・不良		
2	動作確認	システム起動(衛星通信網)		接続確認		サーベイメータ測定結果一覧画面が表示されること		良好・不良		
3	動作確認	主要画面表示		表示確認		目的の画面が表示されること		良好・不良		



# 自動車及びモニタリングカー運用・点検要領

原子力規制事務所等自動車運用管理要領(平成27年2月2日改正)並びに原子力災害等に係る緊急自動車の運用マニュアル(平成27年4月1日改正予定)に記載の運用・点検方法を地方放射線モニタリング対策官事務所に配備された自動車に適用する場合は要領を明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課

## 自動車運用・点検要領

管理補助者及び管理補助者代行:

・自動車

平成27年度

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者より管理補助者及び管理補助代行に指名された者は、管理補助者台帳及び管理補助者代行台帳に指名されたことを記録する。</li> <li>・管理補助者は職員が自動車を運転する前に、原子力規制事務所等自動車運用管理要領別紙2の様式で管理者に運転手の指名を依頼する。</li> <li>・管理者は、運転手に指名された者を運転手管理台帳に登録する。</li> <li>・運転手は自動車運行報告書に基づき、1日1回又はその運行の前に日常点検を必ず実施する。</li> <li>・運転手は、自動車を運転した都度自動車運行報告書を作成し、管理補助者に提出する。</li> <li>・管理補助者は自動車運行報告書を月毎にまとめ、翌日の10日までに管理者に送付する。</li> <li>・管理補助者は配備された自動車を自動車管理台帳に登録し、定期点検の時期を明確にする。</li> <li>・定期点検については、監視情報課もしくは管理者の指示にしたがって実施する。</li> </ul>			
点検目的	1. 常時適正な使用が可能なる状態を確認するため。			
点検方法	様式-自動車点検手順 による	点検記録	自動車運行報告書 による	メンテナンスノート による
実施頻度	1日1回又はその運行の前			
実施場所	駐車場			
確認概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・停止状態での目視確認</li> <li>・エンジン始動時の状況</li> <li>・警告灯</li> <li>・ランプ点灯状況</li> <li>・公道に出る前の一時停止時</li> </ul>			
備考	日常点検後、走行時に異常を感じた場合は、自動車運行報告書の備考欄に記載し、管理補助者に報告すること。			

## モニタリングカー運用・点検要領

管理補助者及び管理補助者代行:

・自動車

平成27年度

運用	<p>モニタリングカーは、自動車運用・点検に下記の項目を追加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理補助者は、原子力規制庁所有の自動車が発急自動車の指定を受けた場合、緊急自動車管理台帳に登録し、監視情報課と共有する。</li> <li>・管理補助者は、自動車安全運転センター安全運転中央研修所の一般緊急自動車運転技能者課程を修了した者を運転手管理台帳に登録する。</li> <li>・管理補助者は、原子力規制庁所有の自動車が発急自動車の指定を抹消した場合、緊急自動車管理台帳に抹消の旨記載する。。</li> </ul>			
点検目的	<p>1.緊急自動車として、常時適正な使用が可能な状態を確認するため。</p>			
点検方法	緊急自動車日常・月例点検手順 による	点検記録	日常・月例車両点検結果表 による	メンテナンスノート による
実施頻度	毎月1回以上			
実施場所	駐車場 並びに 路上			
確認概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・停止状態での目視確認</li> <li>・エンジン始動時の状況</li> <li>・警告灯</li> <li>・ランプ点灯状況</li> <li>・公道に出る前の一時停止時</li> <li>・周囲の安全を十分に確認したうえ、路上での点検走行</li> </ul>			
備考	点検後、管理補助者に日常・月例車両点検結果表を提出すること。			





鹿児島地方放射線モニタリング対策官事務所における運転手の指名について(依頼)

1. 運転手の官職及び氏名           ○○○官   ○○ ○○
  
2. 指名の理由                       ○○○○○業務の遂行に必要なため
  
3. 添付書類                         運転免許証(写し)

平成○○年○○月○○日

鹿児島地方放射線モニタリング対策官事務所

管理補助者   ○○ ○○

# 運転手管理台帳

自動車及びモニタリングカー運用点検要領に基づき、次の者を運転手として指名した。

運転手名			
指名年月日			
指名者			
	種別	免許の有無	運転暦(平成〇〇年現在)
運転免許	普通		〇〇年〇〇ヶ月
	中型		〇〇年〇〇ヶ月
	大型		〇〇年〇〇ヶ月

緊急自動車運転資格について

緊急自動車が普通車においては2年、大型・中型車においては3年以上の免許保有者であること

運転適性診断票の結果による指名者の意見	
自動車安全運転センター安全運転中央研修所の一般緊急自動車運転技能者課程受講暦	
	平成〇〇年〇〇月〇〇日 修了
	平成〇〇年〇〇月〇〇日 修了
	平成〇〇年〇〇月〇〇日 修了
	平成〇〇年〇〇月〇〇日 修了
	平成〇〇年〇〇月〇〇日 修了

上記研修終了後、修了証書及び運転適性診断票の写しを原子力規制委員会原子力安全人材育成センターに提出

添付書類(各証写し)

1. 運転免許証(共通)
2. 一般緊急自動車運転技能者課程修了証(緊急自動車運転手)
3. 運転適性診断票(緊急自動車運転手)

# 自動車管理台帳

No	1	2	3	4	5
車両番号	鹿児島 800 す 5963	(八戸 800 さ7 393)			
車種	三菱 デリカ D:5	日産 エルグランド			
初年度登録	平成26年12月24日	平成24年3月30日			
抹消					
年数	点検の種類	点検日	点検日	点検日	点検日
1	12ヶ月点検				
2	24ヶ月点検				
3	12ヶ月点検				
4	24ヶ月点検				
5	12ヶ月点検				
6	24ヶ月点検				
7	12ヶ月点検				
8	24ヶ月点検				
9	12ヶ月点検				
10	24ヶ月点検				
	緊急自動車 平成26年12月25日配備	元文部科学省所有 平成26年3月16日青森より、左前方にキズ有り。			
	履歴				



平成〇〇年〇〇月〇〇日

# 緊急自動車指定報告 指定抹消

鹿児島地方放射線モニタリング対策官事務所 殿

(報告者)

〇〇官  
〇〇 〇〇

下記の車両については、平成〇〇年〇〇月〇〇日をもって、〇〇のため  
緊急自動車の指定を 受けました ので報告致します。  
抹消しました




記

配 備 所 属	〇〇県
車 両 登 録 番 号	第 〇〇 88 〇〇-〇〇 号

特記事項

※登録報告の際は、別添を添付のこと。

## 緊急自動車管理台帳

配備所属		原子力規制庁	
車両登録番号		鹿児島 800 す 5963	
車両情報		<ul style="list-style-type: none"> <li>・車種 デリカ D:5</li> <li>・形式 LDA-CV1W(CV1W-0908877)</li> <li>・乗車定員 7名</li> </ul>	
使用部署/使用者		鹿児島地方モニタリング対策官事務所	
車両種別		モニタリングカー(公共応急自動車)	
配備年月日		平成26年12月25日	
車検有効期間		平成26年12月24日～平成28年12月23日	
		平成 年 月 日～平成 年 月 日	
		平成 年 月 日～平成 年 月 日	
		平成 年 月 日～平成 年 月 日	
自賠責保険会社		損害保険ジャパン 日本興亜(株)	担当 0120-281-110 TEL 事故受付
車両写真	前 面 上 面	 	
	側 方		
備忘記録(修理・修理日/事故歴など)			
-----			
-----			
-----			

原子力規制庁放射線防護対策部  
原子力規制庁監視情報課長殿

## 緊急走行実施結果報告書

報告日 平成〇〇年〇〇月〇〇日

報告者 鹿児島地方

モニタリング対策官事務所

〇〇官

〇〇 〇〇

所属	〇〇原子力規制事務所
乗車員	運転者 〇〇 〇〇
	補助者 〇〇 〇〇
車種	鹿児島 800 す 59-63 三菱 DELICA
日時	平成〇〇年〇〇月〇〇日
	〇〇時〇〇分から〇〇時〇〇分までの間
区間	〇〇事務所から
	〇〇モニタリングポストまでの区間
内容	<p>(記入例)</p> <p>平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇)午後〇時〇分頃発生した〇〇により、〇〇原子力発電所〇〇にて、〇〇が〇〇したとの通報を受けたことから、至急現場の状況確認を行う必要があると認めたため、上記、日時・区間の緊急走行を実施したものである。</p>

# 自動車日常点検手順

自動車及びモニタリングカー運用点検要領に記載の点検方法としてその手順を明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------

日常点検手順

No.	点検項目	点検内容	実施方法および注意事項	備考
1	《運行前点検》 異常歴及び外観	点検内容 前回の自動車運行報告書において異常が認められた箇所の有無を確認	全項について点検結果は「自動車運行報告書」の点検結果欄に記録する。  (1) 前回の運行中における異常の有無を自動車運行報告書で確認する。 (2) ボディーに凹みや傷がないかを確認する。 (3) 異常がある場合、運転に支障がないかを判断する。 (4) 前回報告の確認及び、運転に支障がないように措置が完了することで良好とする。	運転中に違和感があったら、運行報告書の備考欄に「異常あり(措置)」や「経過観察」情報を記載する。
2	《運行前点検》 タイヤの空気圧	タイヤの空気圧の目視確認	(1) 目視でタイヤ接地部のたわみの状態により、適正な空気圧かどうかを確認する。 (2) 目視状況で異常がなければ良好とする。	給油時などに空気圧確認を実施する。
3	《運行前点検》 タイヤの亀裂、損傷	タイヤの亀裂損傷状況の目視確認	(1) 著しい亀裂や損傷、石かみ、その他の異物穿刺がないか全タイヤについて確認する。 (2) 全タイヤとも異常がないことで良好とする。	
4	《運行前点検》 エンジン始動	エンジンのかかり具合を確認	(1) エンジンが速やか(5秒以内)に始動し、スムーズに回転するかどうかを確認する。 (2) エンジン始動時及びブイドリング状態で、異音がないかを確認する。 (3) 特に違和感を感じなければ良好とする。	
5	《運行前点検》 ランプ等	点灯点滅状態、レンズの汚れや損傷状況を確認	(1) 前照灯、方向指示器灯等正常に点灯するか確認する。 (2) 各灯のレンズの汚れや損傷がないかを確認する。 (3) 異常がないことで良好とする。	電気装置 (前照灯、方向指示器灯等)

日常点検手順

6	《運行前点検》 操縦装置	操縦操作時の運転姿勢を確認	(1) ハンドル操作がしやすいようにシートやハンドルの位置を調整する。 (2) バックミラー(ルームミラー)、サイドミラーの見え具合を調整する。 (3) 特に違和感を感じなければ良好とする。	操縦装置<1> (ハンドル部)
7	《運行前点検》 ブレーキペダル	ブレーキペダルの踏みしろ	(1) ブレーキペダルをしっかりと踏み込む。 (2) 踏みごたえの感覚(あまい・かたい)に違和感がないか確認する。 (3) 10cm程度の踏み応え感覚であれば良好とする。 (4) 踏んだ時の運転姿勢を確認する。	制動装置<1> (ブレーキ部) 操縦装置<2> (ハンドル部)
8	《運行前点検》 ガソリン	ガソリンの確認	(1) ガソリンが燃料計の4分の1以上あるか確認する。 (2) 運転する距離を考えて、運行前後に補給する。	ガソリン・オイル<1>
9	《運行前点検》 オイル	エンジンオイルの確認	(1) エンジンオイルの警告灯が消灯しているかを確認する。 (2) 警告灯が消灯していれば良好とする。	ガソリン・オイル<2>
10	《運行前点検》 ラジエータ水	ラジエータ水の確認	(1) 温度計を確認する。 (2) 温度計が低温を指示していれば良好とする。	ラジエータ水 ※運転中も温度計に注意する
11	《運行前点検》 ウインド・ウォッシュャ	ウインド・ウォッシュャ液の噴射状態、ワイパー拭き取り状態の動作確認	(1) ウインド・ウォッシュャ液の噴射の向きや高さが適当か確認する。 (2) ウォッシュャ液噴出口に詰まりがないか確認する。 (3) ウォッシュャ液をきれいに拭き取れるか確認する。 (4) (1)~(3)全において確認の結果が適正であれば良好とする。	その他装置
12	《運行前点検》 ブレーキ	ブレーキのきき具合	(1) 公道に出る前の一時停止時に、ブレーキのききを確認する。 (2) 特に違和感を感じなければ良好とする。	制動装置<2> (ブレーキ部)

### 自動車運行報告書

運転年月日		平成 年 月 日 曜日				<input type="checkbox"/> 操縦装置(ハンドル部) <input type="checkbox"/> 制動装置(ブレーキ部)	
運転者名				車両番号	鹿児島 800 す 5963		
運行管理時間	始業(午前)	時 分 ~ 時 分		高速利用料	円		<input type="checkbox"/> 電気装置 <small>(前照灯・方向指示器等)</small> <input type="checkbox"/> ガソリン・オイル
	終業(午後)	時 分 ~ 時 分		駐車場利用料	円		
人名又は局課名		行き先及び経路		運行時間	高速・ 駐車場	<input type="checkbox"/> ラジエータ水 <input type="checkbox"/> その他の装置	
				: ~ :		入庫メーター	km
				: ~ :		出庫メーター	km
				: ~ :		本日走行キロ	km
				: ~ :		オイル補充量	ℓ
				: ~ :		ガソリン補充量	ℓ
				: ~ :		洗車 外部・ホース・バケツ	
				: ~ :		備考	
				: ~ :			
				: ~ :			

### 自動車運行報告書

運転年月日		平成 年 月 日 曜日				<input type="checkbox"/> 操縦装置(ハンドル部) <input type="checkbox"/> 制動装置(ブレーキ部)	
運転者名				車両番号	鹿児島 800 す 5963		
運行管理時間	始業(午前)	時 分 ~ 時 分		高速利用料	円		<input type="checkbox"/> 電気装置 <small>(前照灯・方向指示器等)</small> <input type="checkbox"/> ガソリン・オイル
	終業(午後)	時 分 ~ 時 分		駐車場利用料	円		
人名又は局課名		行き先及び経路		運行時間	高速・ 駐車場	<input type="checkbox"/> ラジエータ水 <input type="checkbox"/> その他の装置	
				: ~ :		入庫メーター	km
				: ~ :		出庫メーター	km
				: ~ :		本日走行キロ	km
				: ~ :		オイル補充量	ℓ
				: ~ :		ガソリン補充量	ℓ
				: ~ :		洗車 外部・ホース・バケツ	
				: ~ :		備考	
				: ~ :			
				: ~ :			

# 緊急自動車日常・月例点検手順

自動車及びモニタリングカー運用点検要領に記載の点検方法としてその手順を明記した

改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課
-----	-----------	------	-------




日常・月例点検手順

No.	点検項目	点検内容	実施方法および注意事項	備考
1	《運行前点検》 異常歴及び外観	運行において異常が認められた箇所の有無を確認	<p>全項について点検結果は「日常・月例車両点検結果表」の点検結果欄に記録する。</p> <p>(1) 前回の運行中における異常の有無を自動車運行報告書で確認する。</p> <p>(2) ボディーに凹みや傷がないかを確認する。</p> <p>(3) 異常がある場合、運転に支障がないかを判断する。</p> <p>(4) 前回報告の確認及び、運転に支障がないように措置が完了することで良好とする。</p>	<p>運転中に違和感があったら、運行報告書の備考欄に「異常あり(措置)」や「経過観察」情報を記載する。</p>
2	《運行前点検》 ブレーキ液	ブレーキ液量の目視確認	<p>(1) リザーバタンク内の液量が規定の範囲内(MAXとMIN)にあるかを目視確認する。</p> <p>(2) 液量が規定の範囲内(MAXとMIN)にあることで良好とする。</p>	
3	《運行前点検》 バッテリー液	バッテリー液量の目視確認	<p>(1) 車体を軽く揺らすなどして、液面が規定の範囲内(UPPERとLOWERの間)にあるか目視確認する。</p> <p>(2) 液量が規定の範囲以下である場合は補充する。補充は蒸留水又は補充液を入れる。</p> <p>(3) 液量が規定の範囲内(MAXとMIN)にあることで良好とする。</p>	<p>インジケータ表示も確認する。</p>
4	《運行前点検》 冷却水	冷却水量の目視確認	<p>(1) リザーバタンク内の水量が上限近くにあるかを確認する。</p> <p>(2) 液量の中から下限近くである場合は補充する。補充は、不凍液(ロングライフクーラント)を水で薄めたものを入れる。</p> <p>(3) 液量が上限近くであることで良好とする。</p>	

日常・月例点検手順

No.	点検項目	点検内容	実施方法および注意事項	備考
5	《運行前点検》 エンジンオイル	エンジンオイル量の目視確認	(1) オイルレベルゲージを一度拭き取り、再びしっかりと差し込んで抜き、ゲージに示された波の範囲内にあるかを確認する。 (2) オイルがレベルゲージの波の範囲内であることで良好とする。	
6	《運行前点検》 ウインド・ウォッシュ液	ウインド・ウォッシュ液量の目視確認	(1) ウインド・ウォッシュタンク内の液量が適当かを確認する。 (2) 液量が適量であることで良好とする。	
7	《運行前点検》 タイヤの空気圧	タイヤの空気圧の目視確認	(1) 目視でタイヤ接地部のたわみの状態により、適正な空気圧かどうかを確認する。 (2) 目視状況が整備直後の状態とほぼ同等であれば良好とする。	給油時などに空気圧確認を実施する。
8	《運行前点検》 タイヤの亀裂、損傷	タイヤの亀裂損傷状況の目視確認	(1) 著しい亀裂や損傷、石かみ、その他の異物穿刺がないか全タイヤについて確認する。 (2) 全タイヤとも異常がないことで良好とする。	
9	《運行前点検》 タイヤ摩耗	タイヤ摩耗溝の深さを計測確認	(1) 全タイヤについて、スリップサインの出現及び溝の深さを計測して確認する。 (2) スリップサインの出現がなく、溝の深さが1.7mm以上で良好とする。	

日常・月例点検手順

No.	点検項目	点検内容	実施方法および注意事項	備考
10	《運行前点検》 エンジン始動	エンジンのかかり具合を確認	(1) エンジンが速やか(5秒以内)に始動し、スムーズに回転するかどうかを確認する。 (2) エンジン始動時及びアイドリング状態で、異音がないかを確認する。 (3) 特に違和感を感じなければ良好とする。	
11	《運行前点検》 ランプ等	点灯点滅状態、レンズの汚れや損傷状況を確認	(1) 赤色灯、前照灯、車幅灯、尾灯、制動灯、後退灯、方向指示器灯について、玉切れがなく正常点灯するか確認する。 (2) 各灯のレンズの汚れや損傷がないかを確認する。 (3) 全灯とも異常がないことで良好とする。	
12	《運行前点検》 緊急時サイレン	サイレン、マイクの動作確認 	(1) 助手席下のサイレンランプ左側ボリュームボタンを押し電源を投入する。 (2) テストボタンを押して外部天井の警光灯が点灯回転し、サイレンが吹鳴するか確認する。 (3) シガーソケット近くに配置してあるマイクのボタンを、押しながら話すことで車外に音声が拡声されているか確認する。 (4) 各機能が正常に動作していることで良好とする。	
13	《運行前点検》 ブレーキペダル	ブレーキペダルの踏みしろ	(1) ブレーキペダルをいっぱい踏み込む。 (2) 踏みごたえの感覚(あまりかたい)に違和感がないか確認する。 (3) 整備工場における点検直後の踏み応え感覚であれば良好とする。	

日常・月例点検手順

No.	点検項目	点検内容	実施方法および注意事項	備考
14	《運行前点検》 駐車ブレーキ	駐車ブレーキの引きしろを動作確認	(1) パーキングブレーキレバー(ペダル)をゆっくり踏み込む。 (2) パーキングブレーキのノッチ数(踏みしろ)を確認する。 (3) 整備工場における点検直後の踏みしろと大差がなければ良好とする。	
15	《運行前点検》 ウインド・ウォッシュヤ	ウインド・ウォッシュヤ液の噴射状態、ワイパー拭き取り状態の動作確認	(1) ウインド・ウォッシュヤ液の噴射の向きや高さが適当か確認する。 (2) ウォッシュヤ液噴出口に詰まりがないか確認する。 (3) ウォッシュヤ液をきれいに拭き取れるか確認する。 (4) (1)～(3)全において確認の結果が適正であれば良好とする。	
16	《運行前点検》 エンジン	エンジン低速、加速状態の状況確認	(1) エンジンを暖機させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くかを確認する。 (2) 車両を走行させ、徐々に加速したときにアクセルペダルに引っ掛かりがなくエンジンがスムーズに回転するか確認する。 (3) ノッキング等違和感なくエンジンがスムーズに回転することで良好とする。	
17	《運行前点検》 ブレーキ	ブレーキのきき具合	(1) 乾燥した路面で低速走行させ、通常停止程度のブレーキをかける。 (2) 車体が無理なく進行方向にまっすぐ止まることを確認する。 (3) ブレーキのききが十分で、進行方向にまっすぐ止まることで良好とする。	

## 日常・月例車両点検結果表

点検日 平成 年 月 日  
点検者

No	点検項目	点検内容	点検結果
1	運行において異常が認められた箇所の有無	前日または前回の運行中に異常をみとめた箇所があったかを自動車運行報告書で確認し、あれば運行に支障がないかを点検する。	
2	ブレーキ液量	リザーバータンク内の液量が規定の範囲内(MAXとMIN)にあるかを点検する。	
3	バッテリー液量	6つの槽の液面が規定の範囲内(UPPERとLOWERの間)にあるか直接目視、インジケーターなどを利用して点検する。補充は、蒸留水又は補充液を入れる。	
4	冷却水量	リザーバータンク内の水量が規定の範囲内(UPPERとLOWERの間)にあるかを点検する。補充は、不凍液(ロングライフクーラント)を水で薄めたものを入れる。	
5	エンジンオイル量	オイルレベルゲージを一度拭き取り、再びいっぱいに差し込み抜いて、示された波に内にあるかを点検する。	
6	ウインド・ウォッシュ液量	ウインド・ウォッシュタンク内の液量が適当かを点検する。	
7	タイヤの空気圧	エアレベルゲージで指定の空気圧、又は、目視でタイヤ接地部のたわみの状態により、適正な空気圧かどうかを点検する。指定空気圧は運転席ドアや、センターピラー等のラベルに表示されているのを確認する。	
8	タイヤの亀裂、損傷	著しい亀裂や損傷、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないか全周(内側、外側等)にわたり点検する。	
9	タイヤ摩耗溝の深さ	異常な摩耗がないか、溝の深さに不足がないかをスリップサイン等で全周にわたり点検する。(道路運送法の保安基準は1.6mm以上である。)	
10	エンジンのかかり具合(異音等の有無)	エンジンが速やか(5秒以内)に始動し、スムーズに回転するか、また、エンジン始動時及びアイドリング状態で、異音がないかを点検する。	
11	点灯、点滅状態、レンズの汚れ、損傷	赤色灯、前照灯、車幅灯、尾灯、制動灯、後退灯、方向指示器灯等の点灯点滅具合、レンズの汚れや損傷がないかを点検する。	
12	サイレン、マイクの点検	助手席にまわりテストボタンでパトライトの点灯、サイレンを確認し、マイク機能を点検する。	
13	ブレーキペダルの踏みしろ	ブレーキペダルをいっぱい踏み込んだとき、床との隙間(踏み残りしろ)や踏み応えが適当であるかを点検する。	
14	駐車ブレーキの引きしろ	ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキレバー(ペダル)をゆっくり作動したときのノッチ数が、多すぎたり少なすぎたりしないかを点検する。	
15	ウインド・ウォッシュ液の噴射状態、ワイパー拭き取り状態	ウインド・ウォッシュ液の噴射の向きや高さが適当かを点検する。ワイパーの作動が不良でなく、ウォッシュ液をきれいに拭き取れるかを点検する。	
16	エンジン低速、加速状態	エンジンを暖機させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くか、また、徐々に加速したとき、アクセルペダルに引っ掛かりがなくエンジンがスムーズに回転するか、走行するなどして点検する。	
17	ブレーキのきき具合	乾燥した路面で低速走行してブレーキをかけたとき、ブレーキのききが十分で、進行方向にまっすぐ止まることを点検する。	

# 緊急時サーベイメータ作業手順書

## 改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課

# 緊急時サーベイメータ作業手順

原子力発電所の事故等の緊急事態が発生し、地域のモニタリングを目的として各地点の放射線量をサーベイする場合についての作業手順を示す。

## 1. 持出し機材等一覧(1班について)

持出し機材等	持出し対象物	数量
サーベイメータ	NaIサーベイメータ No.1	いずれか1台
	NaIサーベイメータ No.2	
	電離箱式サーベイメータ No.1	いずれか1台
	電離箱式サーベイメータ No.2	
ラミセス端末一式	NSRCL01	いずれか1式
	NSRCL02	
オイルコンパス	方位を確認できる方位計	1個
GPS	ハンディーGPS等※	1台
記録用紙	様式-緊急時サーベイ記録	測定箇所+予備
取扱い説明書(複写)	NaIサーベイメータ説明書	複写物1式
	モニタリング情報共有システム 成果物 2(8)システム操作手順書(屋内用端末)	複写物1式

※ GPS付きデジタルカメラや携帯電話等、手で現在地データが確認できるもの

## 2. 持出し機材等確認

- (1) 持出し物の点検を「様式-緊急時サーベイメータ使用前点検」に基づいて実施する。  
サーベイメータの運搬ケース自体は、汚染防止のため状況により持出さないことがあるので、対策官の指示を仰ぐ。
- (2) ラミセス端末一式については、運搬バッグに機材一式がそろっていることを確認して、持出す。

## 3. 測定

- 「様式-緊急時サーベイメータ測定」に基づいて実施する。
- 5  $\mu$  Sv/h 以下の測定は、NaIサーベイメータを使用する。
- 5~30  $\mu$  Sv/h の測定は、NaIと電離箱サーベイメータの両方を使用する。
- 30  $\mu$  Sv/h を超える測定は、電離箱式サーベイメータを使用する。

## 4. 記録

- (1) 「様式-緊急時サーベイ記録」に必要事項を記録する。
- (2) 対象測定地点の測定及び記録が終了したら、直ちにラミセス端末を立ち上げ「サーベイメータ測定結果一覧」画面より測定データを新規登録する。  
(備考欄に測定器のシリアルNoを記載しておく)

## 5. 汚染拡大防止

事務所へ戻る際、汚染の可能性のあるものは、別途対策官の指示に従い汚染物を建屋内へ持ち込まないように配慮する。

以上

# 緊急時サーベイメータ使用前点検確認シート

製品名:富士電機製エネルギー補償型シンチレーションサーベイメータ  
 型式:NHC711B2-BYY2Y-S

種類:NaI(Tl)EⅢ型 室外用

No.	作業区分	実施事項	確認
1	保管状況確認	保管場所内に行き、使用するサーベイメータの収納ケースを取り出す。	
		ケース中にサーベイメータ本体があるかを確認。	
		ケース中、もしくは本体内に必要な電池があるかを確認。	
2	管理状況	次回校正予定日または有効期限の表示の有無を目視確認。	
		点検日が有効期限内であるか確認。	
3	外観状況	本体に傷・破損はないか目視確認。	
		プローブに傷・破損はないか目視確認。	
		液晶表示部に傷・破損はないか目視確認。	
		コネクタ接続状態に異常はないか目視確認。	
4	動作状況	電源投入操作は正常にできるか確認。	
		線量率表示モード( $\mu$ Sv/h)であるかを確認。	
		時定数が10Secであるかを確認。	
5	電池消耗	電池残量表示が2個以上しているか確認。	
6	機器異常	エラー表示が表示されていないか確認。	
7	汚染防止	電源を切り、本体にビニール袋をかぶせ、袋の口元を絞ってビニールテープで縛る。	
		同様にもう一枚ビニール袋をかぶせて二重にする。	
		クッション材の入ったダンボール箱に詰めて、測定車に積む。	





# 緊急時サーベイメータ使用前点検確認シート

製品名:富士電機製電離箱式サーベイメータ

型式:NHA10123-11YYY-S

種類:円筒形電離箱 室外用

No.	作業区分	実施事項	確認
1	保管状況確認	保管場所内に行き、使用するサーベイメータの収納ケースを取り出す。	
		ケース中にサーベイメータ本体があるかを確認。	
		ケース中、もしくは本体内に必要な電池があるかを確認。	
2	管理状況	次回校正予定日または有効期限の表示の有無を目視確認。	
		点検日が有効期限内であるか確認。	
3	外観状況	本体に傷・破損はないか目視確認。	
		円筒形検出部に傷・破損はないか目視確認。	
		液晶表示部に傷・破損はないか目視確認。	
4	動作状況	電源投入操作は正常にできるか確認。	
		線量率表示モード( $\mu$ Sv/h)であるかを確認。	
5	電池消耗	電池残量表示が2個以上しているか確認。	
6	機器異常	エラー表示が表示されていないか確認。	
7	汚染防止	電源を切り、本体にビニール袋をかぶせ、袋の口元を絞ってビニールテープで縛る。	
		同様にもう一枚ビニール袋をかぶせて二重にする。	
		クッション材の入ったダンボール箱に詰めて、測定車に積む。	
8	GPS機能操作法	①見通しの良い野外で「GPS」ボタンを1回押す。	
		②GPS測定中マークが点滅し、約1分後に表示が消える。	
		③「FUNC」ボタンを5回押すと位置情報表示画面になる。	
		④「FUNC」ボタンを2回押すと基本表示画面に戻る。	

電離箱式サーベイメータのGPS機能は、度分の変則表示なので、注意する(xdd.mmmm→xdd度mm.mm分)。



# 緊急時サーベイメータ測定確認シート

製品名:富士電機製エネルギー補償型シンチレーションサーベイメータ

製品名:富士電機製電離箱式サーベイメータ

共通

No.	作業区分	実施事項	確認
1	ラミセス端末の立ち上げ	車の中でラミセス端末を組み立てる場所を決める。	
		シュガーライターソケットにDC-ACアダプターを差し込む。	
		PC、マウス、AC-DCアダプター、電源コードをつなぐ。	
		電源コードをDC-ACアダプターに差し込む。	
		エンジンを始動させて、DC-ACアダプター、PCの順に電源を入れる。	
		ログイン画面でパスワードを入力する。	
		PCが立ち上がったら、「全国ラミセス」を起動。モバイルを選択して「モニタリング情報共有システム」のメインメニューが立ち上がるか確認する。 「モニタリング情報共有システム」画面のサーベイメータ「測定値」ボタンより「サーベイメータ測定結果一覧」画面を表示させ、新規作成操作が可能か確認する。	
2	サーベイメータの暖機	出発する前にサーベイメータの電源を入れる。	
3	線量率モニター	移動中にサーベイメータからアラームがなった場合は、100 $\mu$ Sv/h以上の線量率区域に入ったことを示すので、Uターン可能な場所に車を止め、「EMC 測定分析担当 総括・連絡班」に連絡して指示を仰ぐ。	
4	測定	測定場所に到着後仮測定を実施し、適したサーベイメータを選択する。	
		記録用紙に必要事項を記入する。	
		ハンディGPS等で緯度経度を測定し、記録する。	
		検出器の方向についての指示があれば、オイルコンパス等で確認して向ける。	
		補助具等を用いて検出器の中心が地上1mになることを確認して、検出器を構える。 構えてから40秒後に最初の測定値を読み、その後10秒ごとに4回読み、記録する。	
5	測定データの入力	ラミセス端末メインメニューのサーベイメータ「測定値」ボタンをクリックすると、一覧表が表示される。「新規作成」のボタンをクリックすると、入力画面になる。 記録表に沿って入力する(緯度経度は度で入力する)。	
		入力が終わったら、間違いがないか確認した後、「登録」を押す。	
		一覧表になり、登録されたデータが表示されていれば、次の測定場所に移動する。	

## ラミセス端末の測定データ入力画面

組織ID	NRA-1班		
氏名・所属	池田和隆		
測定日時	2015-03-19 15:15:15		(yyyy-mm-dd hh:mm:ss)
測定装置	NaIシンチレーション式サーベイメータ		
地点名	地点マスタ	<input type="button" value="v"/>	
	発電所からの方位	W <input type="button" value="v"/>	距離 <input type="text" value="11.0"/> km 区分 <input type="button" value="地上"/> <input type="button" value="v"/> 高度 <input type="text" value=""/> m
	地点番号	<input type="text" value="1"/>	地点名称 <input type="text" value="事務所"/>
	緯度(世界測地系)	<input type="text" value="31.812224"/>	経度(世界測地系) <input type="text" value="130.305556"/> <input type="button" value="地図から取得"/>
測定値	<input checked="" type="radio"/> 検出 ( <input type="text" value="25.0"/> nSv/h <input type="button" value="v"/> ) <input type="radio"/> 不検出 ( <input type="text" value=""/> <input type="button" value="v"/> 以下 )		
天候	<input type="button" value="曇"/> <input type="button" value="v"/>		
備考	<input type="text" value="シリアル番号: 4A3631T"/>		



# 緊急時モニタリングポスト設置・回収作業手順書

## 改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課

# 緊急時モニタリングポスト設置・回収手順

原子力発電所の事故等の緊急事態が発生し、既存のモニタリングポストが使用不可となった場合に、本装置でその代用測定を一時的に行う。その際の設置・回収作業手順を示す。

## 1. 持出し機材等一覧

持出し機材等	持出し対象物	数量
簡易モニタリングポスト	モニタリング車に車載状態	必要台数
付属品一式	モニタリング車に車載状態	必要セット数
台車一式	モニタリング車に車載状態	必要セット数
オイルコンパス	方位を確認できる方位計	1個
記録紙	自動車運行報告書	適宜
手順書(複写)	自動車日常点検手順	複写物1式
	様式-MP取扱「簡易モニタリングシステム取扱手順」	複写物1式

## 2. 持出し機材等確認

- (1) 持出し物の点検を「様式-緊急時簡易MP設置」項目No.1に基づいて実施する。
- (2) 運転者の資格を「運転手管理台帳」により確認する。
- (3) 同時に緊急自動車運転の指名がされているかを確認する。
- (4) 該当車両の運行前点検を「自動車日常点検手順」に基づいて実施する。

## 3. 設置

「様式-緊急時簡易MP設置」に基づいて実施する。

## 4. 回収

測定期間終了後においては、「様式-緊急時簡易MP回収」に基づいて実施する。

## 5. 車両運行終了後

- (1) 当日の車両使用後に、「自動車運行報告書」へ必要事項を記録する。
- (2) 緊急走行を実施した場合は、「緊急走行実施結果報告書」を作成し、監視情報課へ提出報告する。

以上

# 設置手順確認シート

※ 車両から測定点への台車運搬が必要ない場合は、網掛け部分の工程を省略する。

No.	作業区分	実施事項	確認
1	作業計画	設置箇所、台数指示を確認	
2	付属品確認(1セット)	付属品セットが目的の管理番号であることを確認	
		鍵3種類	
		DCケーブル×2本	
		検出器ケーブル×1本	
		ローレットネジ×4個	
		検出器BOX×1個	
		ラッシングベルト×1本	
		台車(台車補強金具付き)×1台	
		搬送板×1個	
		台車固定板×1個	
3	車両運行前点検	エンジンはスムーズに始動したか、異音がないかを確認する。	
		前回の運行中における異常の有無を自動車運行報告書で確認する。	
		タイヤ接地部のたわみの状態目視で空気圧確認する。	
		タイヤ亀裂や損傷、石かみ、その他の異物穿刺がないか確認する。	
		前照灯、方向指示器灯等正常に点灯するか確認する。	
		シートやハンドル、ミラーの位置を調整する。	
		ブレーキペダルをいっぱい踏み込み、違和感がないか確認する。	
		ガソリンが燃料計の4分の1以上あるか確認する。	
		エンジンオイルの警告灯が消灯しているかを確認する。	
		温度計が低温を指示しているか確認する。	
		ウォッシュ液の噴射状況、ふき取り具合を確認する。	
		助手席下のサイレンアンプ左側ボリュームボタンを押す。	
		ボリュームボタンを右いっぱい回し、マイクのテストをする。	
警光燈ボタンを押し、外部天井の警光燈が点灯回転するかを確認する。			
自動4秒ボタンを押し、サイレンが吹鳴するか確認する。			
公道に出る前の一時停止時に、ブレーキのききを確認する。			
4	移動	設置する箇所へ移動する。	
5	台車組み立て1	台車が目的の管理番号であることを確認	
		台車のハンドル部を伸ばし、横のレバーで固定する。	
		搬送板を台車に置き、ローレットネジ4個で固定する。	
		台車固定板をグリップに被せ、台車と搬送板を固定する。	
	装置本体を分離	FOMAアンテナが倒れているかを確認する。	
		パチン錠をすべて外し、上部より1つずつ車外へ運び出す。	
6	本体装置組み立て	架台・バッテリーBOX2台を順次台車に載せ、パチン錠で固定する。	
		測定BOXを載せ、パチン錠で固定する。	
		ラッシングベルトを締めて台車と本体を固定する。	
		台車との一体化を確認する。	
7	運搬	本体台車・検出器BOX・付属品の管理番号一致を確認	
		上記3点を目的の測定場所へ移動させる。	
	測定前解体	ラッシングベルトを外す。	
		パチン錠をすべて外し、上部より1つずつ台車から離す。	

# 設置手順確認シート

No.	作業区分	実施事項	確認
8	台車組み立て2	最下部の架台を分離し、ローレットネジが4個付いているL字型のフレームを外す。	
		L字を外向きに付け換える。	
		ローレットネジは外側穴に2個使用して留める。(残り2個は後で使用)	
		台車の底板の下に架台フレームが挟むように台車に配置する。	
		内側のローレットネジ2個を使用して台車に固定する。	
		方位磁石で南方確認。	
		台車の底板を南方向に向ける。	
		バッテリーBOX(下)を乗せる。	
		バッテリーBOX(上)を乗せる。	
		計測BOXを乗せる。	
		すべてのパチン錠を掛ける。	
		方位磁石で南方確認。	
		衛星アンテナカバーの斜面を南方向に向ける。(台車ごと)	
		検出器BOXの設置方向確認。(車輪側にBOX)	
	台車のグリップ部に、上から検出器BOXをしっかりと差し込み、ねじ止めする。		
	本体装置配線	ケーブルの管理タグ方端子が本体側となる原則を確認。	
		計測器「DC入力」⇔ バッテリーBOX 間をケーブル接続する。	
他方の計測器「DC入力」⇔ バッテリーBOX 間をケーブル接続する。			
計測器「検出器接続」⇔ 検出器 間をケーブル接続する。			
		FOMAアンテナを直立させる。	
9	測定運転	鍵①を使用してバッテリーBOX(上)の扉を開ける。	
		バッテリースイッチをON(上側)にする。	
		鍵①を使用してバッテリーBOX(上)の扉を閉める。	
		鍵①を使用してバッテリーBOX(下)の扉を開ける。	
		バッテリースイッチをON(上側)にする。	
		鍵①を使用してバッテリーBOX(下)の扉を閉める。	
		鍵①を使用して計測BOXの扉を開ける。	
		POWER SWを「ON」にする	
		自動で測定が始まることを確認する。	
	鍵①を使用して計測BOXの扉を閉める。		
		衛星端末の感度LEDが3つ点灯しているか確認する。 点灯が2つ以下ならば衛星アンテナの向きを微調整してみる。	
起動状況を確認	線量率が表示されるかを確認する。		
	異常時はLCD画面2行目に「ERR」が表示される。		
10	移動	複数台数設置の場合は、次の設置場所へ移動する。	
	設置	本手順確認シートのNo.4～No.8を実施する。	
11	運行報告	「自動車運行報告書」へ必要事項を記録する。	
		緊急走行を実施した場合は、「緊急走行実施結果報告書」を作成する。	

# 回収手順確認シート

※ 車両から測定点への台車運搬が必要ない場合は、網掛け部分の工程を省略する。

No.	作業区分	実施事項	確認
1	作業計画	回収箇所、台数指示を確認	
2	付属品確認(1セット)	鍵3種類 ラッシングベルト×1本	
3	車両運行前点検	エンジンはスムーズに始動したか、異音がないかを確認する。 前回の運行中における異常の有無を自動車運行報告書で確認する。 タイヤ接地部のたわみの状態目視で空気圧確認する。 タイヤ亀裂や損傷、石かみ、その他の異物穿孔がないか確認する。 前照灯、方向指示器灯等正常に点灯するか確認する。 シートやハンドル、ミラーの位置を調整する。 ブレーキペダルをいっぱい踏み込み、違和感がないか確認する。 ガソリンが燃料計の4分の1以上あるか確認する。 エンジンオイルの警告灯が消灯しているかを確認する。 温度計が低温を指示しているか確認する。 ウォッシュ液の噴射状況、ふき取り具合を確認する。 助手席下のサイレンアンプ左側ボリュームボタンを押す。 ボリュームボタンを右いっぱいに回し、マイクのテストをする。 警光燈ボタンを押し、外部天井の警光燈が点灯回転するかを確認する。 自動4秒ボタンを押し、サイレンが吹鳴するか確認する。 公道に出る前の一時停止時に、ブレーキのききを確認する。	
4	移動	回収する箇所へ移動する。	
5	運転停止	鍵①を使用して計測BOXの扉を開ける。 「ボタン2」を2秒以上押す。 LCD画面に「Please wait…」と表示されることを確認。 LCD画面に「Safe to turn off」と示されることを確認。 POWER SWを「OFF」にする。 鍵①を使用して計測BOXの扉を閉める。 鍵①を使用してバッテリーBOX(上)の扉を開ける。 バッテリースイッチをOFF(下側)にする。 鍵①を使用してバッテリーBOX(上)の扉を閉める。 鍵①を使用してバッテリーBOX(下)の扉を開ける。 バッテリースイッチをOFF(下側)にする。 鍵①を使用してバッテリーBOX(下)の扉を閉める。	
6	回収	FOMAアンテナを倒す。 各接続ケーブルを外す。 ケーブル端子キャップをすべて閉める。 検出器BOXを取り外す。 すべてのパチン錠を外す。 計測BOXを台車から離す。 バッテリーBOX(上)を台車から離す。 バッテリーBOX(下)を台車から離す。 ローレットネジをすべて外し、架台を離す。 L字型のフレームを架台にあて(運搬体制)4個のローレットネジを締める。	



# 回収手順確認シート

※ 車両から測定点への台車運搬が必要ない場合は、網掛け部分の工程を省略する。

No.	作業区分	実施事項	確認
7	本体装置組み立て	架台・バッテリーBOX2台を順次台車に載せ、パチン錠で固定する。	
		測定BOXを載せ、パチン錠で固定する。	
		ラッシングベルトを締めて台車と本体を固定する。	
		台車との一体化を確認する。	
	運搬	本体台車・検出器BOX・付属品を保管場所へ移動させる。	
	収納前解体	ラッシングベルトを外す。	
パチン錠をすべて外し、上部より1つずつ台車から離す。			
8	収納	管理番号別に指定した保管場所を確認する。	
		台座のベルト固定位置により、本体装置を配置する向きを確認する。	
		架台を底面凸部(4つ)が台座穴に合うようにはめ込む。	
		引続き、バッテリーBOX下、バッテリーBOX上、計測BOXを順次乗せる。	
		すべてのパチン錠を掛ける。	
		車載ベルトで本体装置を固定する。	
		台車から台車固定板、及び、搬送板を外し、台車を折りたたむ。	
		上記3点を後部座席等に収納する。	
		検出器BOXおよび付属品を収納する。	
9	移動	複数台数回収の場合は、次の設置場所へ移動する。	
	回収	本手順確認シートのNo.5～No.8を実施する。	
10	運行報告	「自動車運行報告書」へ必要事項を記録する。	
		緊急走行を実施した場合は、「緊急走行実施結果報告書」を作成する。	

# 緊急時走行モニタリングシステム作業手順書

## 改訂記録

制定日	2015年4月1日	担当部署	監視情報課

# 緊急時走行モニタリングシステム作業手順

原子力発電所の事故等の緊急事態が発生し、周辺地域の放射線量の情報を収集する場合に、車載された本装置で放射線量測定を行う。その際の作業手順を示す。

## 1. 持出し機材等一覧

持出し機材等	持出し対象物	数量
鍵	走行モニタリングシステム用の2種類の鍵	1個セット
測定機器、付属品類	簡易MP、走行MS測定計画指示による	同左
記録紙	自動車運行報告書	適宜
手順書(複写)	自動車日常点検手順	複写物1式
	様式-MS取扱「走行モニタリングシステム取扱手順」	複写物1式
	様式-走行MS点検手順-2	複写物1式
	様式-簡易MP設置「設置手順確認シート」	複写物1式

## 2. 運行前

- (1) 簡易モニタリングポスト(簡易MP)車載時は、当日のMP設置作業の有無を確認の上、予め全ての簡易MP及び付属品一式を降ろし事務所へ保管するなど、走行MSでの測定に支障がないように当日の搭載車運用計画をたてる。  
(走行MSで測定は簡易MPの車載がない状態で実施しなくてはならない)
- (2) 運転者の資格を「運転手管理台帳」により確認する。
- (3) 同時に緊急自動車運転の指名がされているかを確認する。
- (4) 該当車両の運行前点検を「自動車日常点検手順」に基づいて実施する。

## 3. 測定

- (1) すでに測定状態であるので、「様式-MS取扱」項目No.12により状況を確認する。
- (2) 「様式-走行MS取扱」項目No.10により電源を投入する。  
(車自体のエンジン、車載機器3種、走行MS本体の電源投入)
- (3) 車載パソコン電源を投入し、システムを起動させて「様式-走行MS取扱」項目No.11により測定を開始させる。(本体SWを入れて約30分後からの測定値を有効とする)

## 4. 記録

車載パソコンを起動させ、「様式-走行MS点検手順-2」項目No.5を参照してデータ伝送状況を確認する。

## 5. 測定停止

- (1) 「様式-走行MS取扱」項目No.13により停止操作を実施する。
- (2) 車両の車庫入れ、が済み、エンジンを停止する前に、「様式-走行MS取扱」項目No.10の逆順で各スイッチを切る。
- (3) 当日の車両使用後に、「自動車運行報告書」へ必要事項を記録する。
- (4) 緊急走行を実施した場合は、「緊急走行実施結果報告書」を作成し、監視情報課へ提出報告する。

以上

# 作業手順確認シート

No.	作業区分	実施事項	確認
1	簡易MP運用の確認	当日の簡易MP設置指示があるかどうか確認。	
		あれば、簡易MP設置手順確認シートで付属品を確認する。	
		当日不要な簡易MPを車から降ろし、保管場所へ移動させる。	
2	付属品確認	鍵2種類の確認。	
3	車両運行前点検(1)	エンジンはスムーズに始動したか、異音がないかを確認する。	
4	電源投入	最下段のDC/ACインバータ電源を入れる。	
		2段目の衛星車載端末電源を入れる。	
		最上段の衛星FAXアダプタ電源を入れる。	
		走行モニタ本体の電源を入れる。	
		車載パソコンの電源を入れる。	
5	車両運行前点検(2)	前回の運行中における異常の有無を自動車運行報告書で確認する。	
		タイヤ接地部のたわみの状態目視で空気圧確認する。	
		タイヤ亀裂や損傷、石かみ、その他の異物穿刺がないか確認する。	
		前照灯、方向指示器灯等正常に点灯するか確認する。	
		シートやハンドル、ミラーの位置を調整する。	
		ブレーキペダルをいっぱい踏み込み、違和感がないか確認する。	
		ガソリンが燃料計の4分の1以上あるか確認する。	
		エンジンオイルの警告灯が消灯しているかを確認する。	
		温度計が低温を指示しているか確認する。	
		ウォッシュ液の噴射状況、ふき取り具合を確認する。	
		助手席下のサイレンアンプ左側ボリュームボタンを押す。	
		ボリュームボタンを右いっぱい回し、マイクのテストをする。	
6	システム起動	緊急時モニタリングシステムの起動を確認する。	
		「収集・計測制御」ボタンを押下する。	
		デフォルト値確認 : 電源投入時自動データ収集開始 “しない”	
		デフォルト値確認 : データ収集方法 “連続”	
		デフォルト値確認 : 移動軌跡保存 記録周期 “60秒”	
		デフォルト値確認 : データ送信 送信周期 “10分”	
		デフォルト値確認 : データ送信 データ種別 “1分値”	
		デフォルト値確認 : データ送信 移動軌跡送信 “する”	
		それぞれの「開始」ボタンを押下する。	
		右上の「閉じる」ボタンを押下して初期画面へ戻る。	
		初期画面より、「収集・計測データ表示」ボタンを押下する。	
リアルタイムマップ画面が表示されるので、測定値表示を確認する。			
7	車両運行前点検(3)	公道に出る前の一時停止時に、ブレーキのききを確認する。	
8	簡易MPの設置	簡易MP設置手順シートの4～10に従って設置する。	
9	移動	測定場所へ移動する。	
10	測定	測定場所に停止した時の時刻を記録用紙に記入する。	
		その時刻を除いた5分間測定する。	
		測定後、次の測定場所へ移動する。	

## 作業手順確認シート

No.	作業区分	実施事項	確認
11	システム終了	画面右上部の「閉じる」ボタンを押下する。	
		「収集・計測制御」ボタンを押下する。	
		それぞれの「停止」ボタンを押下する。	
		画面右上部の「閉じる」ボタンを押下する。	
		初期画面の「終了」ボタンを押下して、システムを閉じる。	
		パソコンをシャットダウンする。	
12	電源切断	車庫入れ完了後、走行モニタ本体の電源を切る。	
		最上段の衛星FAXアダプタ電源を切る。	
		2段目の衛星車載端末電源を切る。	
		最下段のDC/ACインバータ電源を切る。	
		車のエンジンを切る。	
13	運行報告	「自動車運行報告書」へ必要事項を記録する。	
		緊急走行を実施した場合は、「緊急走行実施結果報告書」を作成する。	

